福岡市埋蔵文化財調査報告書第1031集

TA　MURA

田村15

—田村遺跡第21次調査報告—

2009

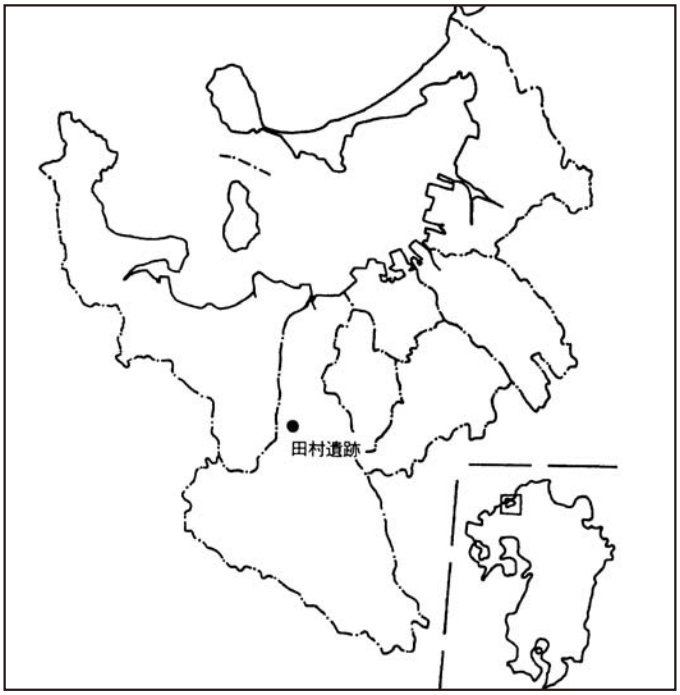
福岡市教育委員会

TA　MURA

田村15

—田村遺跡第21次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1031集



調査番号　0652

調査略号　TMR-21

2009

福岡市教育委員会

序

現在、九州の中枢都市として発展をつづける福岡都市圏の人口は、増加の一途をたどっており、これらにともなう開発事業等によって消滅していく遺跡も数多くにのぼっています。

本市では文化財の保護につとめ、これら開発によってやむなく失われる遺跡を記録として後世に残すため発掘調査をおこなっています。

本書もそうしたなかのひとつで、早良区田村4･5丁目地内において市道有田重留線道路改築事業に伴って発掘調査を実施した田村遺跡第21次調査の記録を収録したものであります。

調査の結果、縄文時代から中世にわたる集落が確認され、長きにわたって本地域が発展し続けた事を示す良好な資料を得ることができ、集落を研究するうえで貴重な資料を得ることができました。

つきましては、本書が市民の皆様の文化財に対する認識とご理解につながり、学術の分野に貢献する事ができましたなら幸いに存じます。

また、ご協力をいただきました関係者各位、地元をはじめ調査を支えられた多くの方々に深く感謝致します。

平成21年3月31日

福岡市教育委員会

教育長　　山田　裕嗣

例　　言

1. 本書は本市道路下水道局道路建設部西部道路建設課が実施した早良区田村4･5丁目地内において市道有田重留線道路改築事業にともなう事前調査として、福岡市教育委員会埋蔵文化財第2課が3箇年計画中の初回、平成19年･20年度に実施した田村遺跡第21次調査の調査報告書である。

2. 本書で用いる方位は旧国土座標第2系による座標北で、磁北はこれに6°10′西偏する。

3. 調査区は旧国土座標第2系を基軸として5m方眼グリッドを設定し、グリッド呼称は北西交点とした。

4. 遺構の呼称は略号化し、土廣→SK･不定形土壙→SX･溝→SD･井戸→SE･掘立柱建物→SB･柱穴→SPとした。

5. 本書に使用した遺構実測図は加藤良彦･川嶋京子･三村悦子･田中昭子･辻節子による。

6. 本書に使用した遺物実測図は加藤･平川敬治･井上加代子･米倉法子･による。

7. 製図は井上加代子･副田則子･撫養久美子による。

8. 本書に用いた遺構･遺物写真は加藤が、全景等空中写真撮影と全景写真デジタルモザイク処理は写測エンジニアリング株式会社に委託した。

9. 本書の執筆･編集は加藤が行った。

10. 本書にかかわる記録類･遺物は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵管理されるので活用されたい。

本　文　目　次

Ⅰ.はじめに……1
1．調査に至る経過……1
2．調査の組織……1

Ⅱ.調査区の立地と環境……2

Ⅲ.調査の記録……7
1．調査の概要……7
2．1区の調査……8
3．2区の調査……35
4．3区の調査……39
5．4区の調査……41

Ⅳ.小結……69

挿　図　目　次

Fig.1　周辺遺跡分布図(1/25,000)……3
Fig.2　調査区位置図(1/8,000)……4
Fig.3　調査区周辺測量図(1/1,000)……5
Fig.4　1区土層断面図(1/60)……8
Fig.5　SK25･38･SD59(1/40)･SX20･21･22(1/80)実測図……8
Fig.6　SK25･38･SX20･21･22･SD59出土遺物実測図(1/3･2･3＝2/3)……10
Fig.7　SD06･53(1/60)･57･58(1/40)実測図……11
Fig.8　SD06･53･57出土遺物実測図(1/3･15 ～ 17･19＝2/3)……12
Fig.9　SD01土層断面図(1/60)……13
Fig.10　SD01出土遺物実測図(1/3)……13
Fig.11　SK15･16･23(1/40)･SD11(1/60)･12(1/80)実測図……15
Fig.12　SK15出土遺物実測図(1/3)……16
Fig.13　SK16･土壙検出面出土遺物実測図(1/3)……18
Fig.14　SK16出土遺物実測図(1/5)……19
Fig.15　SK23･SD11･12出土遺物実測図.1(1/3)……20
Fig.16　SK23出土遺物実測図.2(1/5)……21
Fig.17　SK24･29･30･49(1/40･1/80)･SD02･03･07･14･34･39･40･63土層断面図(1/60)……23
Fig.18　SK24･29･30･49･SD33･40･41出土遺物実測図(1/3)……24
Fig.19　SE52･62実測図(1/60)……25
Fig.20　SE52･62出土遺物実測図(1/3･109 ～ 111＝1/4)……26
Fig.21　SB01･02･03実測図(1/80)……27
Fig.22　SB04･05･06･07実測図(1/80)……28

Fig.23　SB02･03･04･05･07他柱穴出土遺物実測図(1/3･130＝1/4)……29
Fig.24　包含層出土遺物実測図(1/3)……31
Fig.25　混入その他の出土遺物実測図.1(1/3･178＝1/2)……32
Fig.26　混入その他の出土遺物実測図.2(2/3･188＝1/3)……34
Fig.27　2区遺構全体図(1/250)･東壁土層断面図(1/40)……35
Fig.28　2区SK09･SX10(1/40)･SB01(1/80)実測図……36
Fig.29　2区SK01･05･06･07･08(1/40)･SD02･03･04(1/60)実測図……37
Fig.30　2区SB02実測図(1/80)……38
Fig.31　2区SK01･SD02出土遺物実測図(1/3･6･7＝2/3)……38
Fig.32　3区遺構全体図(1/200)……39
Fig.33　3区SK01･03(1/40)･SD02(1/60)･SB01･02(1/40)SP(1/20)実測図……40
Fig.34　3区SK01･SD02･SP他出土遺物実測図(1/3･5＝2/3)……41
Fig.35　4区遺構全体図(1/300)……42
Fig.36　4区SK07･08･16･17･22･24(1/40)･SB10(1/100)実測図……43
Fig.37　4区SK07出土遺物実測図(1/3･6＝2/3)……44
Fig.38　4区SK08出土遺物実測図.1(1/3)……47
Fig.39　4区SK08出土遺物実測図.2(1/3)……48
Fig.40　4区SK08出土遺物実測図.3(1/3･26 ～ 35＝2/3)……49
Fig.41　4区SK16出土遺物実測図.1(1/3)……51
Fig.42　4区SK16出土遺物実測図.2(1/3)……52
Fig.43　4区SK17･22･24出土遺物実測図(1/3)……54
Fig.44　4区SB10他SP出土遺物実測図(1/3･58 ～ 63＝2/3･64＝1/2)……54
Fig.45　4区包含層出土遺物実測図(1/3･77 ～ 84＝2/3)……55
Fig.46　4区混入･検出面出土遺物実測図(1/3･94＝2/3)……57
Fig.47　4区SK05･06(1/60)･02･10･28･SE15･26(1/40)実測図……58
Fig.48　4区SK02･05･06･10･SE15･26出土遺物実測図(1/3)……59
Fig.49　4区SD09･27実測図(1/80･1/60)……60
Fig.50　4区SD09･27出土遺物実測図(1/3)……61
Fig.51　4区SB01実測図(1/100)……63
Fig.52　4区SB03実測図(1/100)……64
Fig.53　4区SB04実測図(1/100)……65
Fig.54　4区SB06実測図(1/100)……66
Fig.55　4区SB02･05･07･08･09実測図(1/100)……68
Fig.56　4区SB01･02･04柱穴他出土遺物実測図(1/3)……57

写　真　目　次

Ph.1　調査区全景(南から)……5
Ph.2　1区全景(南から)……7
Ph.3　AE85南壁土層断面(北から)……9
Ph.4　X17SE52土層断面(西から)……9
Ph.5　SK25(西から)……9
Ph.6　SX22(南から)……9

Ph.7　1区縄文時代遺物……10
Ph.8　SD06土層断面(北西から)……11
Ph.9　SD06(北西から)……11
Ph.10 SD52土層断面(南から)……12
Ph.11 SD01土層断面(南から)……13
Ph.12 SD01(北西から)……14
Ph.13 SK15(東から)……14
Ph.14 SK15土層断面(東から)……14
Ph.15 SK15出土遺物……14
Ph.16 SK16検出状況(東から)……15
Ph.17 SK16検出状況(南から)……16
Ph.18 SK16土層断面(南から)……16
Ph.19 SK16遺物出土状況(東から)……17
Ph.20 SK16完掘状況(東から)……17
Ph.21 SK16完掘状況(南から)……17
Ph.22 SK23土層断面(西から)……17
Ph.23 SK23遺物出土状況(東から)……17
Ph.24 SK23遺物出土状況(南から)……17
Ph.25 SK16出土遺物……21
Ph.26 SD11(北西から)……22
Ph.27 SD12(北から)……22
Ph.28 SK23・SD11出土遺物(西から)……22
Ph.29 SK24(北から)……22
Ph.30 SD03(北から)……22
Ph.31 SD07(北東から)……24
Ph.32 SD02(北から)……24
Ph.33 SD14(北から)……24
Ph.34 SD34・39・40(西から)……24
Ph.35 SE52中段(西から)……25
Ph.36 SE52敷石(西から)……25
Ph.37 SE52完掘状況(北から)……25
Ph.38 SE62(南東から)……25
Ph.39 SE52出土遺物……26
Ph.40 建物群全景(南から)……28
Ph.41 南部建物群全景(南から)……28
Ph.42 SB01・02・03(南から)……29
Ph.43 北部建物群全景(東から)……29
Ph.44 SB04・05・06・07(南から)……30
Ph.45 SP出土遺物……30
Ph.46 包含層出土遺物……31
Ph.47 1区混入その他の遺物……33
Ph.48 2区遠景(南から)……35
Ph.49 2区全景(西から)……35
Ph.50 2区SK01(西から)……36

Ph.51 2区焼土壙SK07(東から)……36
Ph.52 2区SK05(南から)……36
Ph.53 2区SK06(南西から)……36
Ph.54 2区SK08(西から)……37
Ph.55 2区SD04(南から)……37
Ph.56 2区SD02土層断面(南から)……38
Ph.57 2区SD02(南から)……38
Ph.58 3区遠景(西から)……39
Ph.59 3区全景(西から)……40
Ph.60 3区SK01(南から)……40
Ph.61 3区SD02(南から)……41
Ph.62 3区0-53SP4土師器(南から)……41
Ph.63 4区遠景(南から)……41
Ph.64 4区全景(西から)……42
Ph.65 4区SK07(東から)……45
Ph.66 4区SK07出土遺物……45
Ph.67 4区SK08(東から)……49
Ph.68 4区SK08出土遺物……50
Ph.69 4区SK16(東から)……53
Ph.70 4区SK16出土遺物……53
Ph.71 4区SP出土縄文遺物……56
Ph.72 4区包含層出土縄文遺物……56
Ph.73 4区混入その他の縄文遺物……57
Ph.74 4区SK05(北から)……59
Ph.75 4区SK06(西から)……59
Ph.76 4区SE15(東から)……59
Ph.77 4区SE26土層断面(北から)……59
Ph.78 4区SE26(西から)……60
Ph.79 4区SD09(北西から)……60
Ph.80 4区SD27(西から)……60
Ph.81 4区SD27遺物出土状況(南から)……60
Ph.82 4区SD出土中世遺物……62
Ph.83 4区SP他出土中世遺物……68

Ⅰ.はじめに

1.調査に至る経緯

今回の調査は、早良区田村4･5丁目･重留7丁目地内において、福岡市道路下水道局道路建設部西部道路建設課が市道有田重留線道路改築事業計画策定に当たって、埋蔵文化財の有無の照会のため、平成18年6月9日に事前審査願いが埋蔵文化財第1課に提出された事により始まる。申請面積は16,200㎡、受付番号は18-1-35である。

埋蔵文化財課で確認した所、申請地が田村遺跡の範囲内であり、状況を把握するため同年8月23･24日と同年11月8日確認調査を実施し、その結果4箇所で弥生時代～中世にわたる溝･土壙･柱穴を検出した。

本課では原局と協議を重ねたが、結果として現状保存は困難と判断した。そのため遺跡の確認された4箇所において事前の発掘調査を実施する事となった。

発掘調査は平成18年11月8日に着手、19年4月27日に全ての行程を終了した。

調査番号	0652	遺跡略号	TMR-21
調査地地籍	早良区田村4･5丁目地内	分布地図番号	84(重留)0317
開発面積	16,200㎡	調査実施面積	3,977㎡
調査期間	061108 ～ 070427	事前審査番号	18-1-35

2.調査の組織

【調査委託】道路下水道局道路建設部西部道路建設課

【調査主体】福岡市教育委員会　教育長　植木とみ子(当時)山田裕嗣

【調査総括】　平成18年度文化財部長　山崎純男(当時)　　埋蔵文化財第2課　長力武卓治(当時)
調査第1係長　池崎譲二(当時)
平成19年度文化財部長　矢野三津夫　　埋蔵文化財第1課長　山口譲治
調査係長　米倉秀紀

【調査庶務】平成18年度文化財管理課　後藤泰子(当時)　平成19年度管理課　鈴木由喜(当時)

【発掘調査】加藤良彦

【発掘作業】芦馬光夫　樋口スミ子　川嶋京子　松尾和子　柴藤清志　青木和代　青木真孝
佐藤直利　三村悦子　染井美保子　野田英機　岩永いさ子　脇山千代　美菅野武
尾崎泰正　永井ゆり子　藤野美恵　前田和之　吉積百合子　脇田誠二　須佐恵司
田中昭子　西口キミ子　高橋茂子　山西人美　西嶋ムラ子　西嶋洋子　土生ヨシ子
脇坂ミサヲ　川岡涼子　西納富士夫　梅野眞澄　辻節子　松本順子　三谷朗子
木田ひろ子

【整理作業】木村厚子　国武真理子　南里三佳　竹田幸子　平川泰代

II.調査区の立地と環境

田村遺跡は福岡市の都心より西へ6km、博多湾岸より南へ5kmの地点、室見川が貫流する早良平野の東部中央の沖積微高地に立地し、遺跡は東西約760･南北約850mの範囲に展開し、標高は15～17mを測る。

遺跡周辺は室見川を中心とする河川の沖積作用によって形成された低平な地形であり、75年以降の宅地開発･学校建設等が始まるまでは集落が点在する以外は一面の水田であった。近年の開発の増加に伴い、四箇･鶴町(免)･原･次郎丸高石･拾六町ツイジ･石丸古川等これら低地での遺跡の実体が明かになりつつある。

田村遺跡群では20次にわたる調査が実施され、縄文時代早期から江戸時代に至る複合遺跡である事が確認されている。中心となるのは縄文時代後晩期･弥生時代･平安時代後期から室町時代初頭の三時期である。

縄文後晩期は埋甕･溝などがみとめられ、遺物は遺跡の全域で検出される。集落は明かでない。

弥生時代は前期の甕棺墓群･竪穴などが検出され、中期後半には河川内に井堰･杭列などの水利施設が構築され、微高地上には集落が形成される。

河川は奈良時代までに埋没し、平安後期から室町初期にかけ、多数の掘立柱建物群が検出され、200棟を越える建物群の有り様と多量の輸入陶磁器の検出から、該期の早良平野内での拠点集落と目され、中世集落研究において重要な遺跡となっている。

以下、各調査の概要を列記する。

第1次調査　4世紀後半の土壙･10世紀代の土壙等
第2次調査　縄文後晩期埋甕、弥生中期の河川･井堰　古代～中世の12～13世紀を中心とする柵･掘立柱建物群･竪穴住居･土壙墓等
第3次調査　弥生前期～中期の竪穴住居･土壙･河川･杭列　古墳時代の水田　11世紀代を中心とする掘立柱建物･井戸等
第4次調査　縄文後晩期の土器･石器　11世紀代を中心とする古代～中世の掘立柱建物群･竪穴･井戸等
第5次調査　縄文後晩期の溝･土壙　弥生前期の甕棺墓群　11～14世紀代の掘立柱建物100棟以上･井戸11基･土壙･溝等拠点的集落
第6次調査　縄文後晩期のピット等
第7次調査　5世紀前半の竪穴住居　12世紀後半～13世紀代の溝･土壙等
第8次調査　12世紀後半～13世紀代の区画溝等
第9次調査　縄文晩期の土器･石器　中世の溝･土壙等
第10次調査　中世の溝等
第11次調査　中世の溝等
第12次調査　中世の溝･土壙･井戸等
第13次調査　平安前半～鎌倉時代の掘立柱建物･土壙･溝等
第14次調査　平安時代掘立柱建物等
第15次調査　平安時代掘立柱建物等
第16次調査　旧河川等
第17次調査　弥生中期前半～後半の竪穴住居･溝等
第18次調査　古代～中世の掘立柱建物等
第19次調査　中世の溝等
第20次調査　縄文時代の旧河川　弥生前期末～中期後半の溝･土壙等

Fig.1　周辺遺跡分布図(1/25,000)

Fig.2　調査区位置図(1/8,000)

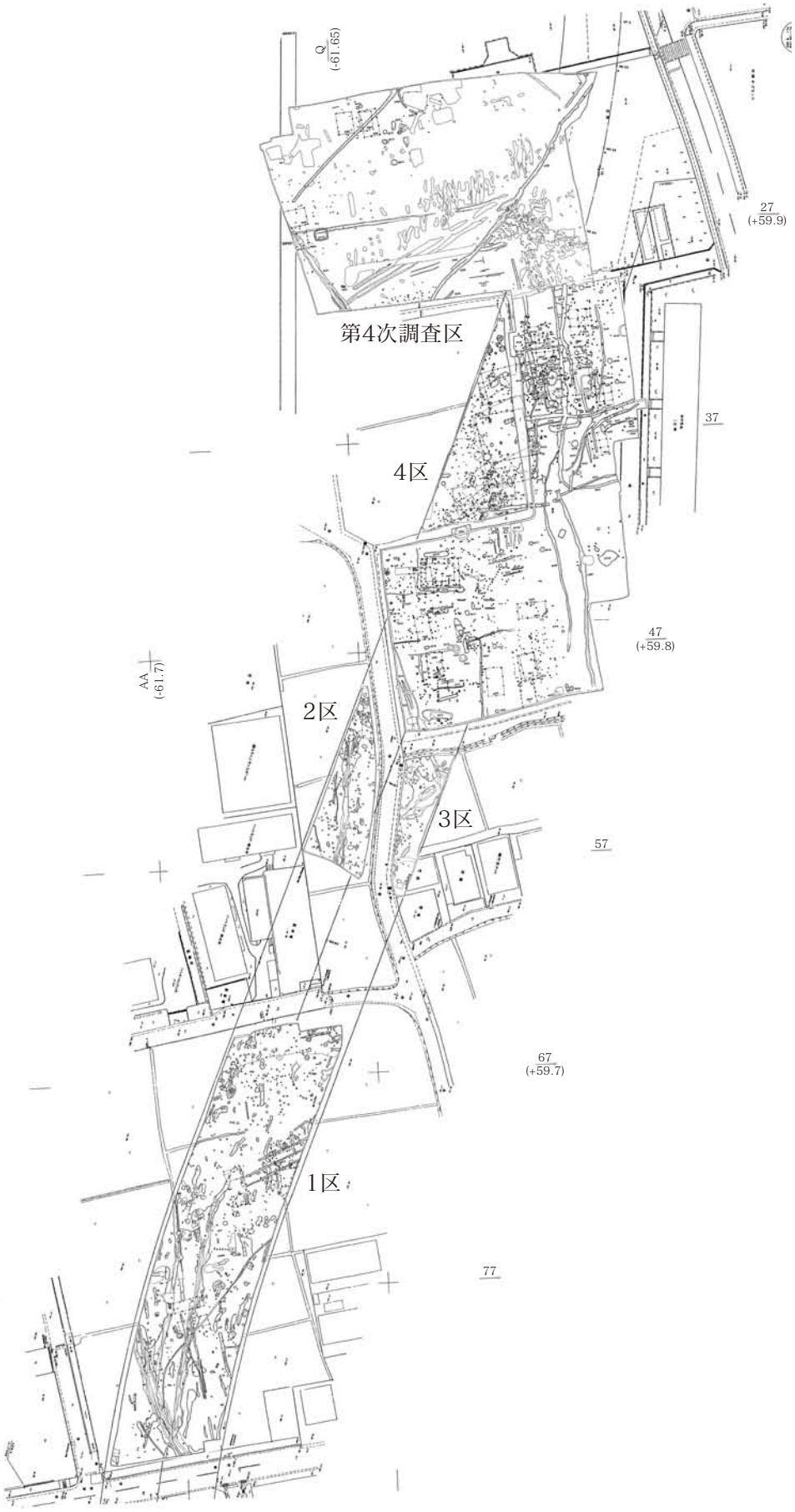


Fig.3　調査区周辺測量図(1/4,000)

Ph.1 調査区全景(南から)

Tab.1　発掘調査一覧

調査次数	調査番号	調査原因	調査面積	調　査　期　間	調　査　報　告　書
1	7803	学校建設	3,000㎡	1978.10.11～1978.12. 2	福岡市埋蔵文化財調査報告書第70集　1981
2	8034 …… 8035	団地建設	2,650㎡	1980.12. 5～1981. 4.14	福岡市埋蔵文化財調査報告書第89集　1982 福岡市埋蔵文化財調査報告書第104集　1984
3	8144 …… 8145 …… 8146	団地建設	12,820㎡	1981. 4.22～1982. 5.15	福岡市埋蔵文化財調査報告書第167集　1987
4	8233	団地建設	8,500㎡	1983. 1.20～1983. 6.15	福岡市埋蔵文化財調査報告書第216集　1990
5	8404	学校建設	17,000㎡	1984. 7. 1～1985. 7. 6	福岡市埋蔵文化財調査報告書第192集　1988
6	8429	店舗建設	800㎡	1984. 8. 1～1984. 9.10	整理中
7	8447	道路建設	1,800㎡	1984.12. 1～1984.12.29	福岡市埋蔵文化財調査報告書第168集　1987
8	8847	道路建設	632㎡	1988.12. 2～1989. 3.11	福岡市埋蔵文化財調査報告書第384集　1994
9	8934	公民館建設	540㎡	1989. 7. 5～1989. 8.16	福岡市埋蔵文化財調査報告書第302集　1992
10	8970	道路建設	600㎡	1990. 2. 8～1990. 3.31	福岡市埋蔵文化財調査報告書第524集　1997
11	9059	道路建設	656㎡	1991. 1.16～1991. 3. 9	福岡市埋蔵文化財調査報告書第384集　1994
12	9242	道路建設	512㎡	1992.10.26～1992.12.14	福岡市埋蔵文化財調査報告書第385集　1994
13	9247	道路建設	581㎡	1992.12. 1～1993. 1.30	福岡市埋蔵文化財調査報告書第384集　1994
14	9248	団地建設	1,500㎡	1992.11.30～1993. 1.31	福岡市埋蔵文化財調査報告書第423集　1995
15	9320	団地建設	740㎡	1993. 6.17～1993. 7.31	福岡市埋蔵文化財調査報告書第423集　1995
16	9321	施設建設	80㎡	1993. 6.28～1993. 6.29	福岡市埋蔵文化財年報　Vol.8　1995
17	9358	道路建設	372㎡	1994. 1.15～1994. 2. 5	福岡市埋蔵文化財調査報告書第524集　1997
18	9624	住宅建設	500㎡	1996. 8. 2～1996. 8. 7	福岡市埋蔵文化財調査報告書第612集　1999
19	9728	住宅建設	315㎡	1997. 7.24～1997. 8. 8	福岡市文化財年報　Vol.12　1999
20	9748	住宅建設	377㎡	1997.10.20～1997.11.14	福岡市埋蔵文化財調査報告書第611集　1999

Ⅲ.調査区の記録

1.調査の概要

今回の調査は遺跡東部を南北に貫通する幅27mの道路の改築工事に伴うもので、3箇年計画の初年度調査である。計画路線中遺跡の確認されたブロックごとに南から調査第1 ～ 4区の調査区を設定した。現況は水田･畑地と宅地である。昭和58年度実施した第4次調査区の西と南北に隣接する。

調査は旧国土座標第2系の座標北に合わせ、5mグリッドを設定した。排土は場内処理となっていたため、各調査区で反転調査を実施している。最大範囲の調査第1区から18年11月8日より重機による表土剥ぎに着手し、16日より作業員を導入し遺構検出を開始した。19年2月28日から調査終了日まで擁壁建設工事と同時進行となり、擁壁部分から優先的に調査を実施し、終了部から工事着工の手順で行った。第1区で3分割･第2･4区で2分割し、全景写真は各分区毎の空中写真をモザイク処理し合成している。調査第2区の第2分区は調査期間中に条件整備が整わず、19年度秋に調査を実施している(第22次調査)。第1区は3月16日に調査完了、第2区は1月31日着手･3月29日完了、第3区3月26日着手･4月25日完了、第4区2月13日着手･4月26日完了と、分区の引き渡しまで含めると複雑な工程を実施し、4月27日に調査機材を撤収し調査を完了した。調査期間中3度の空中写真撮影を実施している。

Ph.2 1区全景(南から)

基本層位はFig.4で示す様に、上層から耕作土(a･b層)･黄褐色混砂土の床土(c層)･灰褐色砂質土の中世包含層(d層)となり、部分的に暗灰褐色土の縄文晩期包含層が遺存し、遺構検出面の灰褐色～淡黄褐色シルト～砂礫の沖積微高地堆積層(1 ～ 5層)上面となる(Fig.4)。遺構検出はd層を除去した段階で実施した。地形は、1区南は湿地で四箇遺跡と分断され、1･2区間が東西方向の自然流路で分断される。4区は西に緩傾斜し微高地縁辺に近く、このため縄文晩期包含層の堆積が最も厚い。

検出した遺構は、縄文時代晩期の土壙20基･溝2条、弥生時代前期末を中心に土壙2基･溝7条、古墳時代前期溝2条･土壙1基、中世土壙29基･溝27条･掘立柱建物19棟以上･井戸4基で、縄文晩期と中世が中心を占める。遺物は、包含層･土壙から縄文時代晩期土器･石器を、中世溝･土壙を中心に土師器坏･皿･瓦器･土器窯壁･貿易陶磁器などコンテナ22箱分を検出している。

2.　1区の調査

本調査の最南部に位置し最大範囲の調査区で調査面積2,694㎡。検出面標高16.6mでほぼ水平だがAA73―T69 ～ 66ラインで礫層が露出し少なくとも60㎝は削平されており、地形は南東･北西に傾斜し溝の多くはこれに直交･平行する。北側で自然流路･南側で低湿地に面する。遺構は縄文晩期が9基･弥生8基･古墳2基･中世47基と、中世初頭が中心となる。

1).縄文時代の調査

遺構は調査区中～北部に分布し、削平が深い高位部に晩期の土壙3基･不整形土壙4基･溝2条を検出した。遺構から遊離した状態で早期後半期の押型文土器を検出している。

①土壙:**SK25**(Fig.5Ph.5)V72グリッドに位置する円形土壙で1.05×0.92m･深さ5㎝。覆土は灰褐色砂質土で、中央の床面より若干浮いて粗製深鉢胴部の破片が出土した。

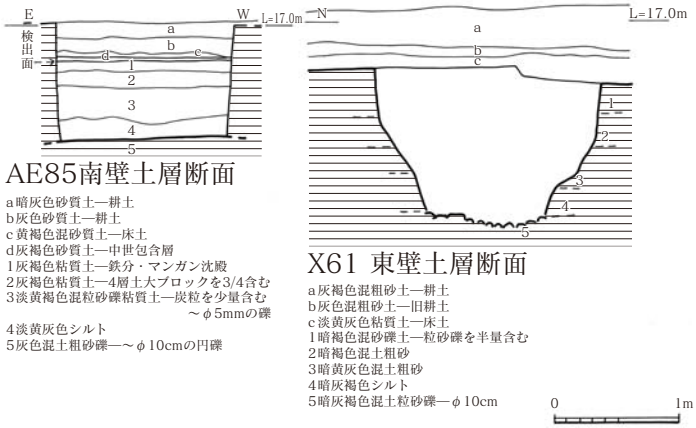


Fig.4　1区土層断面図(1/60)

出土遺物(fig.6)**1**は晩期粗製深鉢の胴部片。外面頸部下に指頭圧痕とヘラナデ、内面はケズリ様のヘラナデ下位が黒変。灰黄褐～黒褐色で砂粒を多く含む。

SK38(Fig.5)X72グリッドに位置する長台形の土壙で5.08×2.88m･深さ20㎝。床面は両端部が窪む。黒川式期の粗製深鉢片･黒耀石石錐が出土。

出土遺物(fig.6)**2**は黒耀石石錐。横長剥片主剥面左辺に主剥面から刃部形成。

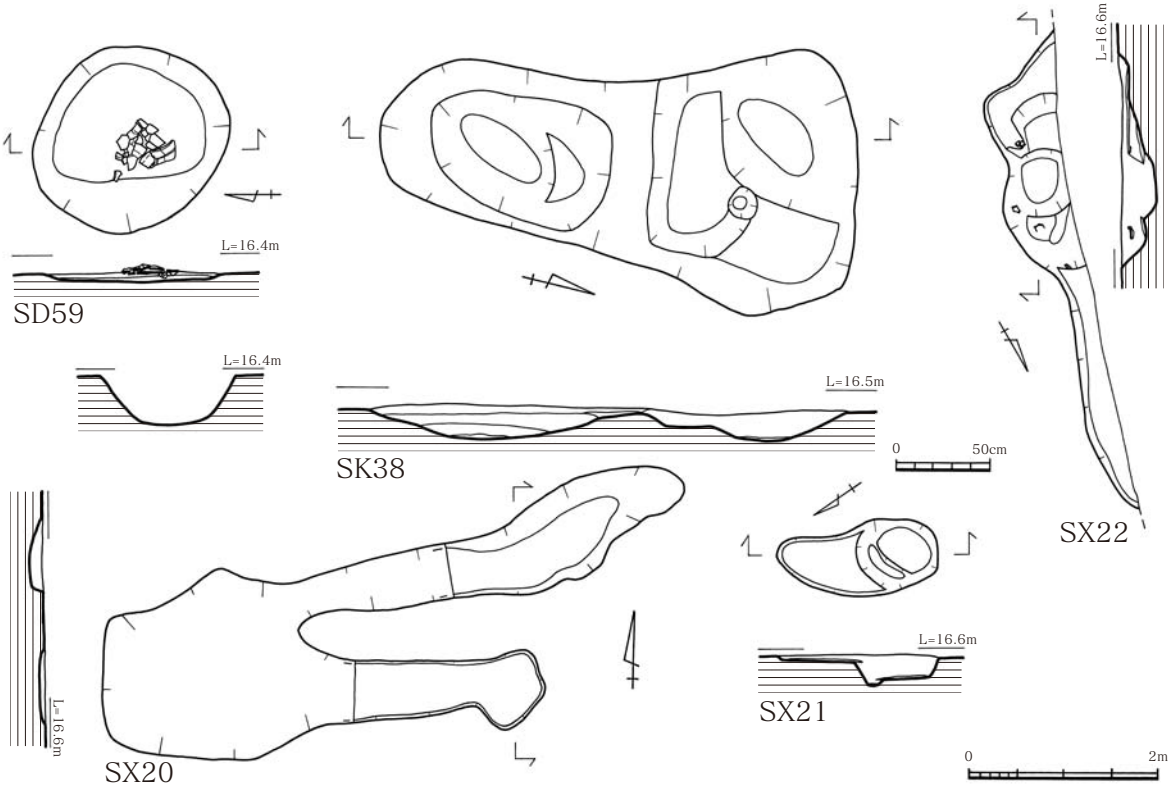


Fig.5　SK25･38･SD59(1/40)･SX20･21･22(1/80)実測図

②**溝**　北端と南部でSD13･59の2条を検出した。ともに東西方向に方位をとる。

Ph.3　AE85南壁土層断面(北から)

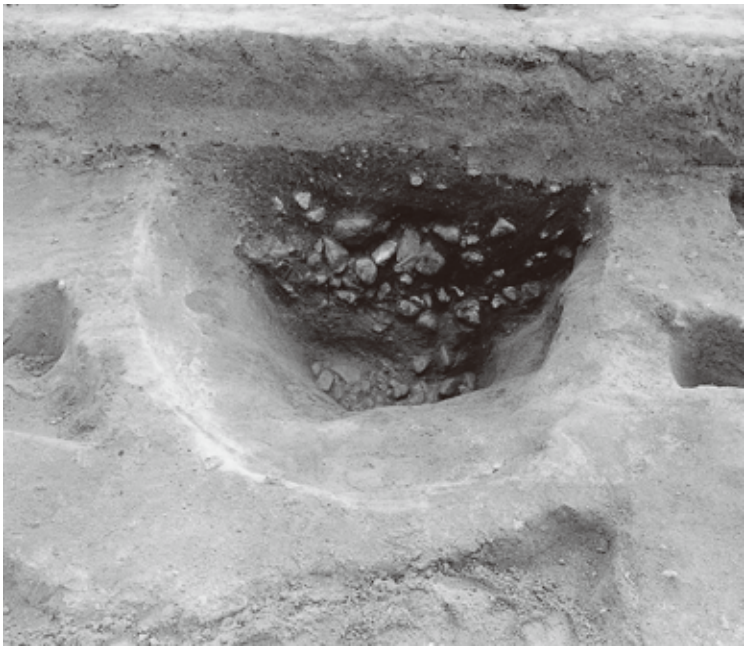
SD59(Fig.5)北端V72グリッドに位置し、地形変換線(段落ち)に並行する。幅70･深さ34㎝程で、覆土は暗褐色砂質土。

出土遺物(Fig.6)**3**は使用痕を有するサヌカイト剥片。打面を直角に転換した裏剥側から半折した横長剥片の下辺部を使用する。

③**不整形土壙**　北部で1基･中部で3基検出した。包含層･倒木痕･自然流路の類である。

SX20(Fig.5)中央Y75グリッドに位置し、地形に並行。平面二股状で6.5×2.04m･深さ30㎝。覆土は暗褐色砂質土。

出土遺物(Fig.6)**4･5**は晩期粗製深鉢の胴部片。**4**は外面ナデ内面ヨコ条痕。**5**は内外ヨコ条痕。外面鈍い黄橙内面灰黄褐色。



Ph.4　X17SE52土層断面(西から)

SX21(Fig.5)中央AB75グリッドに位置し、平面沓形で1.72×0.8m･深さ26㎝。南が円形に一段窪む。

出土遺物(Fig.6)**6**は黒川式期粗製深鉢の肩部片。外面ヨコ条痕内面ケンマ様のナデ。外面鈍い黄橙色内面灰黄褐色。胎土に多数の小孔を含む。

SX22(Fig.5Ph.6)SX21の西に隣接。地形に直交し5.1×0.76+αm･深さ37㎝。覆土は暗褐色砂質土。

出土遺物(Fig.6)土器片がやや多く、**7**は肩が張る晩期粗製深鉢小片。内外面条痕で口縁内面は指頭圧痕にヨコナデ。鈍い黄橙色で角閃石含む。

Ph.5　SK25(西から)

Ph.6　SX22(南から)

Ph.7　1区　縄文時代遺物

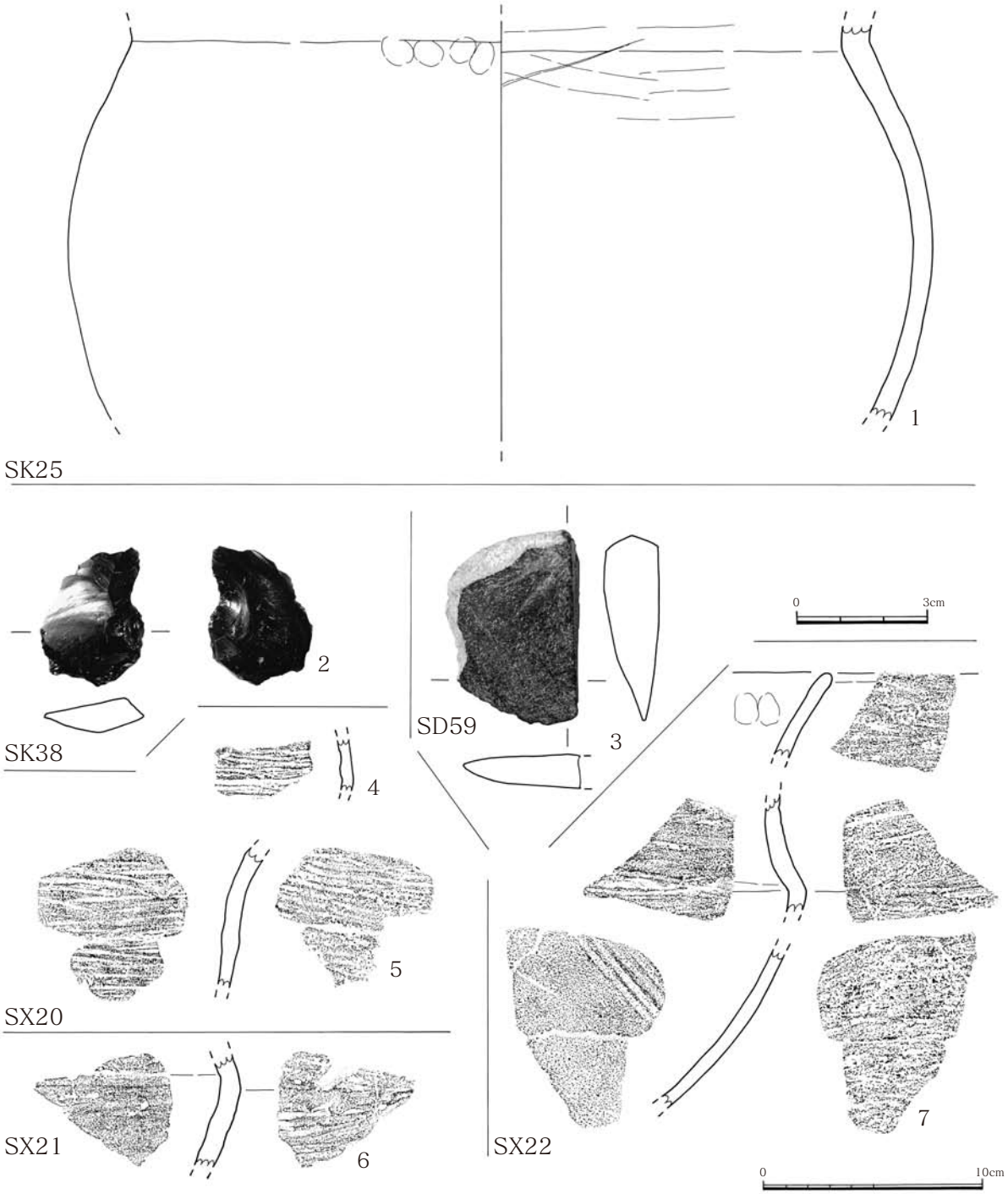


Fig.6　SK25･38･SD59･SX20･21･22　出土遺物実測図(1/3･2･3＝2/3)

Ph.8　SD06土層断面(北西から)

Ph.9　SD06(北西から)

2).弥生時代の調査

遺構は少なく、北東部と南西部に分布し、前期末～中期前半を中心に土壙SK55･60の2基･溝7条を検出した。

溝　北東部で3条南西部で4条を検出した。ともに微高地部を囲むように西に弧を描いて配置される。

SD06(Fig.7Ph.8 ～ 9)AC78 ～ AA84グリッドに位置し南流する。大部分をSD01に切られる。幅1.8･深さ50㎝程で、覆土の大部分を粗砂･シルトが占める。

出土遺物(Fig.8)**8･10**は板付Ⅰ式壺。**8**は口縁で内面に指頭圧痕が残る。浅黄橙色。**10**は底径10㎝。内外面ナデ。外面鈍い黄橙内面灰黄褐色。**9**は須玖Ⅰ式壺。底径7㎝。外面ケンマ内面ヨコナデ。外面灰黄褐内面浅黄橙色。**11**は板付IIA式甕。口唇外端に刻目。他はナデ。外面灰褐色内面鈍い黄橙色。**12･13**は中期初頭甕。**12**は三角口縁外端･突帯に刻目。外面タテハケ内面指頭圧痕にナデ。褐灰色。**13**は逆「L」字口縁外端に刻目。外面タテハケ内面ナデ。灰黄褐色。**14**は夜臼式深鉢。底径11.2㎝。内外面ナデ。外面鈍い橙色内面褐灰色。**15 ～ 17**は黒耀石石核。**15**は30×28×15㎜の薄い角礫素材。四方からの打面調整後2側面で剥離。

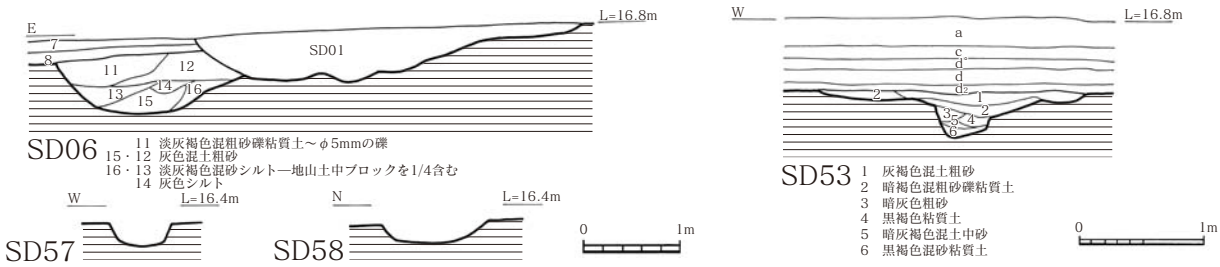


Fig.7　SD06･53(1/60)･57･58(1/40)実測図

16は33×25×15㎜。打面半円形。円弧辺で5枚剥離。**17**は20×27×30㎜の角礫素材。1打の打面整形後4側全面で剥離。以上縄文晩期～中期前半までを含む。

SD53(Fig.7Ph.10)北東T64グリッドに位置し北流する。SD54に切られる。幅2.1･深さ35㎝程で、中央で幅45㎝程一段下がる。床面から粘質土と砂が交互に堆積する。

出土遺物(Fig.8)**18**は中期後半の器台。口径13㎝。外面タテハケ。内面裾部はヨコハケ。粗い石英粒を多く含み外面灰黄褐色内面鈍い褐色を呈する。他に叩石が出土。

Ph.10　SD52土層断面(南から)

SD57(Fig.7)北東S65グリッドに位置し北流する。SD58を切りSD54に切られる。幅0.33･深さ20㎝程で、覆土は暗灰褐色砂質土。

出土遺物(Fig.8)**19**は今山玄武岩製太形蛤刃石斧の刃部剥片。刃厚5㎝程か。

SD58(Fig.7)北東S65グリッドに位置し西流する。SD57に切られ、幅0.79･深さ20㎝程で、覆土は暗褐色砂質土。弥生土器小片が出土。

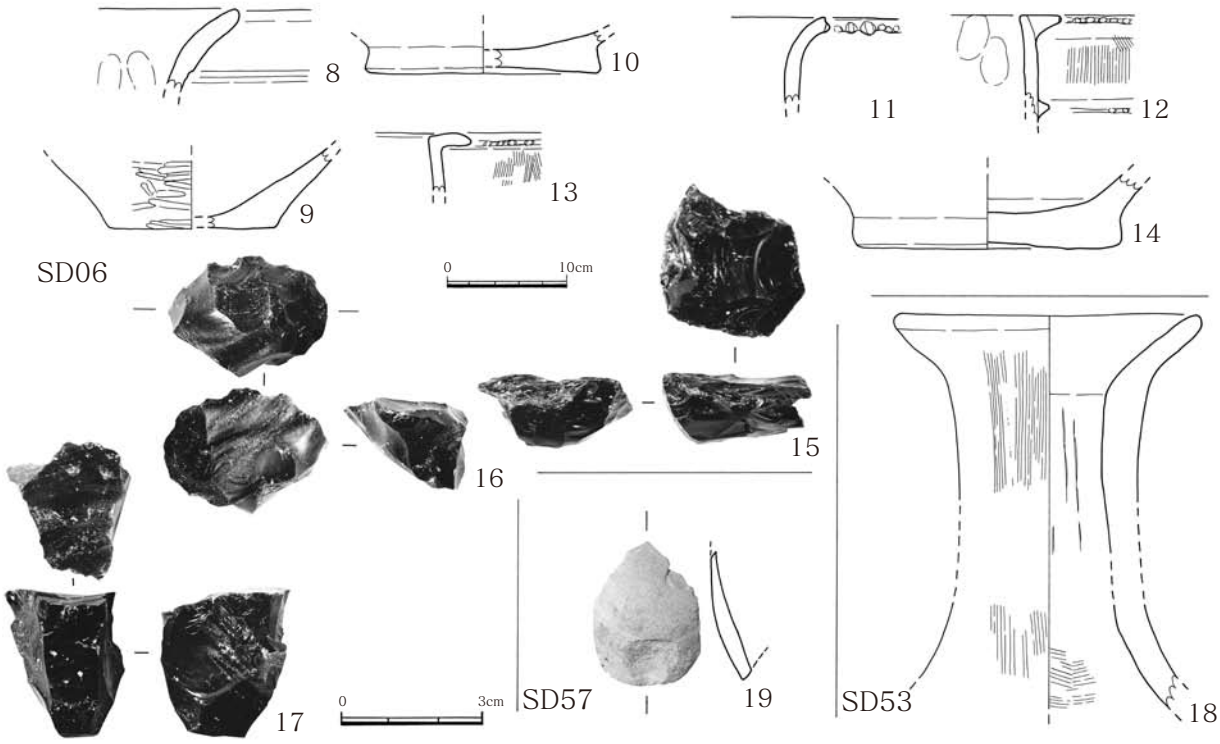


Fig.8　SD06･53･57出土遺物実測図(1/3･15 ～ 17＝2/3)

3).古墳時代の調査

遺構は弥生時代と重なり北東部と南西部に分布し、溝2条のみで遺構は最も少ない。

溝　北東部でSD54を南西部でSD01を検出した。弥生時代同様、微高地部を囲むように西に弧を描いて配置される。

Ph.11　SD01土層断面(南から)

SD01(Fig.9Ph.11 ～ 12)AC78 ～ AA84グリッドに位置し大部分を弥生時代SD06に重ねる。底面はこれとは逆に北流する。最大幅3.05m･深さ40㎝程で、床上と上面に粗砂が堆積する。

出土遺物(Fig.8)**20 ～ 23**は上面の粗砂層出土。**20**はⅣ期須恵器坏身。立ち上がりを欠くが受け部径14㎝。灰色。**21 ～ 23**は土師器。**21**は坩。口径9㎝。内外面ナデ。鈍い黄橙色。**22**は坏。ナデで口縁内面は細かなヨコハケ。外面赤褐内面鈍い黄橙色。**23**は布留式系甕口縁。口唇面取りし内外面ヨコナデ。浅黄橙色。**24 ～ 28**は上面砂層下の下層出土。**24**は鋤先

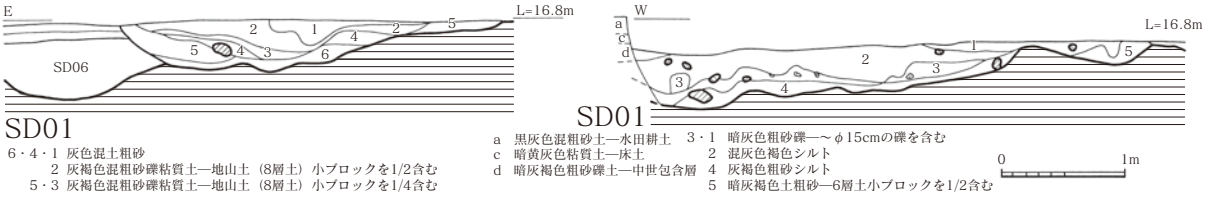


Fig.9　SD01土層断面実測図(1/60)

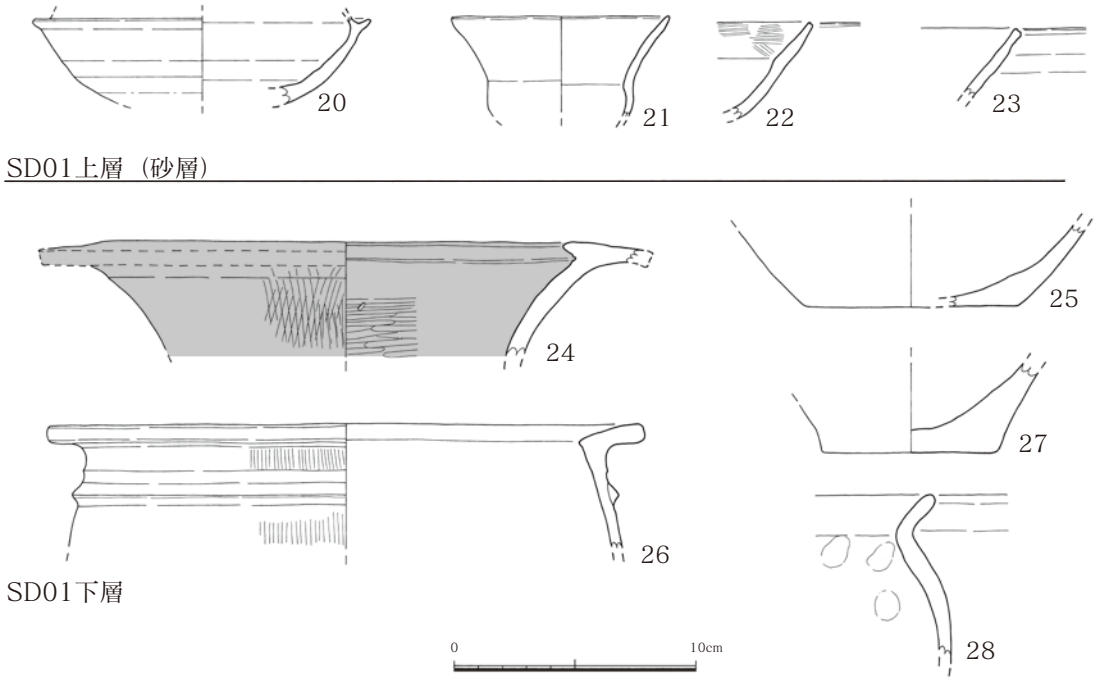


Fig.10　SD01出土遺物実測図(1/3)

口縁壺。復元口径25.6㎝。外面タテハケ内面ヨコケンマ。籾殻圧痕が残る。内外面丹塗り。**25**は丹塗り甕か樽形甕底部。径9㎝。**26 ～ 28**は甕で**26**は口径25㎝。外面タテハケ内面ナデ。橙色。**27**は底径7.3㎝。内外面ナデ。鈍い黄橙色。**28**は後期。内外面ナデ。内面頸部に指頭圧痕。鈍い橙色。以上下層出土土器は土師器を少量出土するが大勢は弥生中期後半の土器が占める。同期の可能性もあるが、切り合うSD06他からの混入も考えられ、古墳前期初頭と考える。

Ph.12　SD01(北西から)

4).古代･中世の調査

本調査区の主体を占める時期で遺構は調査区中～南部の西に弧を描く溝を中心に分布し、土壙14基･溝24条･掘立柱建物7棟･井戸2基と集落の体を成している。

①土器焼成関係遺構 AA78グリッド付近に集中して多量の炭灰層･破裂剥片･焼成窯壁･土器焼成台等を出土する窯関連の廃棄土壙3基･溝2条を検出している。

土壙SK15(Fig.11Ph.13 ～ 15)AA79グリッドに位置する円形土壙でSK16とともに建物SB02を囲むように配置。1.67×1.3m･深さ10㎝。覆土中に炭灰層をはさみ窯壁･焼土粒･土師器･黒色土器･瓦器埦等の破片を多く出土。黒色土器･瓦器が多い。炭灰層からは少量の破裂剥片を検出。

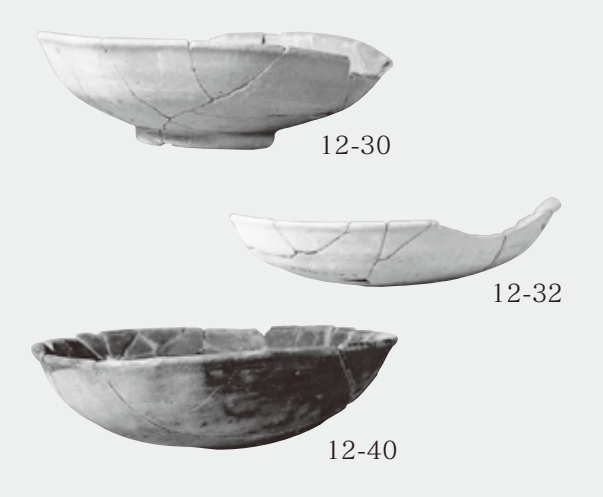
出土遺物(Fig.12)**29 ～ 33**は土師器。**29**は口径16.4器高7.4㎝。浅黄橙色。**30**は口径16器高6.6㎝。内面ヘラナデ。鈍い黄橙色。**31**は口径10器高1.3㎝。内外回転ナデ。鈍い黄橙色。**32**は口径16器高3.8㎝。内外回転ナデ。浅黄橙色。**33**は内外回転ナデ。浅黄橙色。**34･35**は黒色土器A類。**34**は外浅黄橙内浅黄橙～灰黒色。**35**内底はケンマ。外鈍い黄橙内灰黒色。**36 ～ 39**は黒色土器B類。**36**は口径15.4器高7㎝。外浅黄橙～淡灰内淡灰色。**37**は外口縁は回転ナデ。内外鈍い橙～灰黒色。**38**は外回転ナデ内ヘラナデ。外鈍い黄橙～灰黒内灰黒色。**39**は口径15.6器高3.2㎝。内外回転ナデ。
鈍い橙～灰黒色。**40･41**は瓦器埦。**40**は外灰黒～淡灰色内淡灰色。**41**は外回転ナデ高台脇にヘラナデ。内口縁以下にヘラナデ。内外灰色。以上11世紀末～ 12世紀初頭。

Ph.13　SK15(東から)

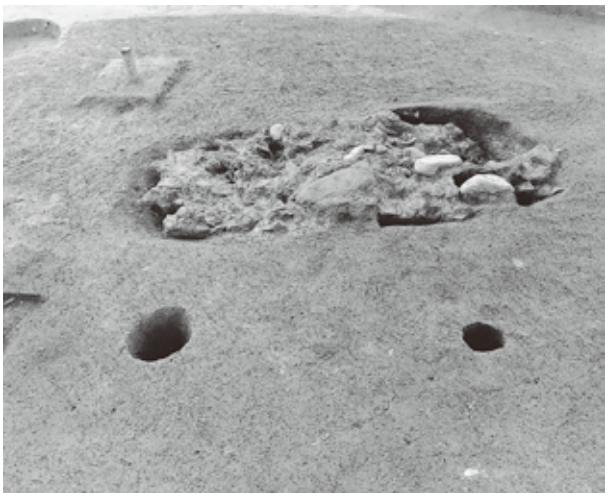
Ph.14　SK15土層断面(東から)

土壙SK16(Fig.11Ph.16 ～ 18)SK15の北に位置する隅丸長方形土壙で2.06×0.86m･深さ30㎝。下層に炭灰層を、上層に窯壁･灰白粘土を多量に含みコンテナ4箱分出土。下層から焼土粒･焼損した土師器･黒色土器･瓦器埦･焼成台等の破片を多く出土。炭灰層からは少量の破裂剥片を検出。

出土遺物(Fig.13･14)**42･43**は黒色土器B類。**42**は口径9器高1㎝。内外回転ナデ黒色。**43**は内面調整不明。灰黒色。**44 ～ 47**は瓦器埦。**44**は口径15.6器高6.2㎝。口縁内外回転ナデ。暗灰色。**45**



Ph.15　SK15出土遺物



Ph.16　SK16検出状況(東から)

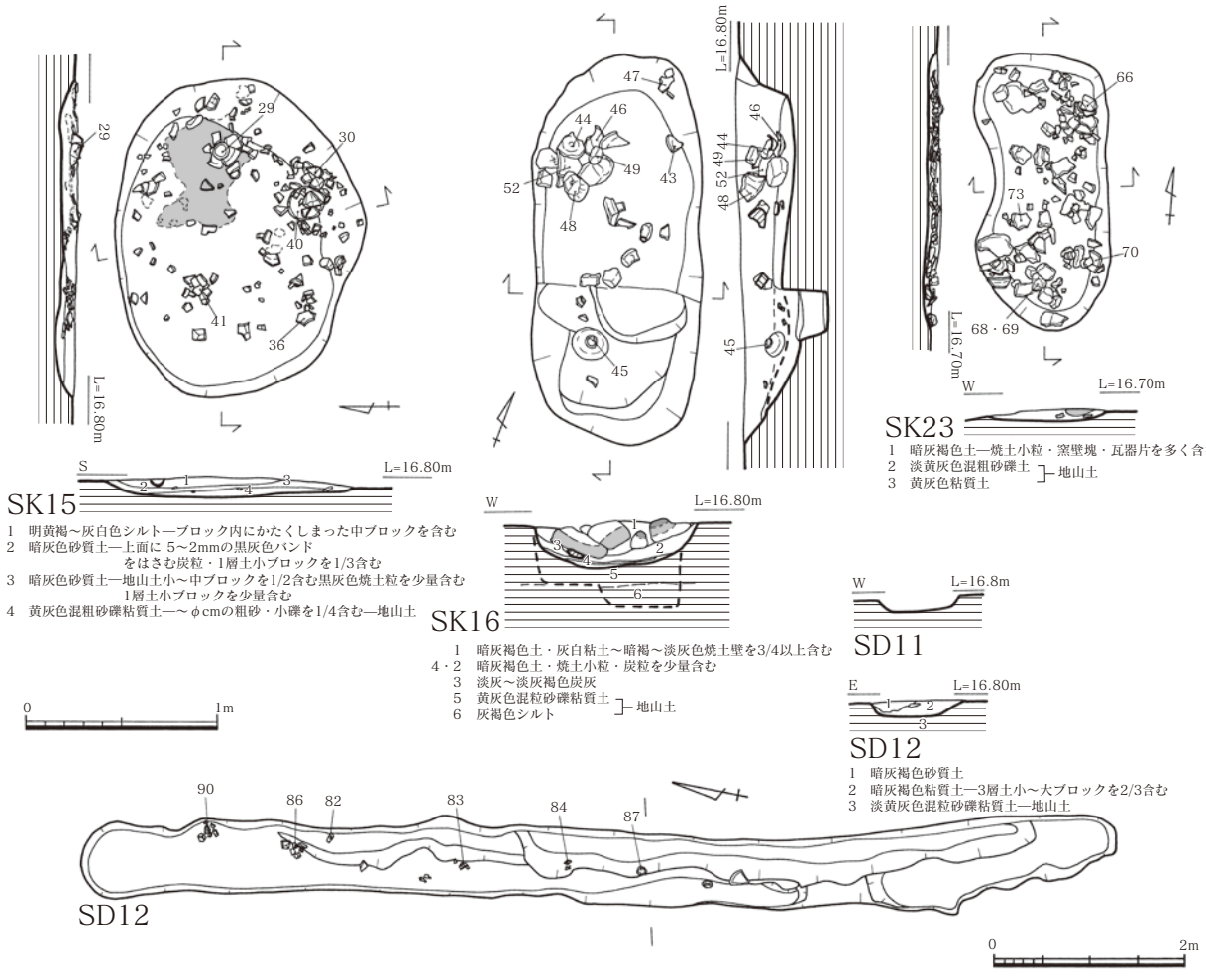


Fig.11　SK15･16･23(1/40)･SD11･12(1/60･1/80)実測図

は口径15.8器高5.3㎝。口縁内外回転ナデ。暗灰～灰色。**46**は口径16器高5㎝。暗灰色。**47**は口縁外面回転ナデ内面調整不明。灰～鈍い橙色。**50 ～ 52**土師器。**50**は鈍い橙色。**51**は口径9.6器高1.4㎝。内外回転ナデ。外底に板圧痕。鈍い黄橙色。**52**は外面タテハケ後ヘラナデ。煤付着。内面ヨコハケ後ヘラナデ。鈍い黄橙色。**48･49**は土器焼成台で砂粒を多量に含む。**48**は土師質支脚状で径12.4㎝。中央に径14㎜の孔が貫通。鈍い黄橙色。下面･脇は黒変。**49**は5×4㎝の瓦質方柱状。ナデ。灰色。**58 ～ 65**は窯壁。**58**は上面開口部片。内径70 ～ 75㎝。厚8㎝以上で粗砂礫･スサを多量に含む灰黄～灰白粘土内面に2㎝弱の真土を重ねこれの1 ～ 1.5㎝程が赤変する。**59**は1.5㎝弱の真土が1㎝弱赤

Ph.17　SK16検出状況(南から)

Ph.18　SK16土層断面(南から)

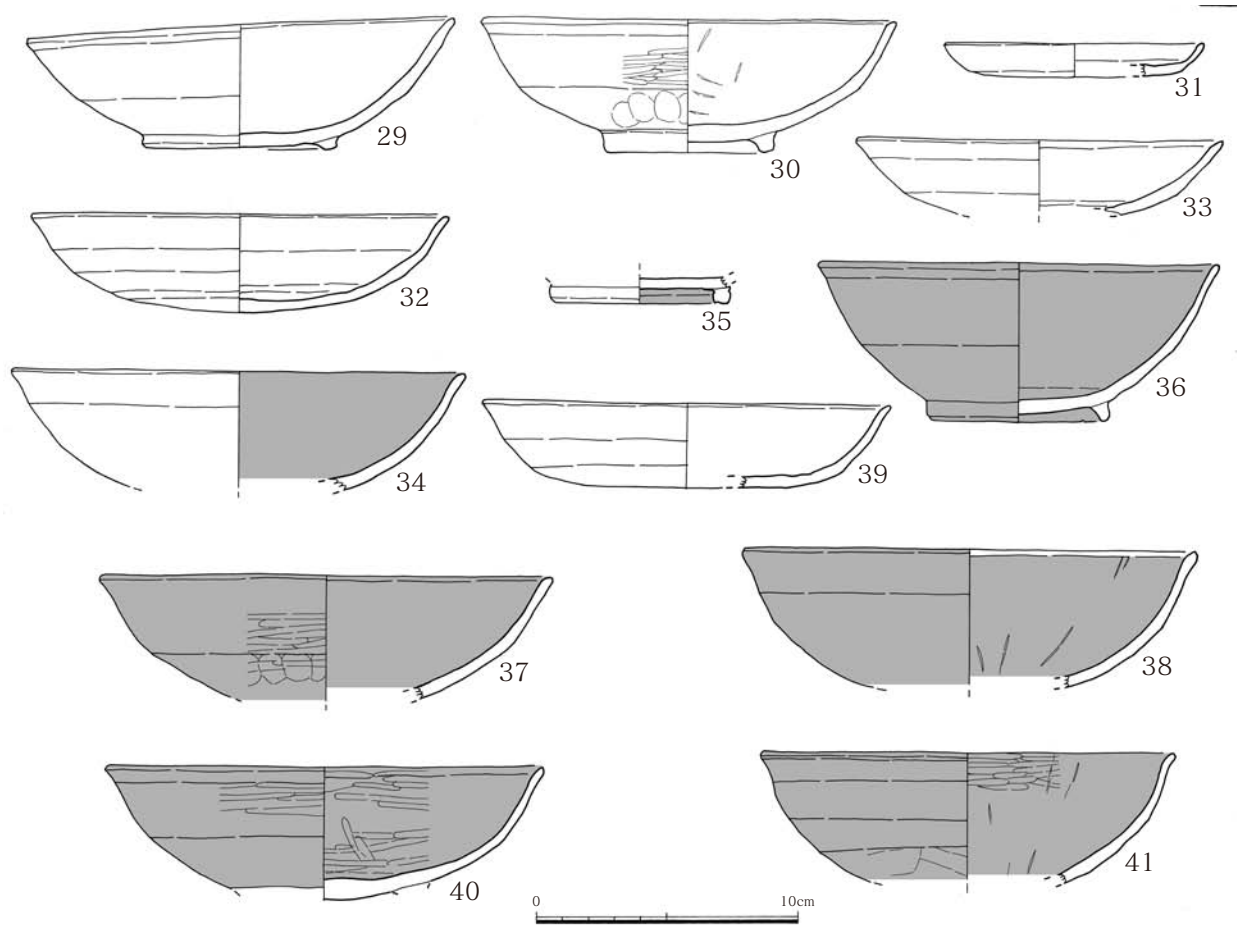


Fig.12　SK15出土遺物実測図(1/3)

変。剥落面も被熱。**60**は2.5㎝程の真土が2㎝程赤変、表皮のみ黒変。縦に外湾。**61**は1.5㎝弱の真土が5㎜程黒変。**62**は開口部片で1.5㎝弱の真土が赤変。**63**は開口部下で2㎝弱の真土の5 ～ 25㎜が赤変。**64**は2㎝弱の真土の1㎝弱が黒変。**65**は被熱断面不明。スサを含まず被熱前の焼成台か。**53** ～ **57**はSK15･16検出面出土。**53**は土師器皿。口径9.6器高1.4㎝。口縁内外回転ナデ。外底に板圧痕。鈍い黄橙色。**54**は瓦器埦。口径14.2器高5.6㎝。口縁内外回転ナデ。灰色。**55** ～ **57**は土器焼成台。

Ph.19　SK16遺物出土状況(東から)

Ph.20　SK16完掘状況(東から)

Ph.21　SK16完掘状況(南から)

Ph.22　SK23土層断面(西から)

Ph.23　SK23遺物出土状況(東から)

Ph.24　SK23遺物出土状況(南から)

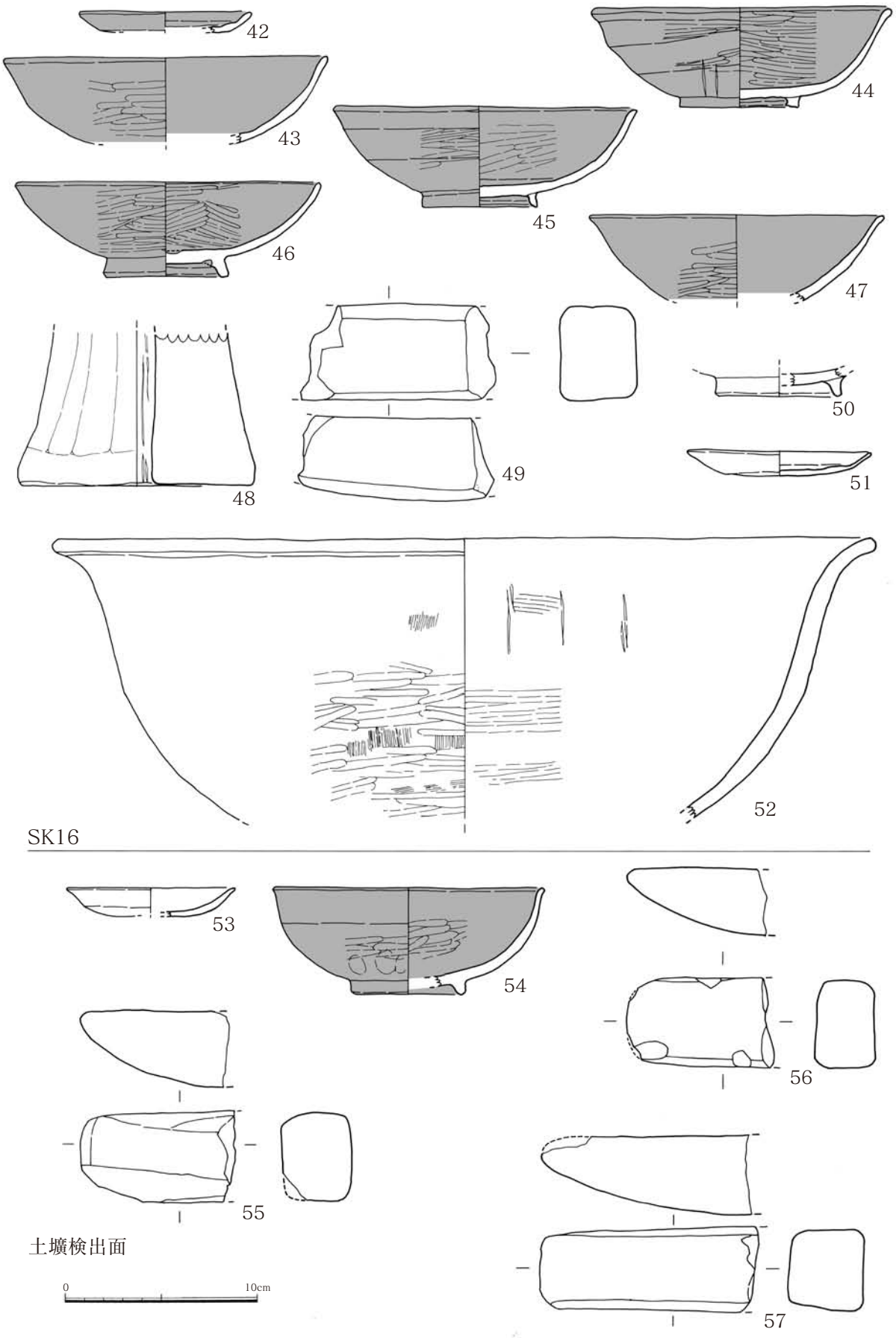


Fig.13　SK16･土壙検出面出土遺物実測図(1/3)

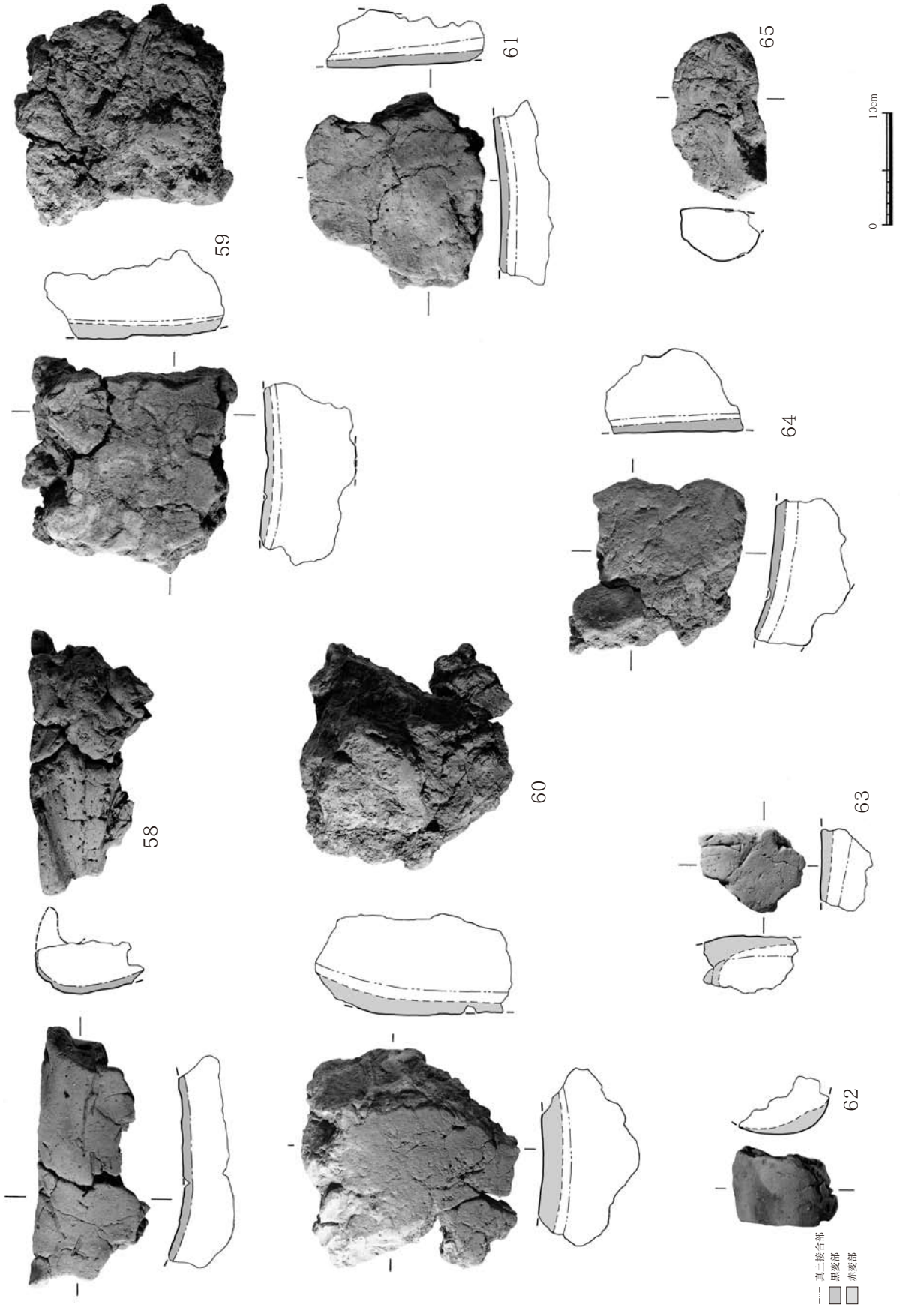


Fig.14　SK16出土遺物実測図(1/5)

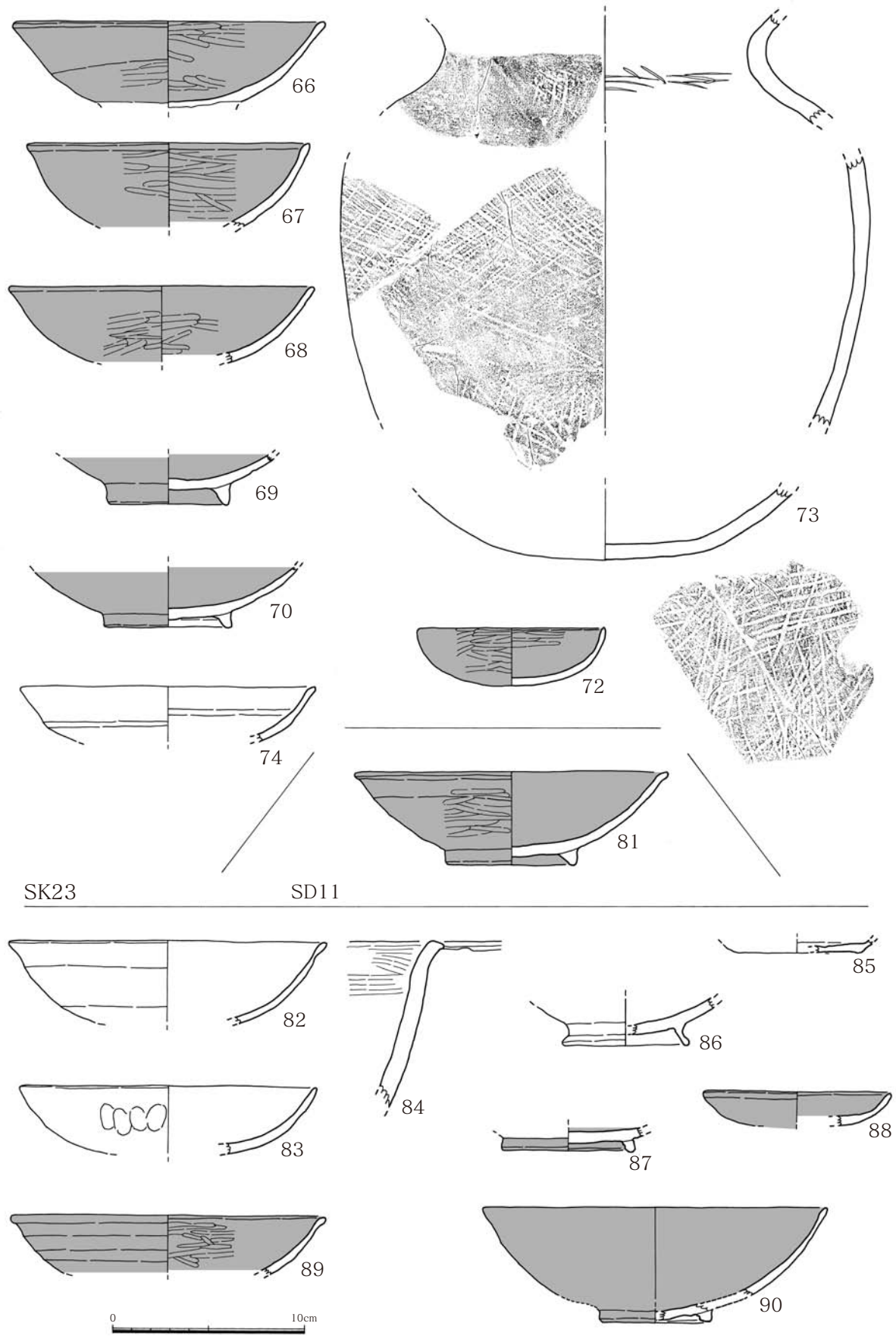


Fig.15　SK23･SD11･12出土遺物実測図.1(1/3)

Ph.25　SK16出土遺物

いずれも砂粒を多量に含み方柱状で底面端部が反り上がる。**55**で4.7×4㎝ **56**で4.7×3.3㎝ **57**で4.4×4.2㎝を測る。褐灰～灰赤色。以上11世紀末～ 12世紀初頭。

土壙SK23(Fig.11Ph.22 ～ 24)AA77グリッドに位置しSB03に隣接、SD14を切る。1.43×0.6m・深さ6㎝の浅い土壙で、窯壁・焼土粒・焼損した土師器・黒色土器・瓦器埦等の破片を多く出土。

出土遺物(Fig.15・16)**66 ～ 68**は黒色土器B類。**66・67**は灰黒色。**68**は暗灰色。**69 ～ 73**は瓦器。**69・70**は調整不明。**69**は灰黒色**70**は淡灰色。**72**は口径9.8器高3㎝。淡灰～暗灰色。**73**は胴径29.2㎝。外面に粗い櫛歯で斜格子。暗灰色。**74**は土師器丸底杯。**75 ～ 79**は窯壁。**78**以外は剥離した真土部分で全体が赤変。**75**は厚4㎝弱で1㎝弱が黒変。**76**は厚3.5㎝弱で表皮のみ黒変。**77**は厚2㎝弱で縦に内湾。**78**は上面開口部片。厚8㎝以上で2㎝弱の真土が1.8㎝弱赤変し表皮が黒変。**79**は厚2.7㎝弱で1.5㎝弱黒変する。以上11世紀末～ 12世紀初頭。

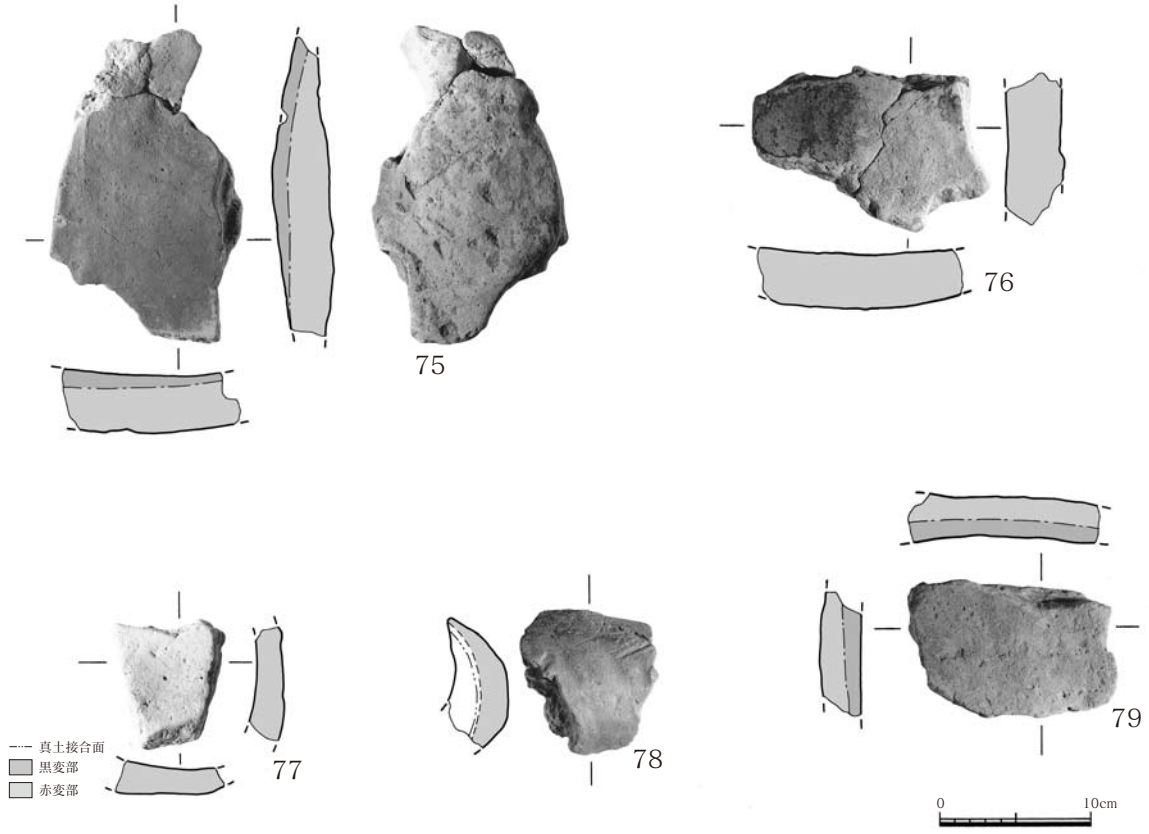
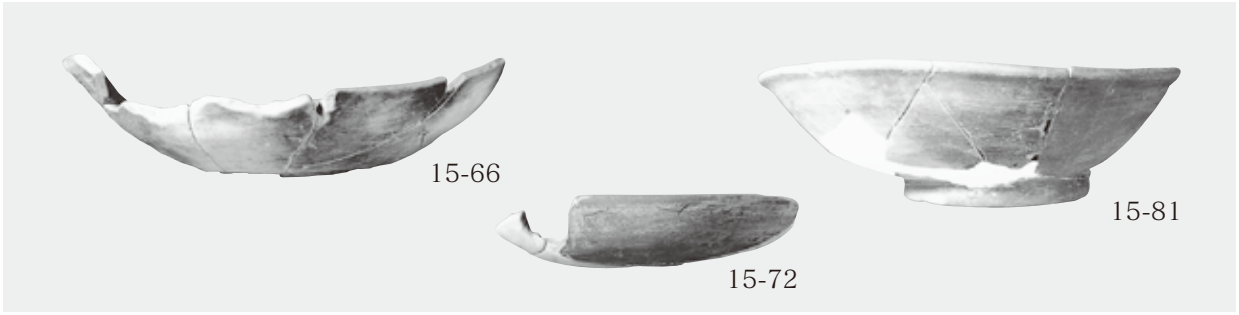


Fig.16　SK23出土遺物実測図・2(1/5)

Ph.26　SD11(北西から)

Ph.27　SD12(北から)



Ph.28　SK23･SD11出土遺物

溝SD11(Fig.11)Y81グリッドでSD12に並行。幅66深さ10㎝の浅い溝で瓦器埦･窯壁が出土。

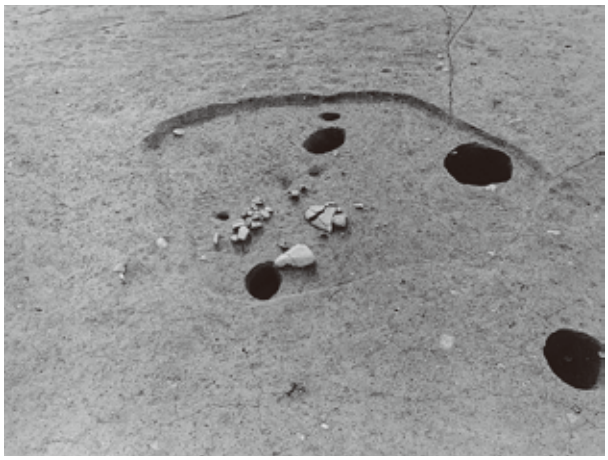
出土遺物(Fig.15)**81**は瓦器埦で口径16.4器高4.9㎝。口縁内外回転ナデ。灰～暗灰色。

溝SD12(Fig.11Ph.27)SD11の東2mで並行し南流する幅70深さ14㎝の浅い溝で暗灰褐色土が堆積する。土師器･黒色土器･瓦器･窯壁が出土。

出土遺物(Fig.15)**82 ～ 86**は土師器。**82**は調整不明。浅黄橙色。**83**は内外回転ナデ。浅黄橙色。**84**は鍋口縁。外面ナデ内面ヨコハケ後ナデ。黄橙色。**85**は糸切り。鈍い黄橙色。**86**は浅黄橙色。**87･88**は黒色土器B類。**87**は調整不明。褐灰色。**88**は口径10器高1.8㎝。調整不明。暗灰色。**89･90**は瓦器埦で**89**は暗灰色。**90**は調整不明。淡灰色。混入があるが11世紀末～ 12世紀初頭。

②土壙　西に弧を描く溝周辺に分布し、14基検出した。

土壙SK24(Fig.17Ph.29)X73グリッドに位置する1.83×1.33m･深さ6㎝の浅い円形土壙。



Ph.29　SK24(北から)

Ph.30　SD03(北から)

出土遺物(Fig.18)**71**は瓦器埦。底径6.7㎝。調整不明。暗灰色。他に土師器が出土。

土壙SK29(Fig.17)Z73グリッドに位置する3.74×1.85m・深さ95㎝の二重不整形土壙。

出土遺物(Fig.18)**91**は土師器埦。底径6㎝。内外面回転ナデ。浅黄橙色。他に黒色土器が出土。

土壙SK30(Fig.17)Z74グリッドに位置する2.87×1.04m・深さ5㎝の浅い不整土壙。

出土遺物(Fig.18)**92**は高麗無釉陶器。内外暗灰色胎赤灰色。**93**は瓦器埦。底径6㎝。灰黒色。

土壙SK49(Fig.17)V72グリッドに位置する1.4×1.12m・深さ5㎝の浅い不整形土壙。

出土遺物(Fig.18)**94**は越州窯系青磁碗。灰オリ−ブ釉に胎淡灰色。他に土師器黒色土器が出土。

以上11世紀中〜 12世紀前半を中心とする。

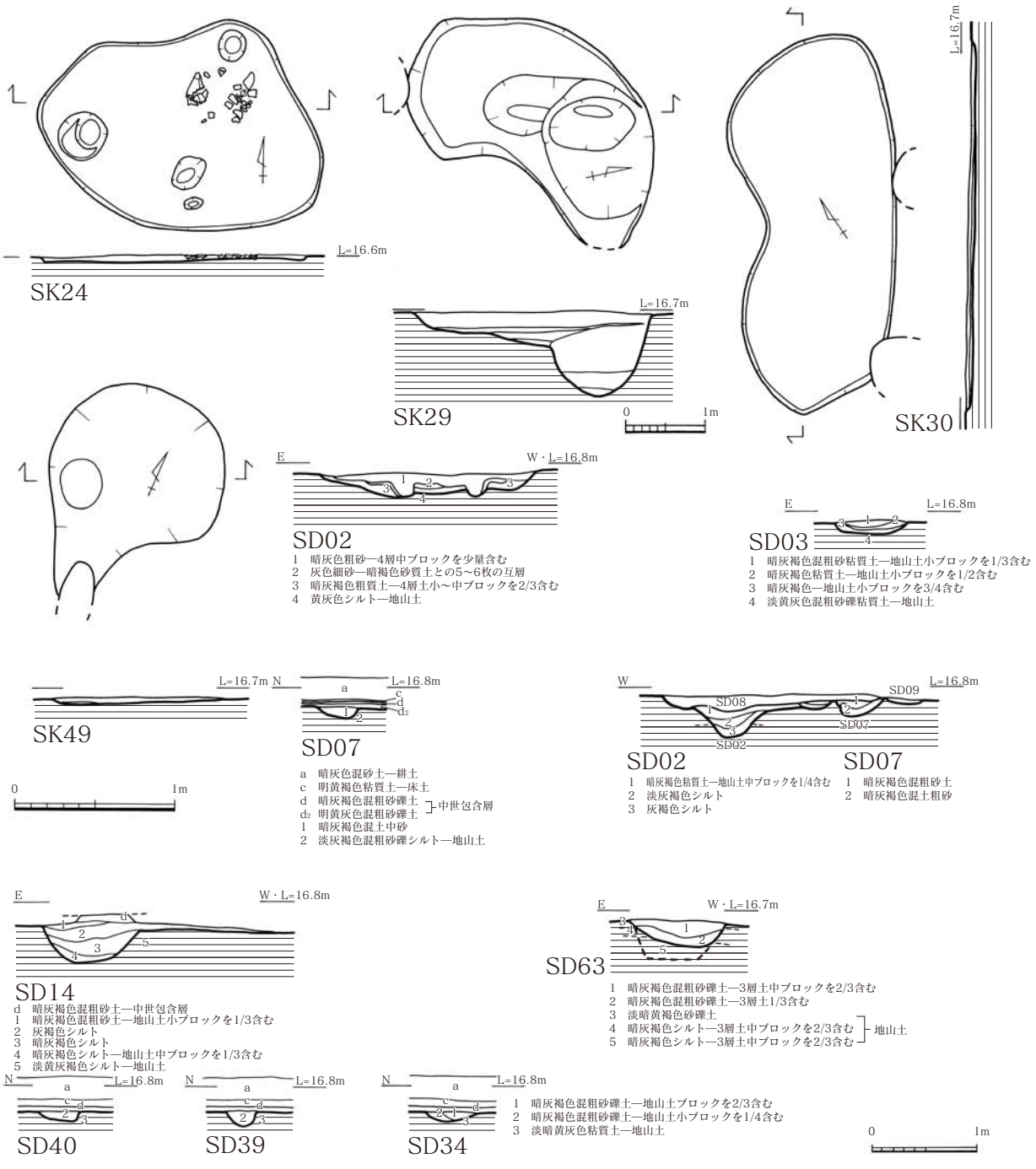


Fig.17　SK24・29・30・49(1/40・1/80)・SD02・03・07・14・34・39・40・63土層断面図(1/60)

③溝　調査区中～南部を中心に、微高地を囲み西に弧を描く溝24条を検出した。

SD02(Fig.17Ph.32)Y72 ～ AB83グリッドにかけ北流する。SD01･06を切りSB02･03に切られる。最大幅2.7m･深さ30㎝程で、上面に粗砂が堆積する。土師器坏･甕が少量出土する。

SD03(Fig.17Ph.30)AA81 ～ 83グリッドでSD02に並行し北流する。最大幅2.3m･深さ15㎝程で、暗灰褐色粘質土が堆積する。土師器が少量出土する。

SD07(Fig.17Ph.31)W75 ～ AB81グリッドにかけ北流する小溝でSD02を切る。SB02と切りあう。最大幅40･深さ15㎝程で、灰褐色中砂が堆積する。土師器･黒色土器が少量出土する。

SD14(Fig.17Ph.33)SD02の西6m程で並行し北流する。SD63を切りSB03に切られる。最大幅2.6m･深さ40㎝程で、暗灰褐色シルトが堆積する。土師器･黒色土器が少量出土する。

Ph.31　SD07(北東から)

Ph.32　SD02(北から)

Ph.33　SD14(北から)

Ph.34　SD34･39･40(西から)

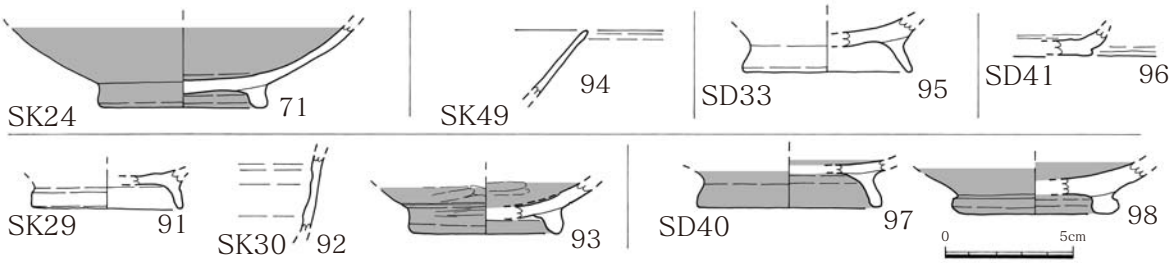


Fig.18　SK24･29･30･49･SD33･40･41出土遺物実測図(1/3)

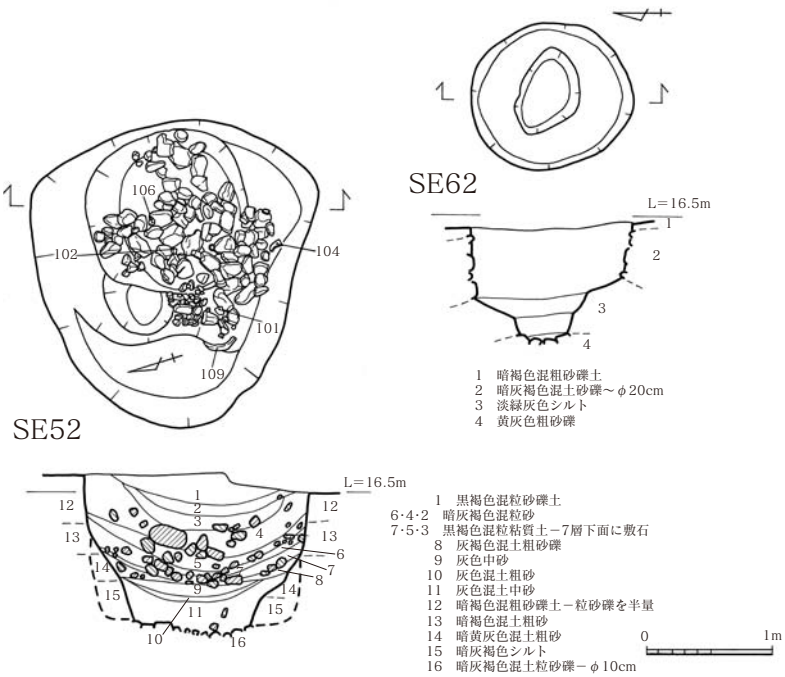


Fig.19　SE52·62実測図(1/60)

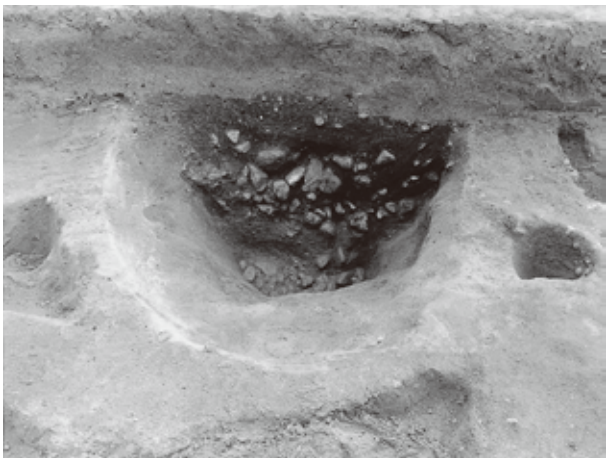
SD63(Fig.17)AA75～77グリッドに位置する南北溝で幅90深さ25㎝程で暗灰褐色砂質土が堆積。土師器が少量出土する

SD34·39·40(Fig.17Ph.34)調査区中東部でSD02に連なる様に2m程の間隔で北東に並行して流れる小溝。直交方向のSD43等を切りSB06·07に切られる。幅50～30さ15㎝程で、暗灰褐色砂質土が堆積する。土師器·黒色土器が少量出土する

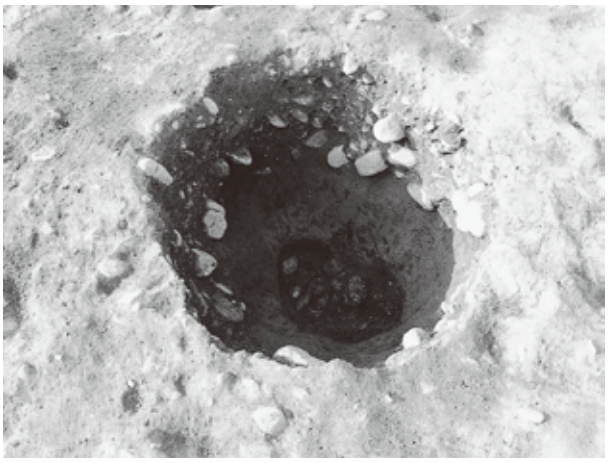
出土遺物(Fig.18)**95**は土師器椀。調整不明。浅黄橙色。**96**は糸切り土師器。混入品か。鈍い黄橙色。**97·98**は黒色土器B類椀。灰黒色。他に石鍋が出土。

Ph.35　SE52中段(西から)

Ph.36　SE52敷石(西から)



Ph.37　SE52完掘状況(西から)



Ph.38　SE62(南東から)

Ph.39　SE52出土遺物

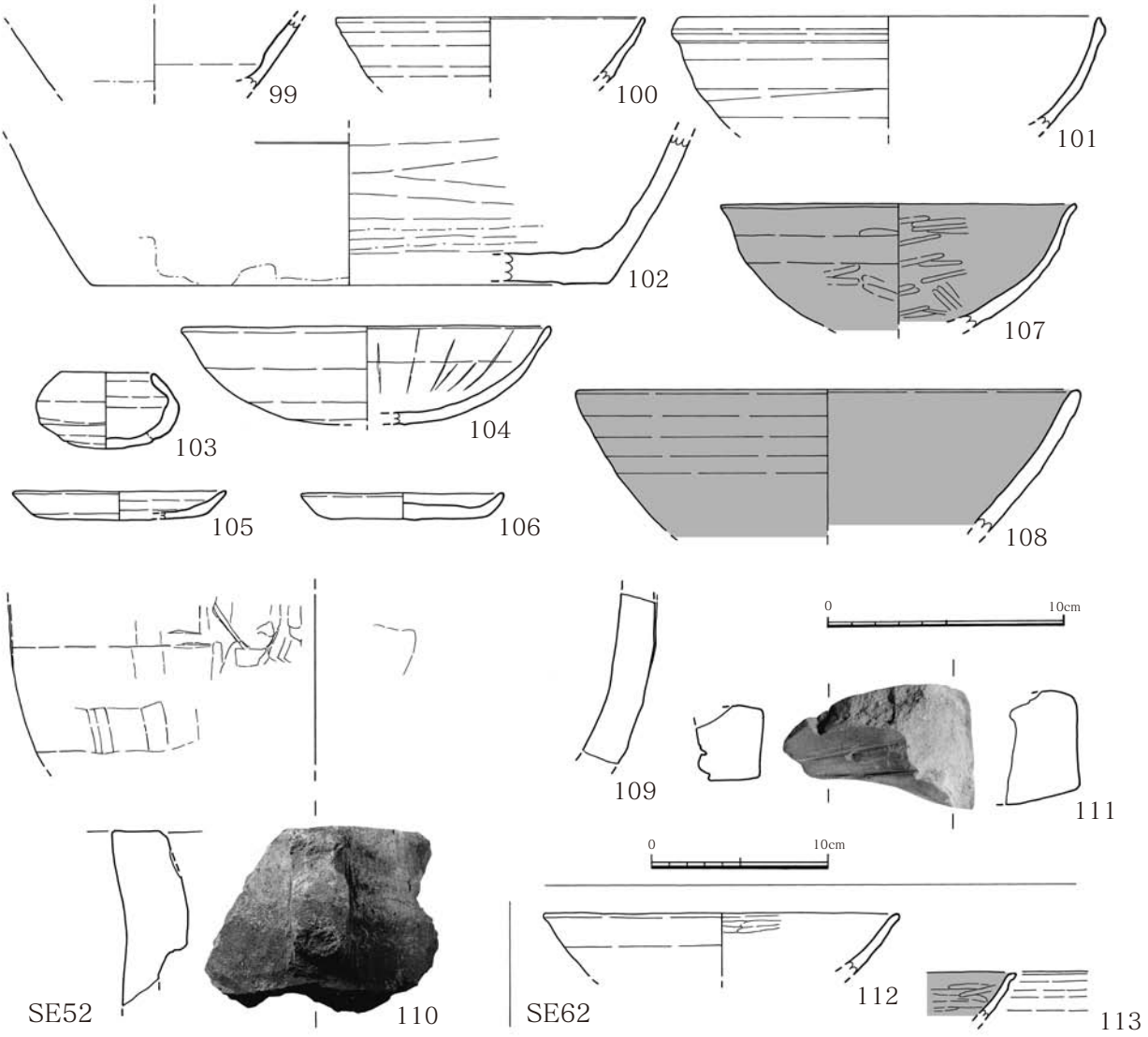


Fig.20　SE52･62出土遺物実測図(1/3･109 ～ 111＝1/4)

④井戸調査区 北部段落ち近くで2基を検出した。

SE52(Fig.19Ph.35 ～ 37)X69グリッドに位置する2.43×2.35m･深さ80㎝程の円形の掘方の底に、径1.3m深さ40㎝程掘り下げる。井筒は無い。下段が砂で埋没後10㎝弱の円礫で敷石をし10㎝程上面にさらに敷く。遺物の殆どはこの上部から検出される。**出土遺物**(Fig.20)**99 ～ 101**は白磁。**99**は壺。**100**はⅨ類碗･**101**はⅡ類碗。**102**は陶器甕。外面黄褐不透明釉。内面露胎で灰褐色。**103 ～ 106**は土師器。**103**は無頸小壺。口径4器高3.2㎝。橙色。**104**は丸底杯。口径15.6器高4.2㎝。口縁内外回転ナデ以下ヘラナデ。浅黄橙色。**105**は皿で口径9器高1.2㎝。**106**は糸切り皿で口径8.5器高1.1㎝。浅黄橙色。外底に板圧痕。**107**は黒色B類埦。黒色。**108**は瓦質鉢。内外回転ナデ。暗灰**109･**

110はⅠ類石鍋。**109**は胴部で取手削除痕有り。**110**は取手破片。**111**は砂岩荒砥。4面を砥面とし端部で5.4×6㎝鞍部で3×4㎝。一面が条溝状に減る。以上12世紀前半

SE62(Fig.19Ph.38)U66グリッドに位置する。SE52同様1.26×1.18m･深さ70㎝の円形の掘方の底に、径50深さ20㎝程円形にさらに掘り下げ礫層上面で止める。井筒は検出されない。

出土遺物(Fig.20)**112**は土師器埦。外面回転ヨコナデ。浅黄橙色。**113**は黒色土器A類埦。外面回転ヨコナデ。外橙内黒色。11世紀末前後か。

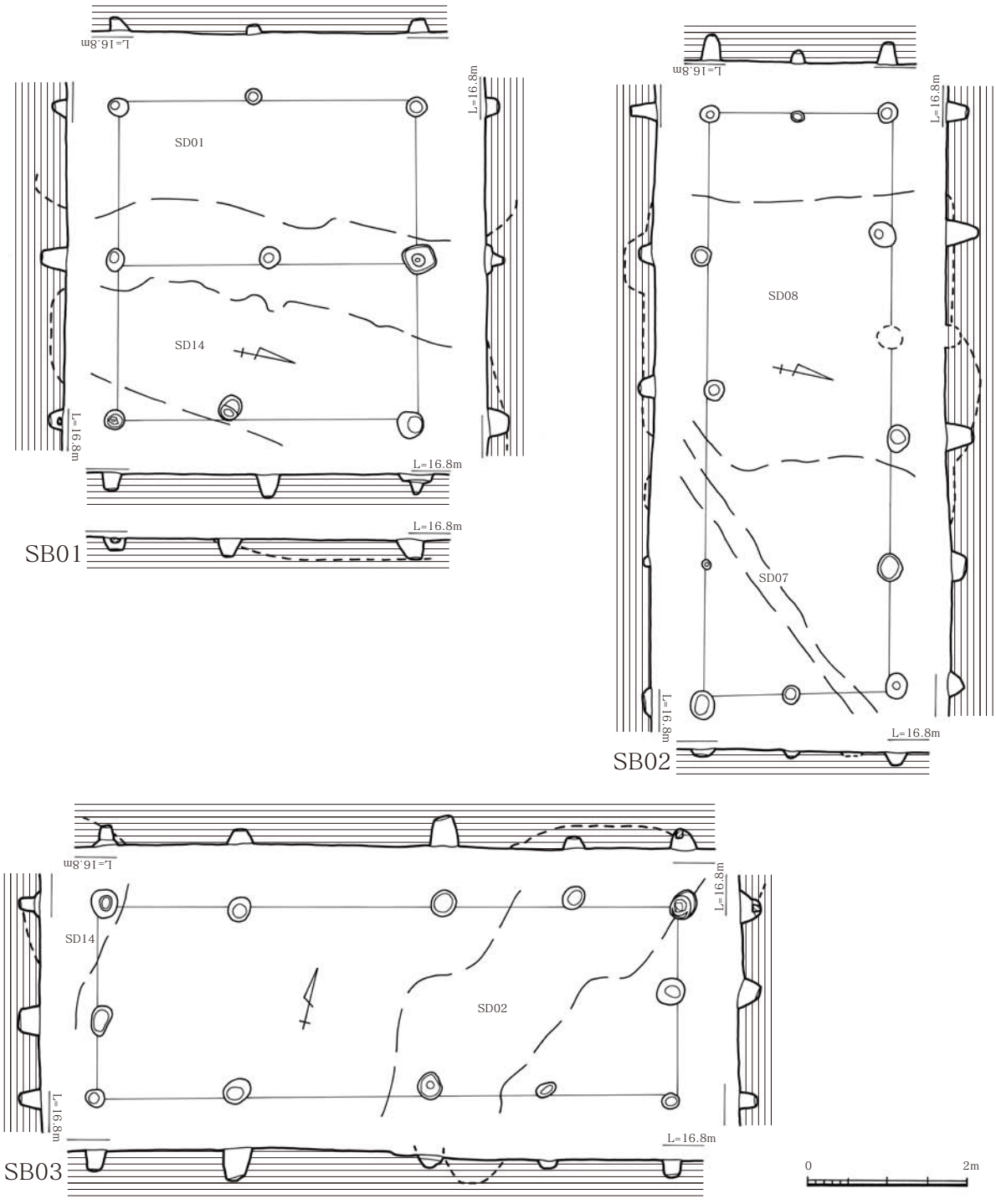


Fig.21　SB01･02･03実測図(1/80)

Ph.40　建物群全景(南から)

Ph.41　南部建物群全景(東から)

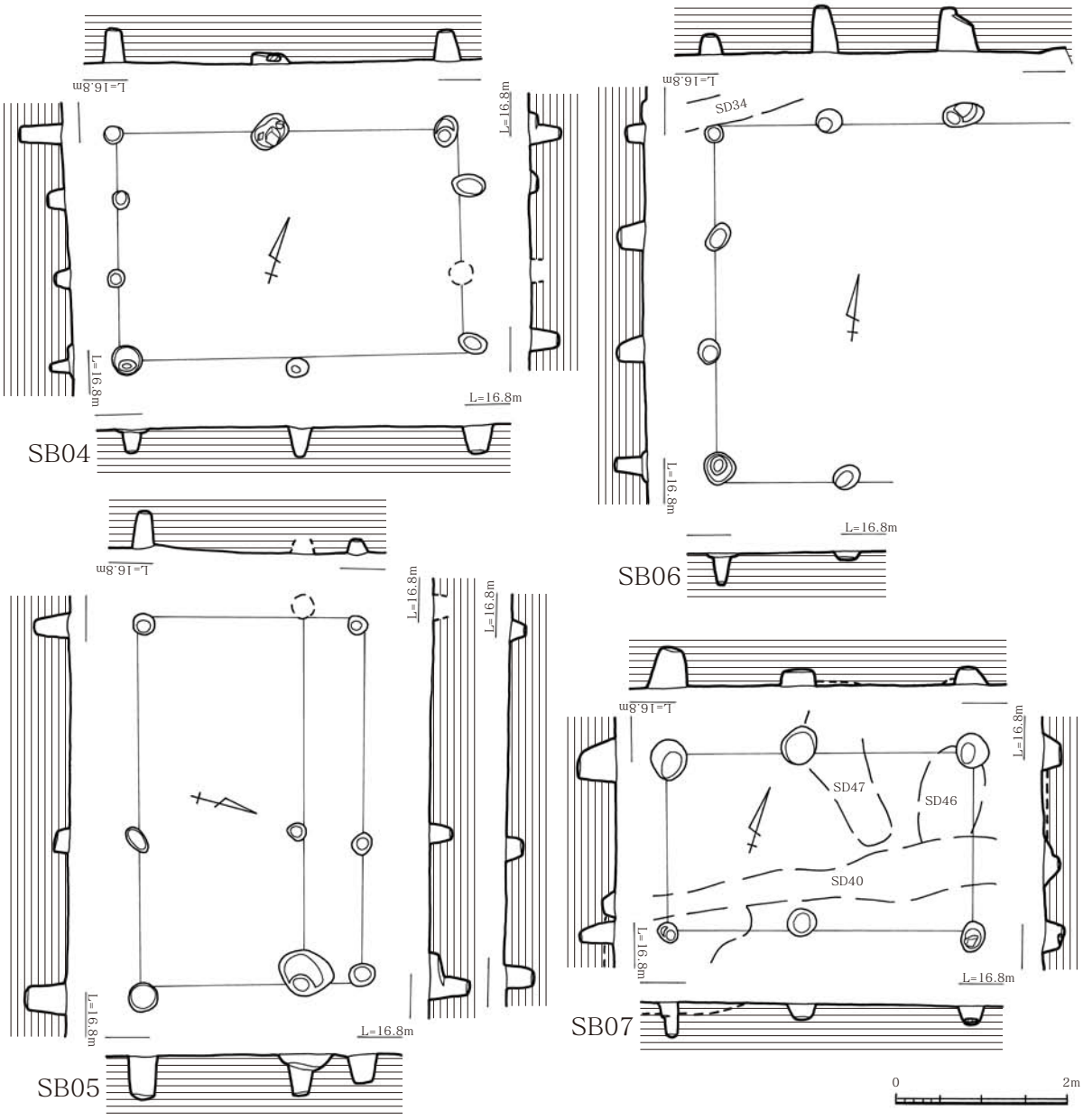


Fig.22　SB04･05･06･07実測図(1/80)

Ph.42　SB01･02･03(南から)

Ph.43　北部建物群全景(東から)

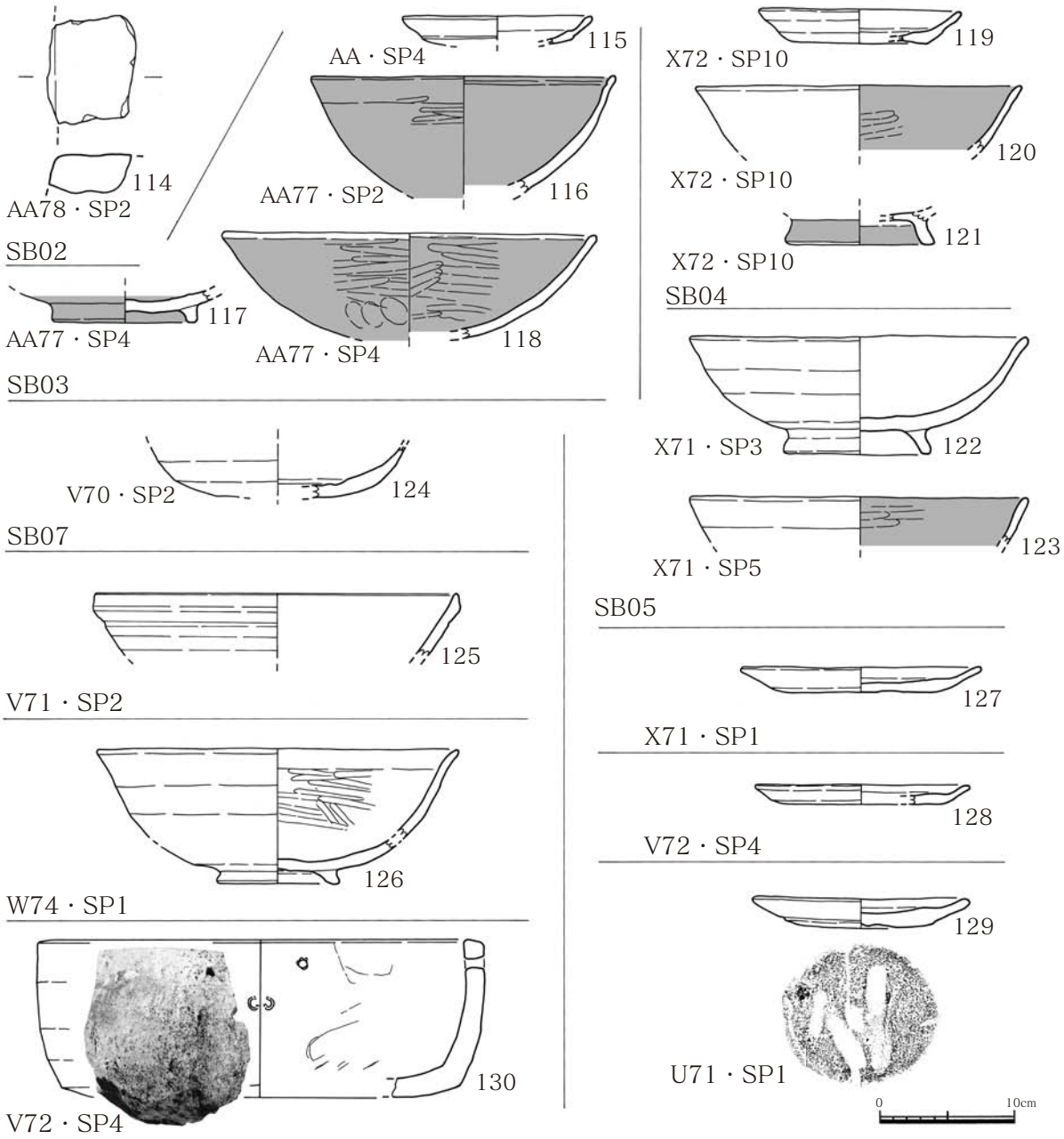
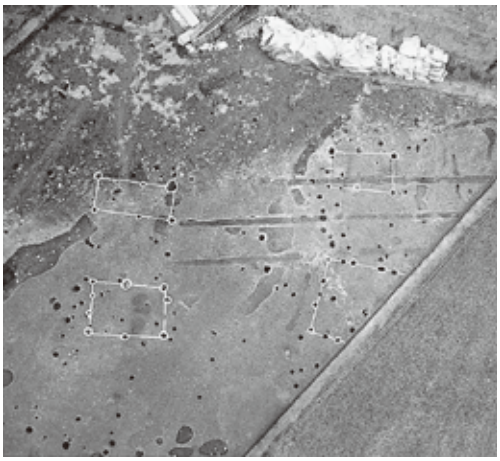
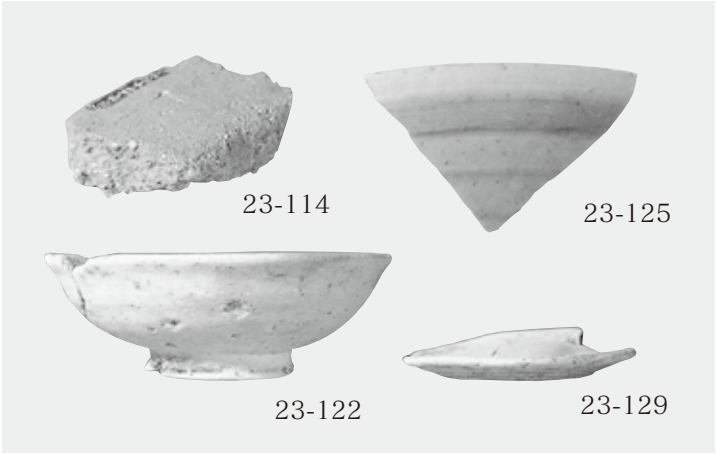


Fig.23　SB02･03･04･05･07他柱穴出土遺物実測図(1/3･130＝1/4)



Ph.44　SB04･05･06･07(南から)



Ph.45　SP出土遺物

⑤.掘立柱建物 掘立柱建物は南部で3棟(Ph.41)･中部で4棟(Ph.43)を検出。北東方向の地形に沿う様に棟をとる。SB01は総柱、以外は側柱建物である。

SB01(Fig.21)南部AC80グリッドに位置する2×2間の総柱建物で3.8×4.0mを測る。棟をN―78°―Eにとる。SD01･14を切る。堀方は円形で径18 ～ 30深さ10 ～ 30㎝を測る。

SB02(Fig.21)南部AA78グリッド付近に位置する2×5間の側柱長屋建物で7.35×2.40mを測る。棟をN―80°―Eにとる。土器焼成関連土壙SK15･16が外側を囲むように同方向に配置され一連の遺構の可能性が高い。堀方は円形で径18 ～ 32深さ8 ～ 40㎝を測る。

出土遺物(Fig.23)**114**は方柱状土器焼成台破片。灰色。ナデ調整。他に土師器･黒色土器B出土。

SB03(Fig.21)SB02と同規模･棟を揃え2.5m程北に位置する2×5間の側柱長屋建物で7.3×2.35mを測る。棟をN―77°―Eにとる。土器焼成関連土壙SK23が外側に沿って配置され一連の遺構の可能性が高い。堀方は円形で径25 ～ 38深さ10 ～ 40㎝を測る。

出土遺物(Fig.23)**115**は土師器皿。口径8.4器高1.3㎝。鈍い黄橙色。**116**は黒色土器B類埦。灰黒色。内面調整不明。**117･118**は瓦器埦。灰黒色。以上11世紀末～ 12世紀初頭。

SB04(Fig.22)中部X71グリッドに位置する2×3間の側柱建物で4×2.65mを測る。棟をN―73°―Eにとる。桁行1.85 ～ 2mに梁間0.7 ～ 1.1mと狭く柱が1本多い。堀方は円形で径20 ～ 35深さ10 ～ 30㎝を測る。

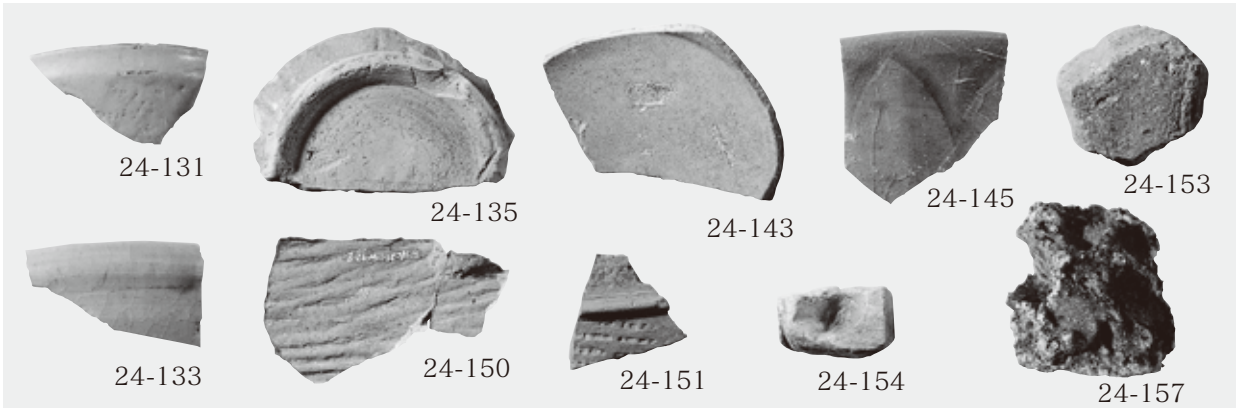
出土遺物(Fig.23)**119**は土師器皿。口径9器高1.8㎝。浅黄橙色。**120**は黒色土器A類埦。外面回転ナデ。外浅黄橙無い灰黒色。**121**は黒色土器B類埦。灰黒色。11世紀末～ 12世紀中。

SB05(Fig.22)SB04と棟を揃え3.5m程北に位置する一面庇付の1×2間の側柱建物で4.3×2.6m身舎で梁間1.95mを測る。棟をN―75°―Eにとる。桁行1.85 ～ 2mに梁間0.7 ～ 1.1mと狭く柱が1本多い。堀方は円形で径20 ～ 35深さ15 ～ 50㎝を測る。

出土遺物(Fig.23)**122**は土師器埦。口径15器高6.2㎝。口縁内外回転ナデ以下にヘラナデ。浅黄橙色。**123**は黒色土器A類埦。外面回転ナデ。外鈍い黄橙内黒色。11世紀末～ 12世紀初頭。

SB06(Fig.22)中部V71グリッドに位置する3×3間+αの側柱建物で4.2×4.15m+αを測る。
棟をN―85°―Eにとる。柱間は1.3 ～ 1.5mと狭い。堀方は円形で径25 ～ 35深さ10 ～ 50㎝を測る。
ヘラ切り土師器･黒色土器Bが出土。

SB07(Fig.22)SB06と棟を揃え4m程北に位置する1×2間の側柱建物で3.6×2.1mを測る。
棟をN―73°―Eにとる。堀方は円形で径20 ～ 40深さ20 ～ 40㎝を測る。
出土遺物(Fig.23)**124**は土師器坏。内外回転ナデ。浅黄橙色。他に黒色土器出土。



Ph.46　包含層出土遺物

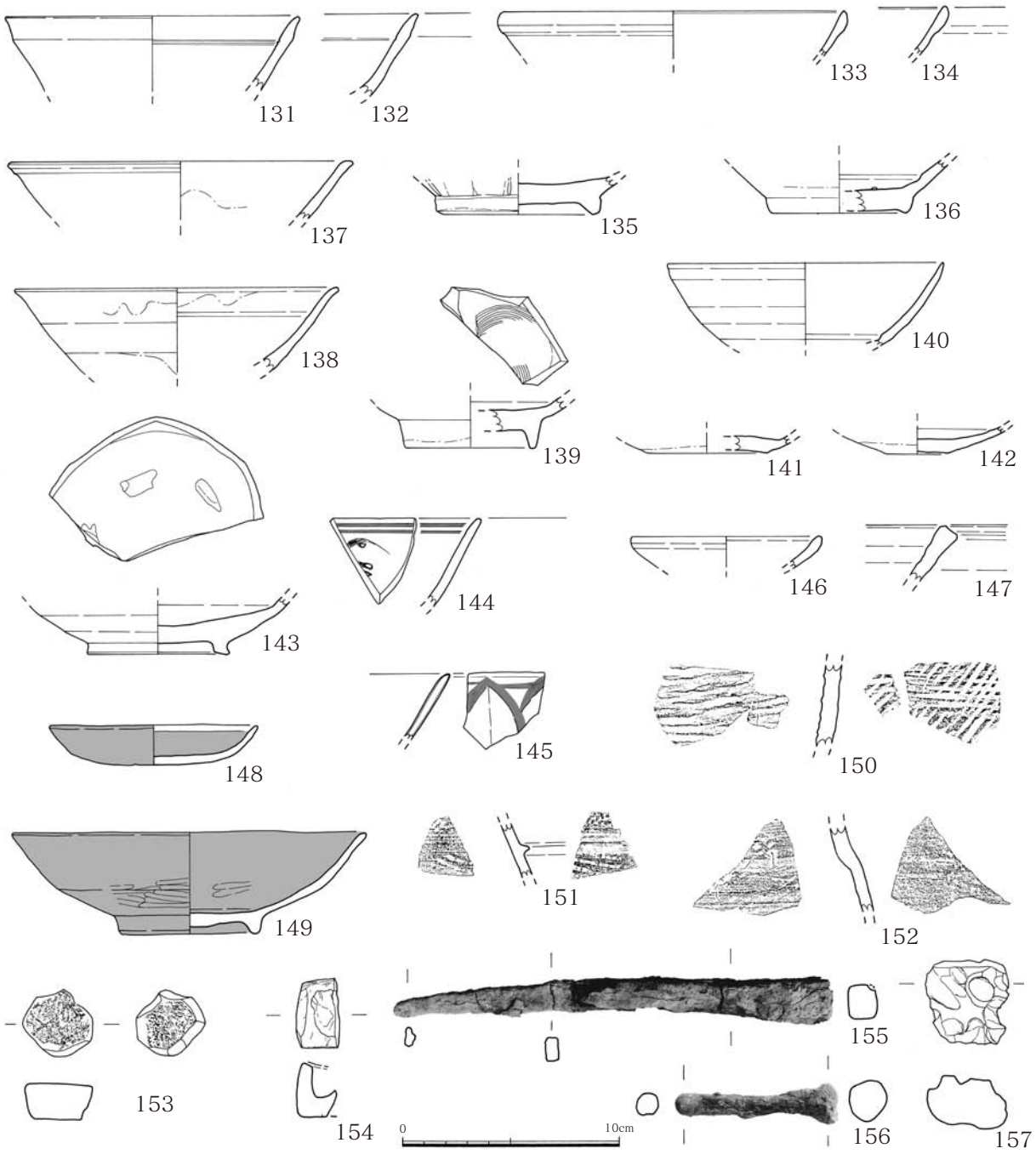


Fig.24　包含層出土遺物実測図(1/3)

SP出土遺物(Fig.23)**125**は白磁碗。**126**は土師器塊。口径16㎝。鈍い黄橙～浅黄橙色。**127**は土師器皿。口径10.8器高1.1㎝。外底板圧痕。浅黄橙色。**128**土師器皿。口径9.6器高0.8㎝。浅黄灰色。**129**は土師器皿。口径9.6器高1.4㎝。橙色。**130**はⅠ類石鍋。口径26.4器高9.4㎝。補修孔有り。
⑥.包含層出土遺物(Fig.24)**131 ～ 142**は白磁。**131 ～ 140**は碗。**141**は口禿坏。**143 ～ 146**は青磁碗。**143**は越州窯系Ⅱ類。**144･145**は龍泉窯系**146**は陶器灯盞。**147**は東播系捏鉢。**148･149**は瓦器。**148**は口径9.6器高1.8㎝。**149**は口径16.4器高4.7㎝。**150 ～ 152**は高麗無釉陶器。**153**は瓦玉。3.2×1.8㎝。**154**は滑石双胴器の半欠品。幅2.0高2.4㎝。**155**は鉄製鑿か馬鍬の刃。202×16×13㎜。**156**は鉄製釘。75×19×16㎜。**157**は鉄滓の炉底塊。39×39×30㎜。
⑦.混入遺物(Fig.32･33)**158･159**は縄文晩期精製浅鉢口縁。**160**は後期粗製深鉢口縁。内外ヨコナ

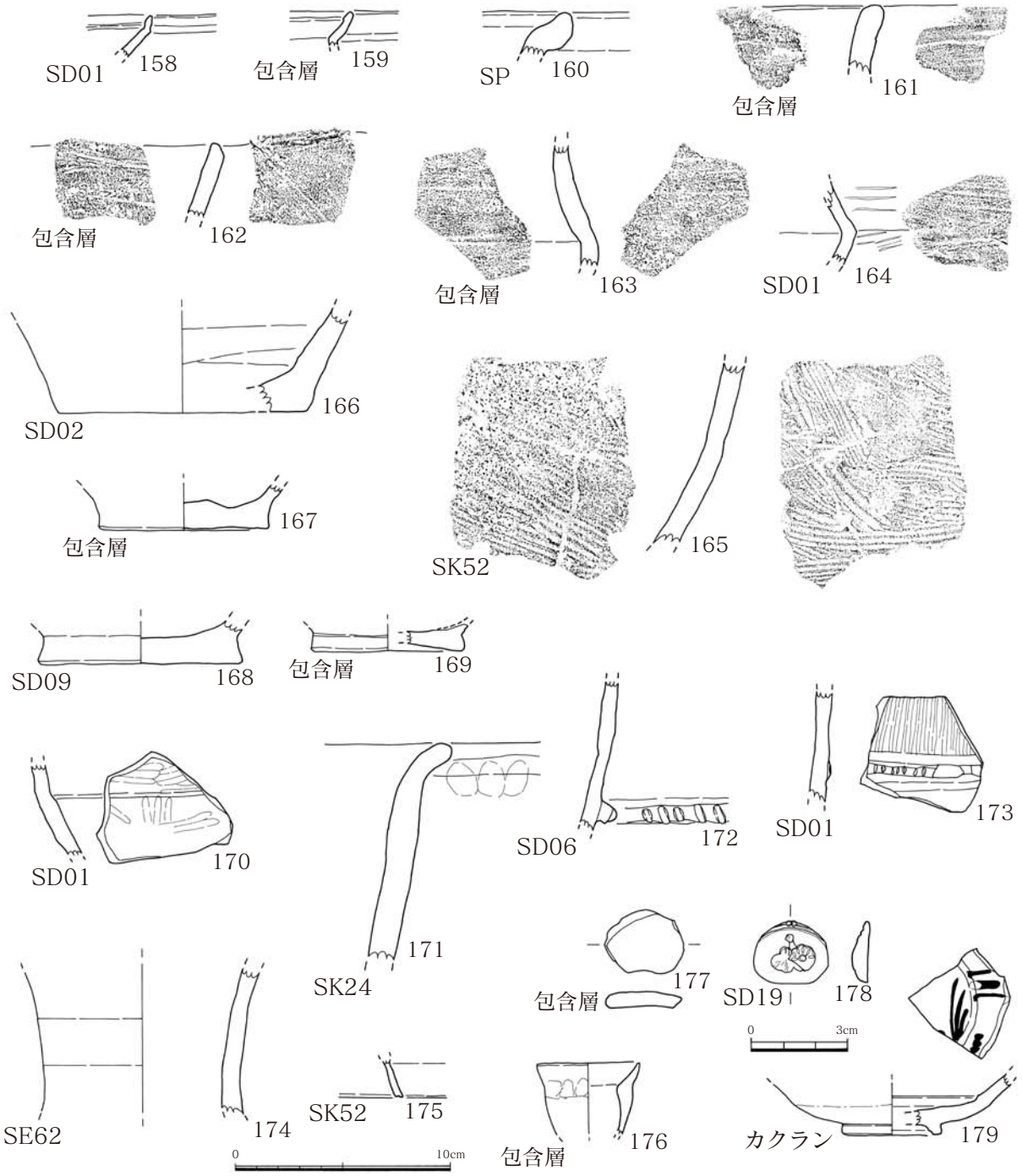


Fig.25　混入･その他の遺物実測図･1(1/3･178＝1/2)

Ph.47　1区混入その他の遺物

デ。鈍い黄橙色。**161 ～ 169**は晩期粗製深鉢。**161**は外面条痕。灰黒～鈍い黄橙色。**162**は波状口縁で内外条痕。鈍い黄橙～黒褐色。**163**は肩部で内外条痕。鈍い黄橙～灰黄褐色。**164**は肩部。外面条痕内面ヨコナデ。浅黄橙色。**165**は胴部。内外貝殻条痕。鈍い黄橙色。**166**は底径11.6㎝。鈍い黄橙色。**167**は底径8㎝。内底指頭圧痕。鈍い黄橙～暗灰色。**168**は底径9.6㎝。鈍い橙色。**169**は底径7.1㎝。鈍い黄橙色。**170**は板付式丹塗り壷。**171**は甕口縁。内外ナデ。橙色。外面黒変。**172**は突帯文胴部片。鈍い黄橙色。突帯黒変。**173**は弥生甕胴部。鈍い橙色。**174**は須恵器壷頸部。**175**はⅡ～ⅢA須恵器坏蓋。**176**は土師器甕ミニチュア**177**は土師器土器片円盤。**178**は土師質蓋口形ハジキ。**179**は唐津鉄絵皿。**180 ～ 183**は黒耀石石鏃。**180**は23×15×3㎜ 1g。**181**は剥片鏃。29×4㎜。パティナが進む。**183･184**は黒耀石石錐。**183**は28×21×4㎜。**184**は25×17×4㎜。ともにパティナが進む。**185**は頁岩質砂岩製の切れ目石錘。25×4㎜。**186**は玄武岩製磨製石斧。刃幅65刃厚32㎜。**187**は玄武岩製打製石斧基部。幅63厚27㎜。**188**は花崗岩製石斧未製品転用叩石。193×81×44㎜。1197g。**189**は凝灰岩質安山岩ホルンフェルス製柱状片刃石斧。78×19×14㎜ 40g。

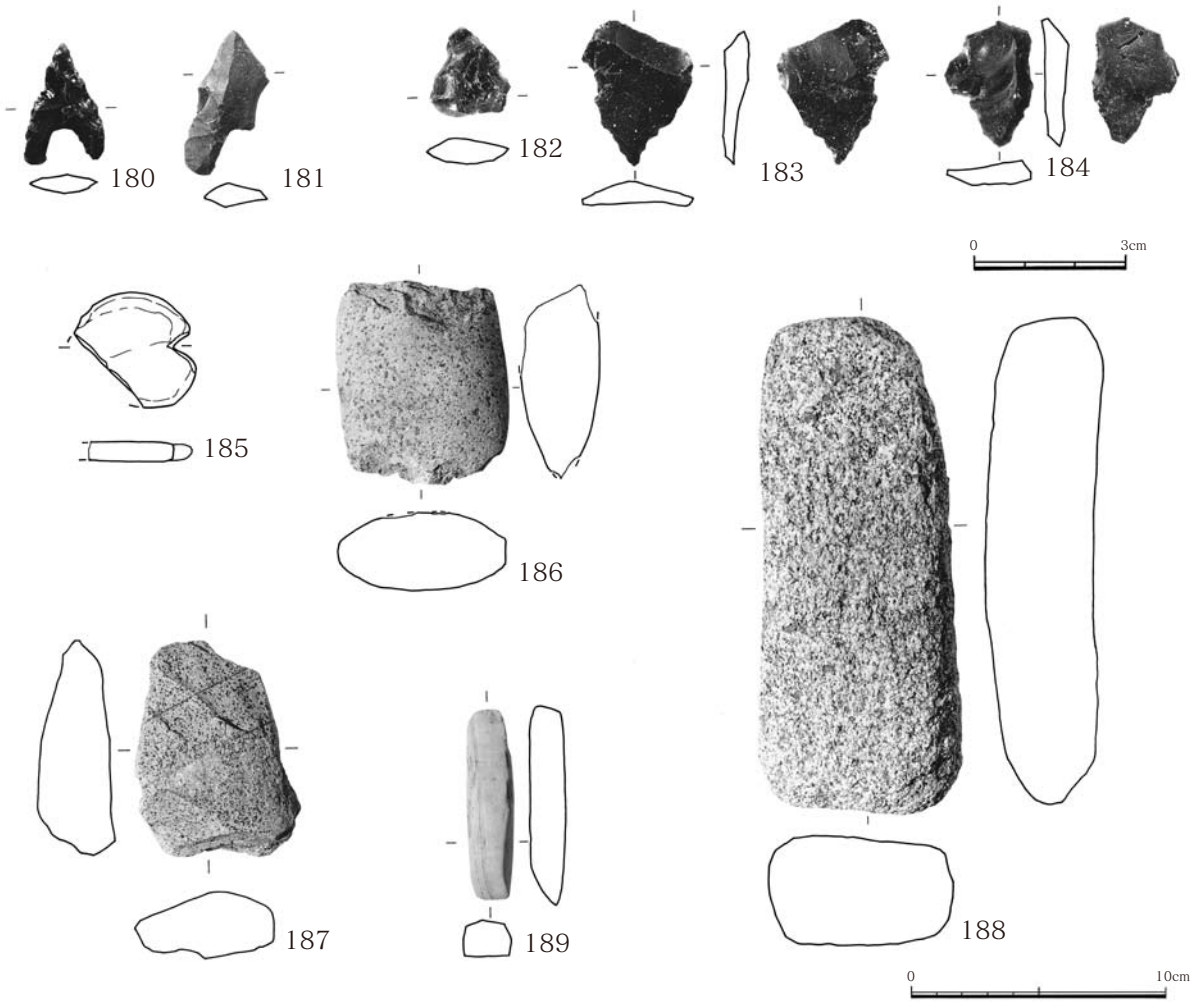


Fig.26　混入その他の遺物実測図･2(180 ～ 185＝2/3･186 ～ 189＝1/3)

3.　2区の調査

1区北側に位置する調査区で調査面積408㎡。検出面標高約16ｍで1区より60㎝程下がる。北部は耕作土直下で明黄灰色シルト、南部で表土下10㎝程暗灰褐色砂礫土の中世包含層が堆積し暗黄灰～淡灰褐色シルト･砂礫層の遺構検出面となり旧地形は北に傾斜し溝はこれに平行する。57ラインから南は調査期間中条件整備が整わず、平成19年度調査となっている。検出した遺構は縄文時代土壙1基･不整形土壙1基、古墳時代掘立柱建物1棟、中世土壙4基･焼土壙1基･溝3条･掘立柱建物1棟と、中世初期が主体を占める。

1).縄文時代の調査遺構は調査区北部の低位部に分布し、土壙1基･不整形土壙1基を検出、遊離した早期の黒曜石石鏃を検出している。

土壙**SK09**(Fig.28)Q49グリッドに位置する楕円形土壙で1.54×0.96＋αｍ･深さ60㎝､覆土は灰褐色砂質土｡黒曜石剥片が出土。不整形土壙**SX10**(Fig.28)S51グリッドに位置、SD02に切られ1.8＋α×0.98＋αｍ･深さ10㎝程の浅い土壙で、条痕文土器出土。

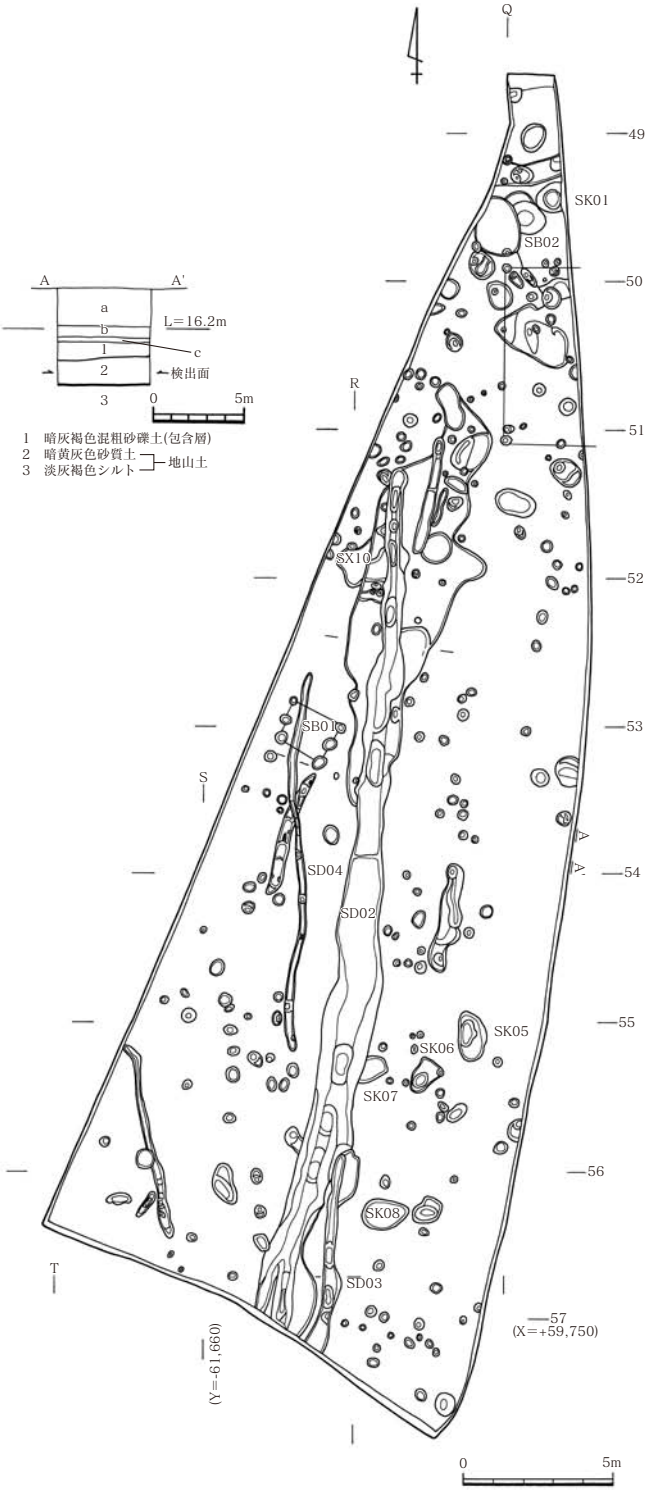


Fig.27　2区遺構全体図(1/250)･東壁土層断面図(1/40)

Ph.48　2区遠景(南から)

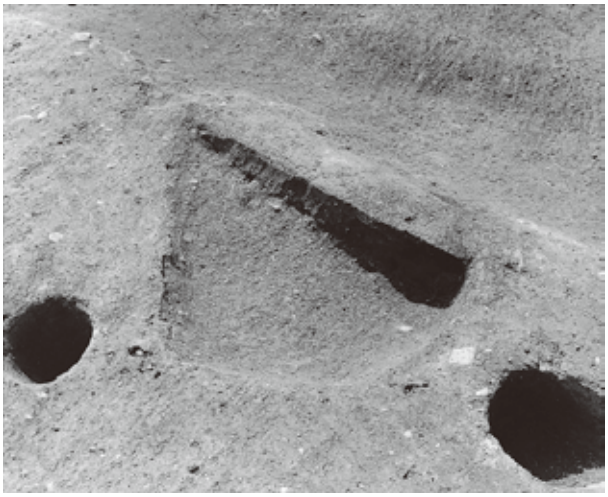
Ph.49　2区全景(西から)

石鏃 SD02に混入。黒耀石製。**6**は先端･脚欠損20×14×3㎜。7は20×14×3㎜ 1g。

2).古墳時代の調査 調査区中央部で建物1棟を検出。**SB01**(Fig.28)S53グリッドに位置、堀方は大きく径40㎝前後。1×2間1.74×1.43m、梁間70㎝と狭い。棟をN―62°―Wにとる。

3).中世の調査 遺構は中央を溝SD02が調査区中央を北流し、この南東に土壙が、北東に建物が分

Ph.50　SK01(西から)



Ph.51　焼土壙SK07(東から)

Ph.52　SK05(南から)

Ph.53　SK06(南西から)

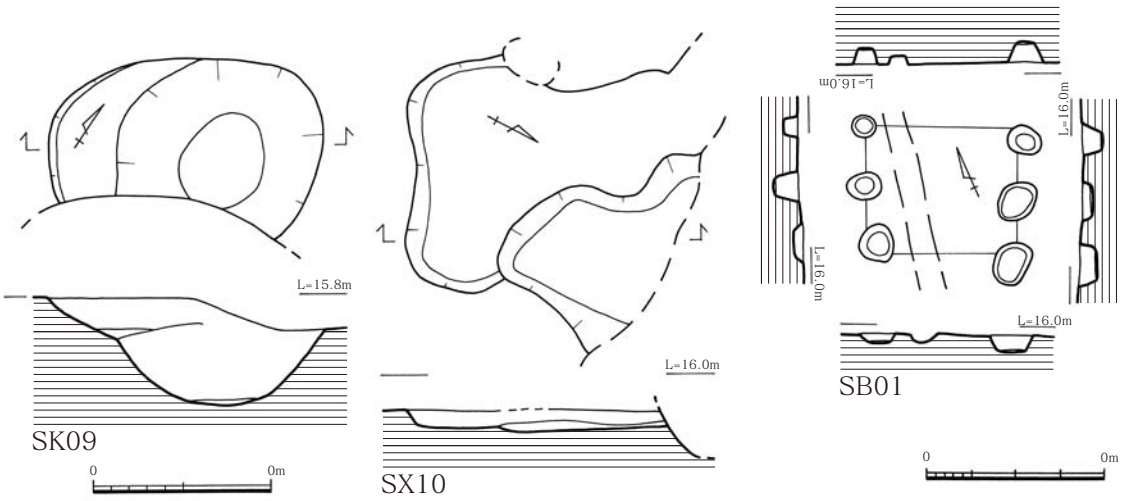
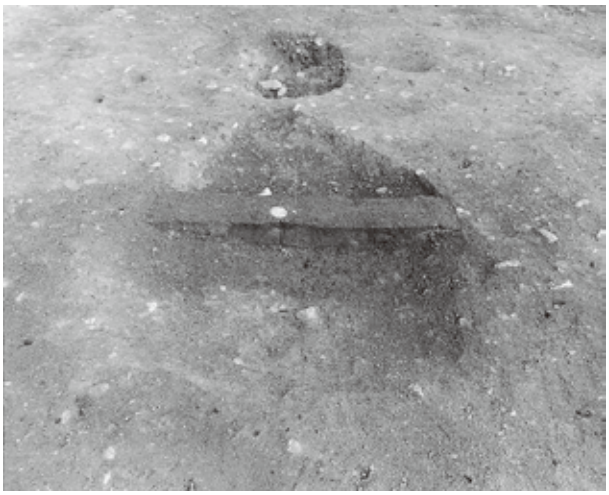


Fig.28　SK09･SX10(1/40)･SB01(1/80)実測図

布する。土壙4基･焼土壙1基･溝3条･掘立柱建物1棟土壙1基･不整形土壙1基を検出した。

土壙:**SK01**(Fig.29 Ph.50)Q49グリッドに位置する円形土壙で1.99×1.38＋αm･深さ88㎝、底面



Ph.54　SK08(西から)

Ph.55　SD04(南から)

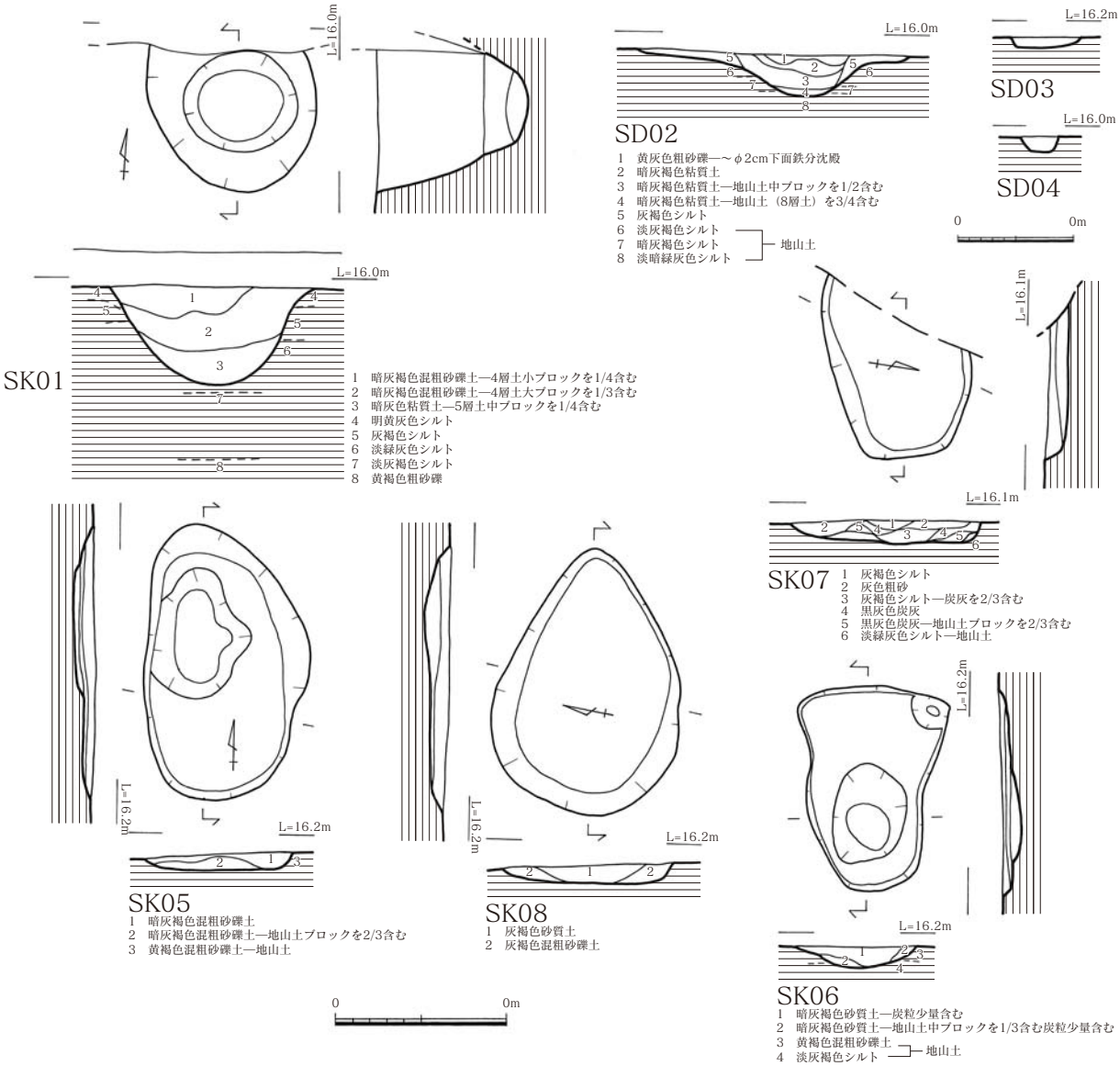


Fig.29　SK01･05･06･07･08(1/40)･SD02･03･04(1/60)実測図

に暗灰色粘土が堆積する。**出土遺物**(Fig.31)**1**は黒色土器A類埦。外面回転ナデ。「大」字線刻。外鈍い黄橙内灰黒色。11世紀。**SK05**(Fig.29 Ph.52)R56グリッドに位置。1.61×0.98m･深さ14㎝、暗灰褐色砂質土が堆積。土師器･黒色土器等出土。11世紀。**SK08**(Fig.29Ph.54)R56グリッドに位置。1.57×1.1m･深さ15㎝、土師器坏が出土。11世紀。

焼土壙:**SK07**(Fig.29 Ph.51)R55グリッドに位置する長台形土壙で0.9×0.8＋αm･深さ12㎝、底面に炭灰が堆積する。土師器坏･甕片が出土。

建物:**SB02**(Fig.30)SD02北東に位置し並行。3×2間以上5.9×2.63m、柱間1.6 ～ 2.1m。棟をN―87˚―Wにとる。SD02と同時期か。

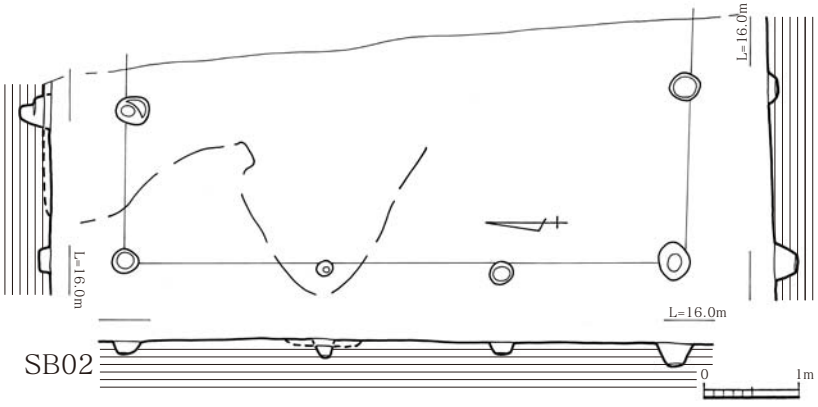


Fig.30　SB02実測図(1/80)

溝 4条検出しいずれも北流。**SD02**(Fig.29 Ph.56･57)調査区中央を北流し最大幅2.4m･深さ35㎝程で、粘質土の上面に粗砂が堆積する。

出土遺物(Fig.30)**2･3**は須恵器甕。**4**は土師器坏。**5**は黒色土器A埦。11世紀。

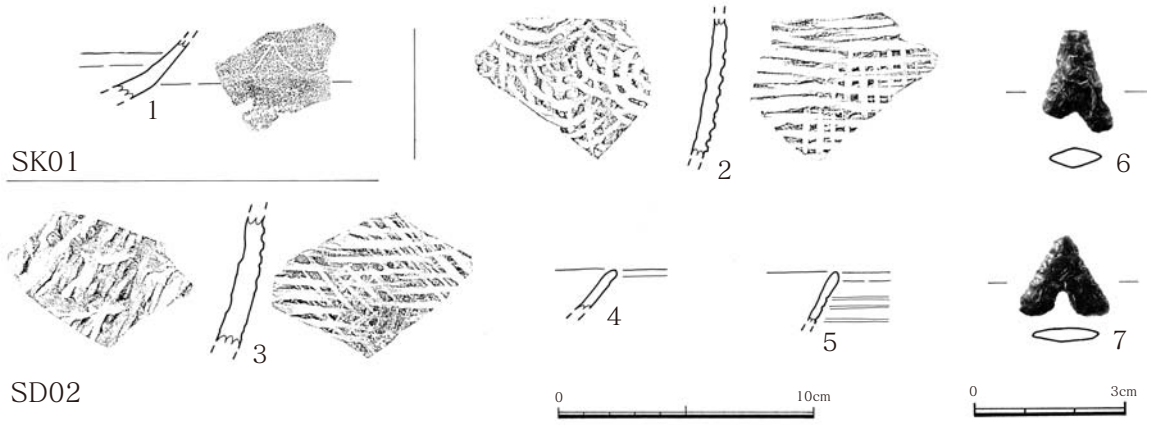
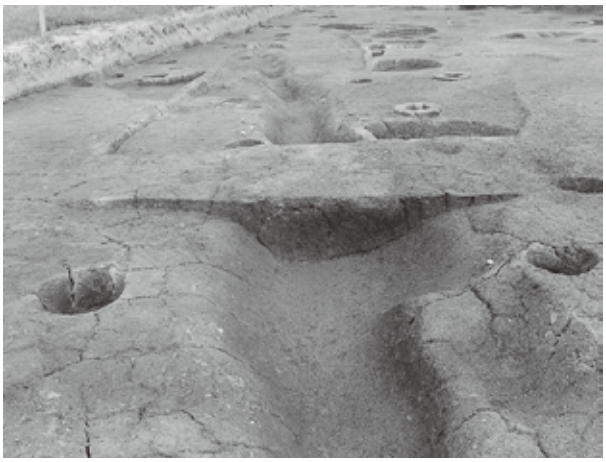


Fig.31　SK01･SD02出土遺物実測図(1/3･6･7＝2/3)



Ph.56　SD02土層断面(南から)

Ph.57　SD02(南から)

4. 3区の調査

2区東側･4次調査C区南側に隣接する調査区で調査面積228㎡。検出面標高約16ｍで1区より60㎝程下がる。北西部は表土下10㎝程暗灰褐色砂礫土の中世包含層･暗黄灰シルトの縄文包含層が堆積し明黄灰～暗褐色シルト･南部で耕作土直下で暗褐色砂礫層の遺構検出面となり、検出面は水平だが旧地形は北に傾斜する。検出した遺構は縄文時代土壙2基、古墳時代自然流路1条、中世掘立柱建物2棟他柱穴と、中世が主体を占める。

1).縄文時代の調査遺構は調査区北部の低位部に分布し、暗黄灰シルトの下面で土壙2基･柱穴を検出した。他に2次堆積で早期～晩期の土器片、黒曜石石鏃･石核･剥片等を検出している。

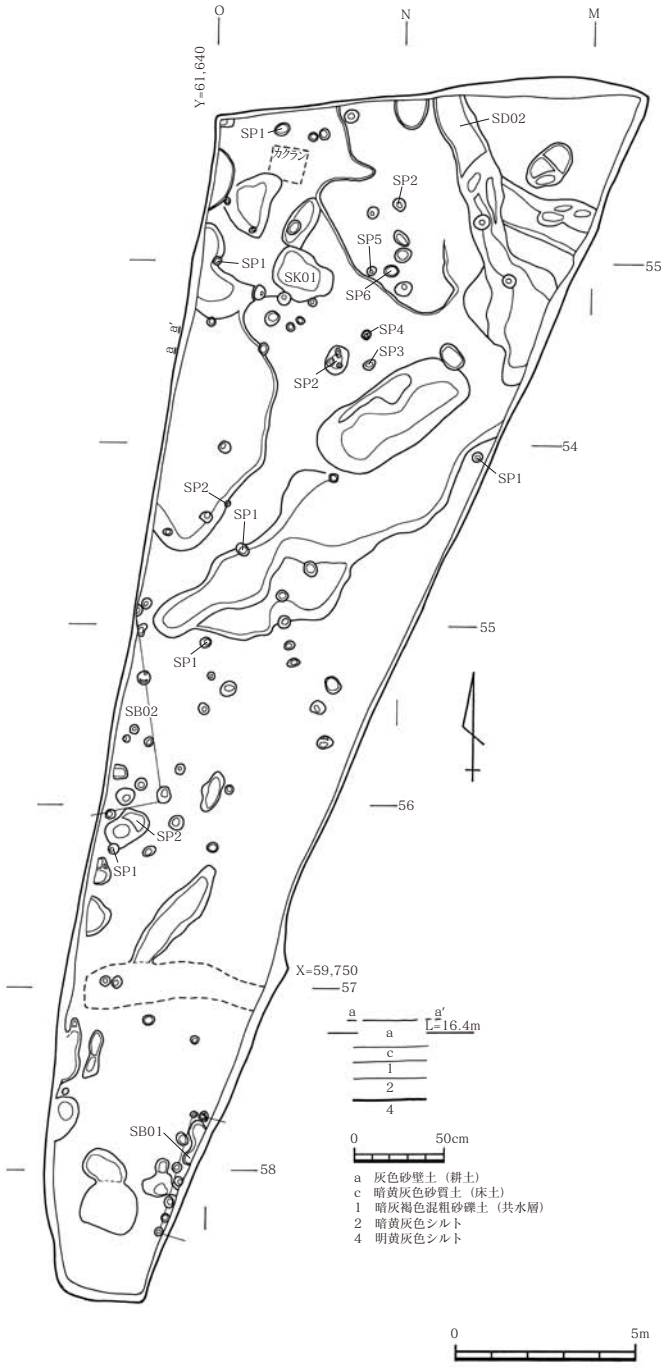


Fig.32 3区遺構全体図(1/200)

土壙**SK01**(Fig.33 Ph.60)O53グリッドに位置、1.7×1.2＋αm･深さ33㎝程の浅い土壙で覆土は暗黄灰シルト。

出土遺物(Fig.34)**1**は田村式期の押型文土器で､外面にやや粗い縦位の楕円押型文、内面ヨコナデ。鈍い黄橙色。

土壙**SK02**(Fig.33)P56グリッドに位置する円形二重土壙で1.22×0.82m･深さ68㎝。覆土は暗灰褐色土。黒耀石剥片出土。晩期。

5は中世包含層出土サヌカイト製石鏃。25×20×4㎜ 2g。

2).古墳時代の調査 調査区北東部の低位部に位置し、暗黄灰シルトの上面で流路1条を検出した。

溝**SD02**(Fig.33 Ph.61)調査区北東部を南南東に流れ最大幅5.3m･深さ15㎝程で、上部に灰褐色砂質土･下部に灰色粗砂礫が堆積。4次調査C区SD10と同一で、該区は古墳時代。**出土遺物**(Fig.34)**2**は弥生終末期甕底部。外面ナデ内面細かなヨコハケ後ナデ。

Ph.58 3区遠景(西から)

鈍い黄橙色。**6**は検出面出土古式土師器甕口縁。

3).中世の調査 遺構は調査区全面に分布し、南部で掘立柱建物2棟他柱穴多数を検出した。

建物:**SB01**(Fig.33)南端に位置し2×1間以上2.5×0.35＋αm、柱間1.15 ～ 1.35m。棟をN―64˚―Wにとる。**SB02**(Fig.33)中央西に位置し3×1間以上4.3×1.65＋αm、柱間1.3 ～ 1.8m。棟をN―81˚―Eにとる。**O53SP4**(Fig.33 Ph.62)径25㎝程の柱穴中位より土師皿2枚出土が重なって出土。

Ph.59　3区全景(西から)

Ph.60　SK01(南から)

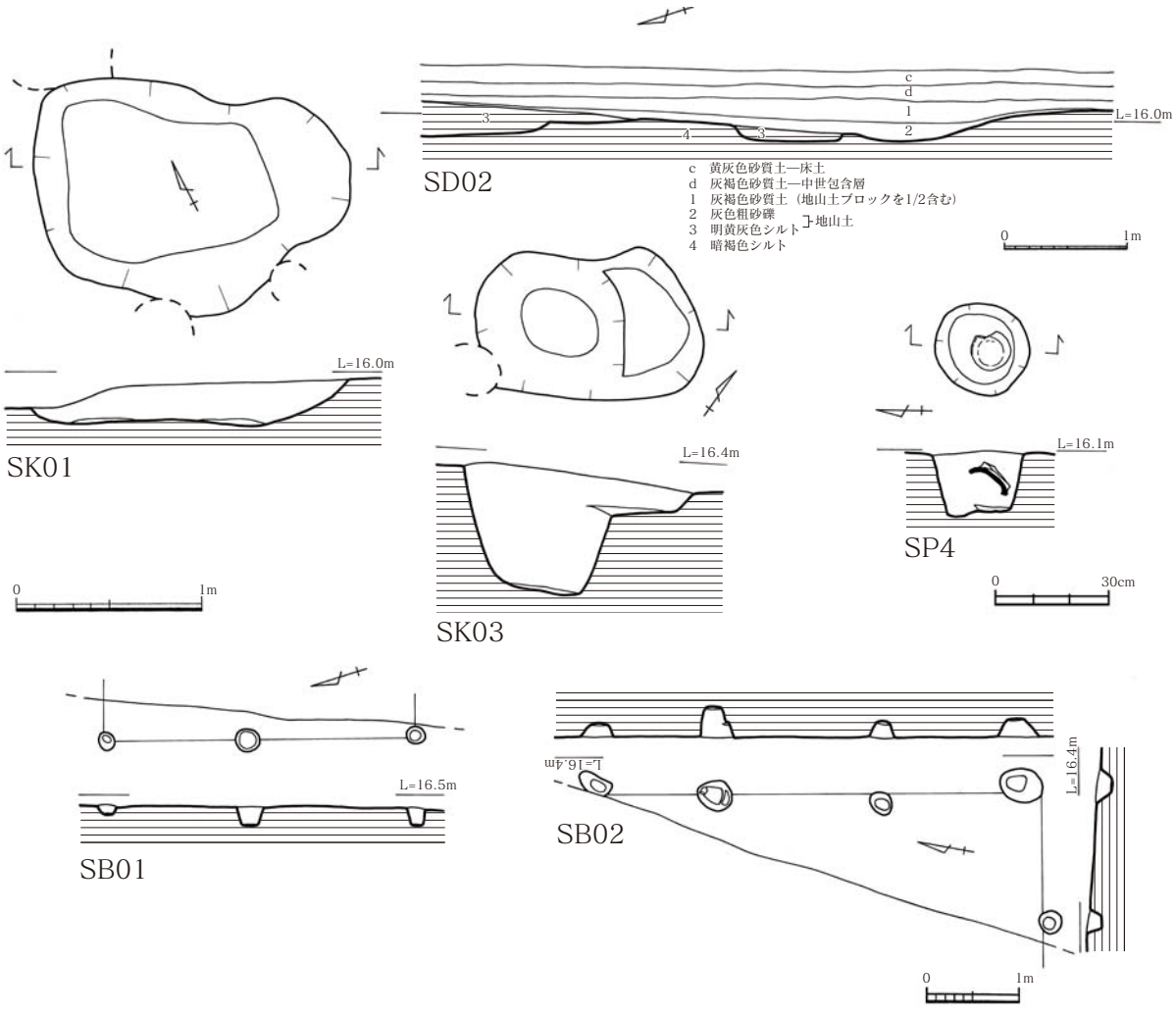
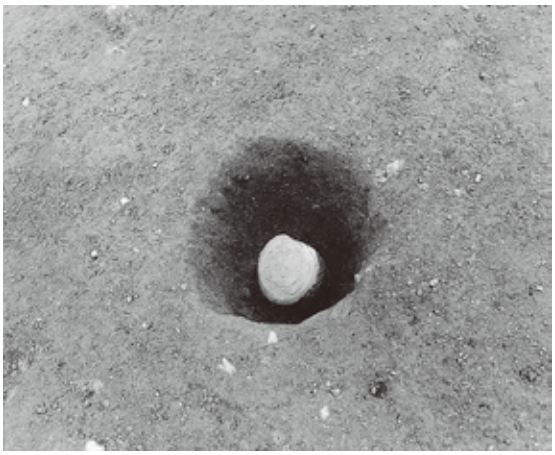


Fig.33　3区SK01･03(1/40)･SD02(1/60)･SB01･02(1/80)･SP(1/20)　実測図

Ph.61　SD02(南から)



Ph.62　0-53SP4土師器(南から)

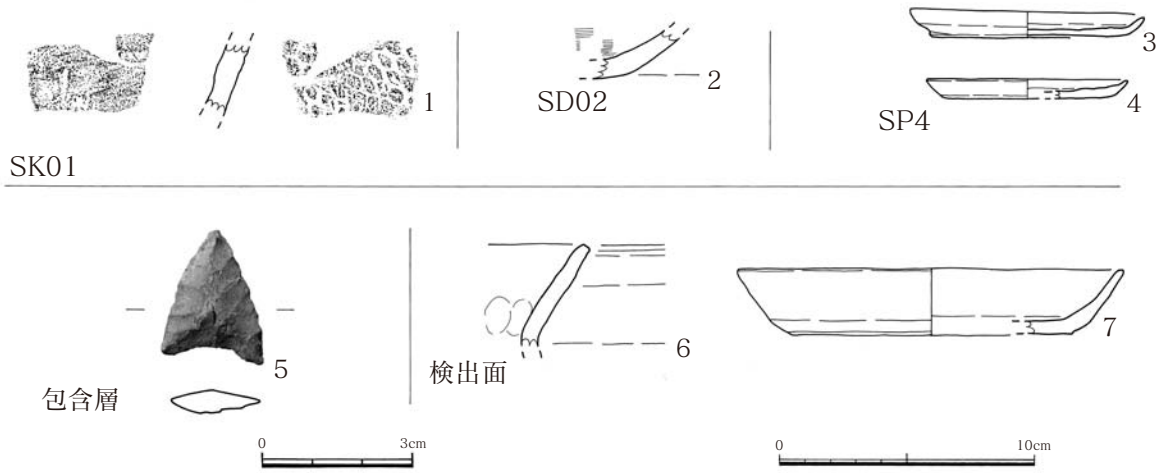


Fig.34　3区SK01･SD02･SP他出土遺物実測図(1/3･5＝2/3)

3は口径9.2器高1.1㎝。下面に板圧痕。**4**は口径8器高0.8㎝。12世紀後半。
7は検出面出土土師器坏。口径15.2器高2.5㎝。12世紀後半。

Ph.63　4区遠景(南から)

5．4区の調査

第4次調査C区西側に隣接する調査区で調査面積647㎡。検出面標高15.5～15.3mでC区より20㎝程下がる。北部は表土下10～20㎝程明黄褐色･灰褐色砂質土の縄文晩期包含層が堆積し淡黄灰シルト･南部で耕作土直下で黄灰色シルトの遺構検出面となり、旧地形は北に緩傾斜する。中世の遺構は表土直下で大部分検出したが、包含層中～下面で多くの縄文晩期遺構が検出された。調査は擁護壁工事と同時進行で期間も切迫した状

態であったため、調査区を二分し反転の上、上面での遺構検出後ベルトを残し下面の調査を同時に実施した。遺構時期検討後中世遺構は上面、晩期遺構は下面全体図に集約している。

検出した遺構は縄文晩期黒川式期土壙11基･倒木痕1基･掘立柱建物1棟他柱穴多数、中世土壙12基･井戸2基･溝5条･掘立柱建物9棟他柱穴多数である。

1).縄文時代の調査遺構は調査区中･北部の包含層中に分布し、土壙11基･倒木痕1基･掘立柱建物1棟他柱穴多数で大部分を淡黄灰シルト上面で検出した。中部の北西方向幅8m程のベルト内に大半が収まる。他に包含層･中世の2次堆積等で早期～晩期の土器片、石器を多数検出している。

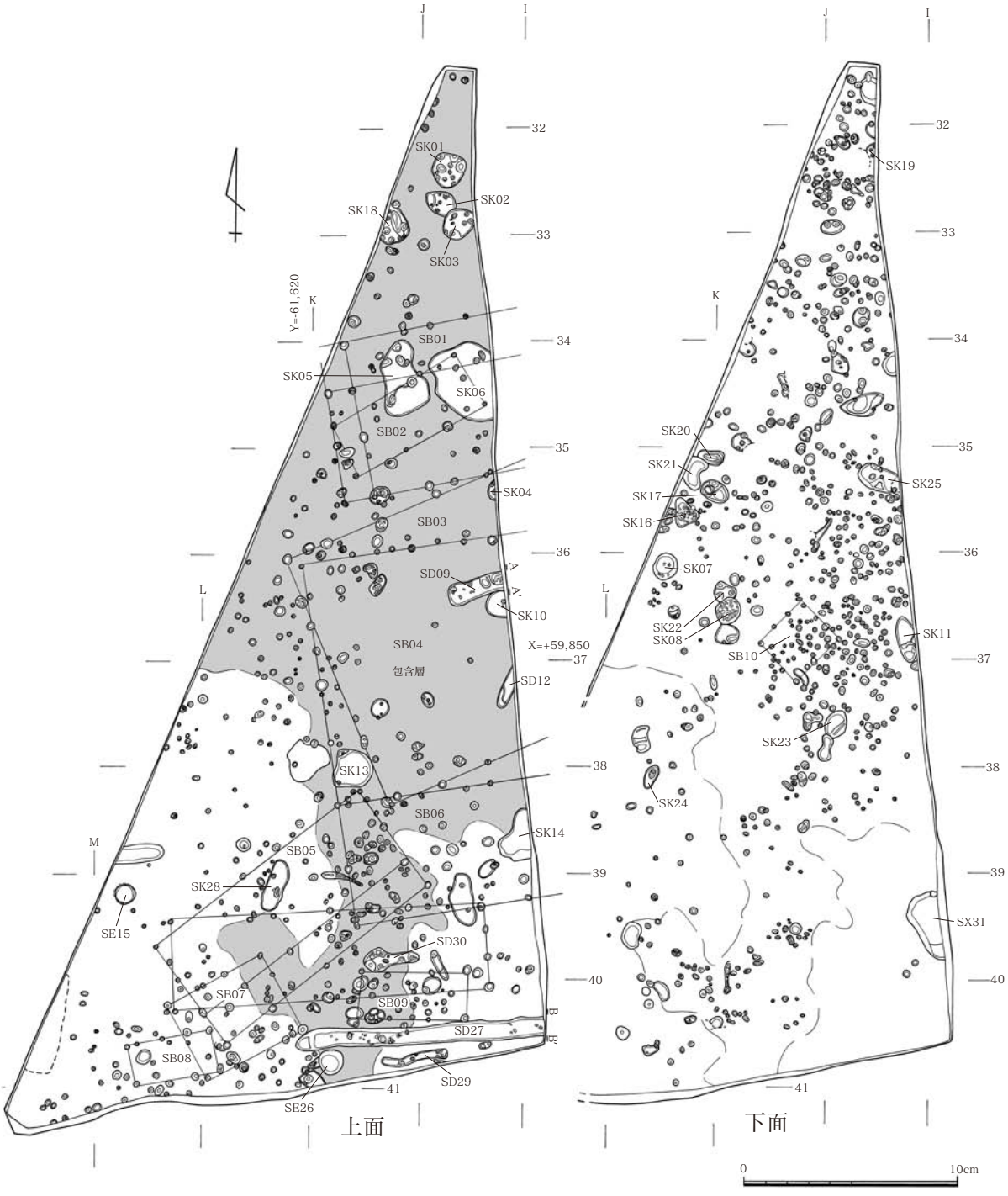
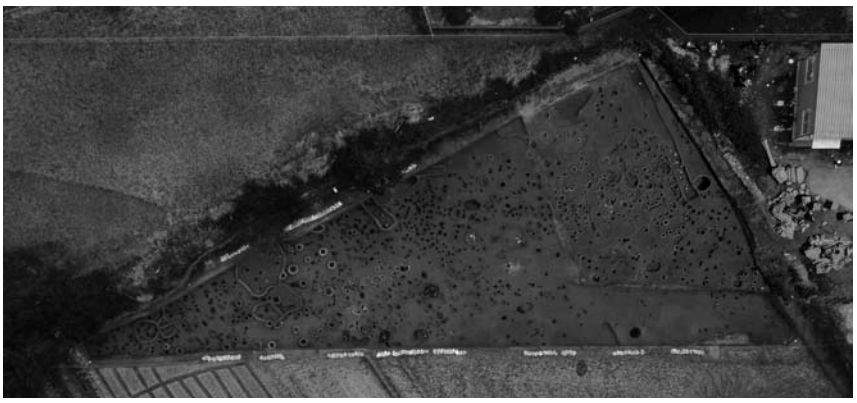


Fig.35　4区遺構全体図(1/300)

土壙**SK07**(Fig.36 Ph.65)中部西のL36グリッドに位置、1.23×1.08m・深さ40㎝程の円形土壙で遺物は少なく床から10㎝以上浮く。

出土遺物(Fig.37 Ph.66)**1～5**は条痕文粗製深鉢。**1**は肩が屈曲し口縁が直線的に外反。肩径29.6㎝。胴外面は粗いナナメ条痕・内面と口縁外面はヨコ貝殻条痕後緩いナデ。外浅黄橙～鈍い黄橙内灰黄褐色。**2**は同様の口縁端面に貝殻復縁を押圧。外面条痕後粗いナデ内面丁寧なナデ。外灰褐内鈍い赤褐色。**3**は半粗製の低い山形口縁。外面粗いヨコ条痕内面ヨコケンマ。内外褐灰色。**4**は径11.4㎝の円盤貼付底部。内外粗いナデ。外橙内褐灰色。**5**は屈曲肩部下破片で外面粗いヨコヘラナデ内面ヨコ貝殻条痕。褐灰色。6は黒耀石使用痕剥片。半折した横長剥片右片の下縁を使用。24×17×3㎜。黒川式期。



Ph.64　4区全景(西から)

土 壙**SK08**(Fig.36 Ph.67) K36グリッドに位置しSK22を切る。1.35×1.1m・深さ42㎝程の円形土壙で、床上10㎝程から壁に沿って多量の土器を検出した。

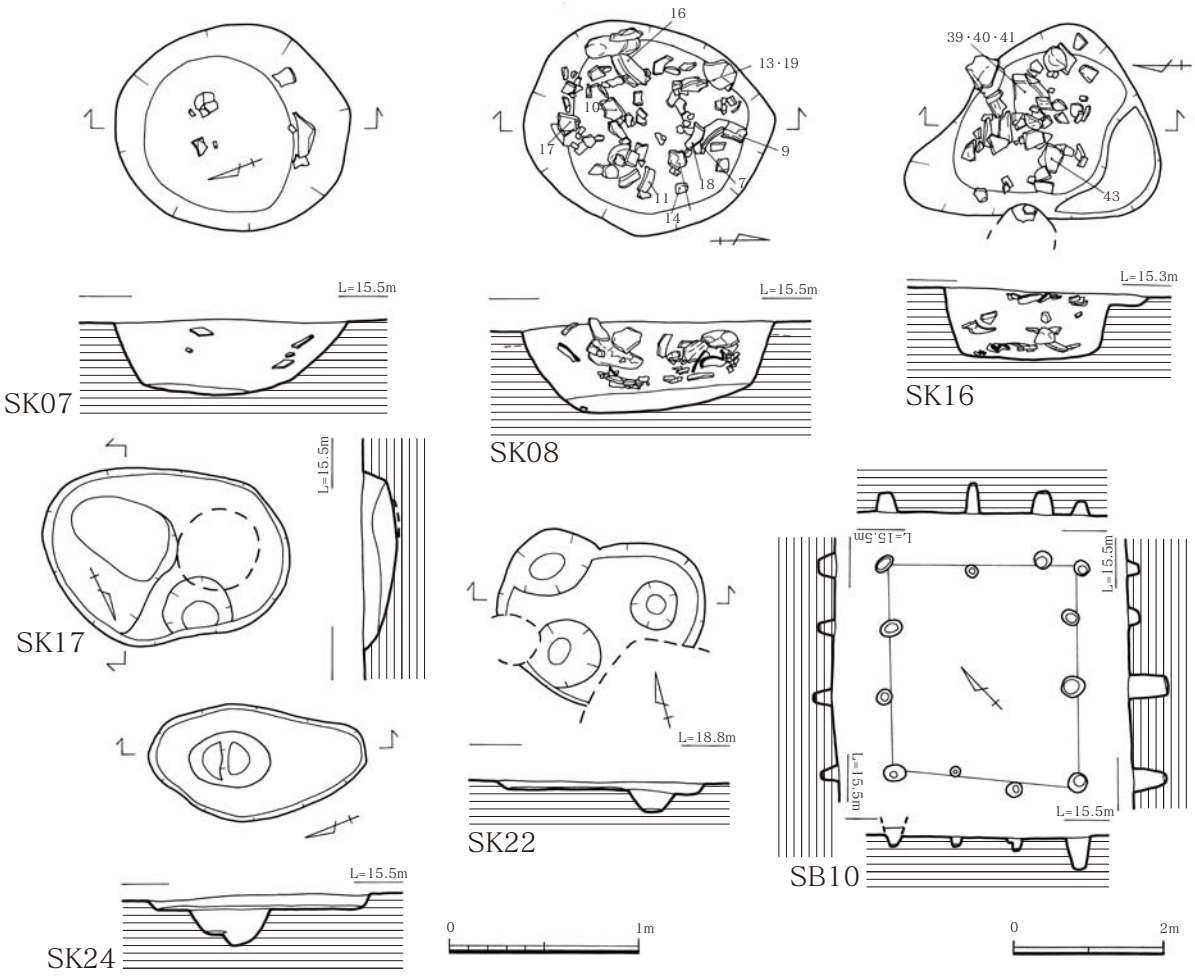


Fig.36　SK07・08・16・17・22・24(1/40)・SB10(1/100)実測図

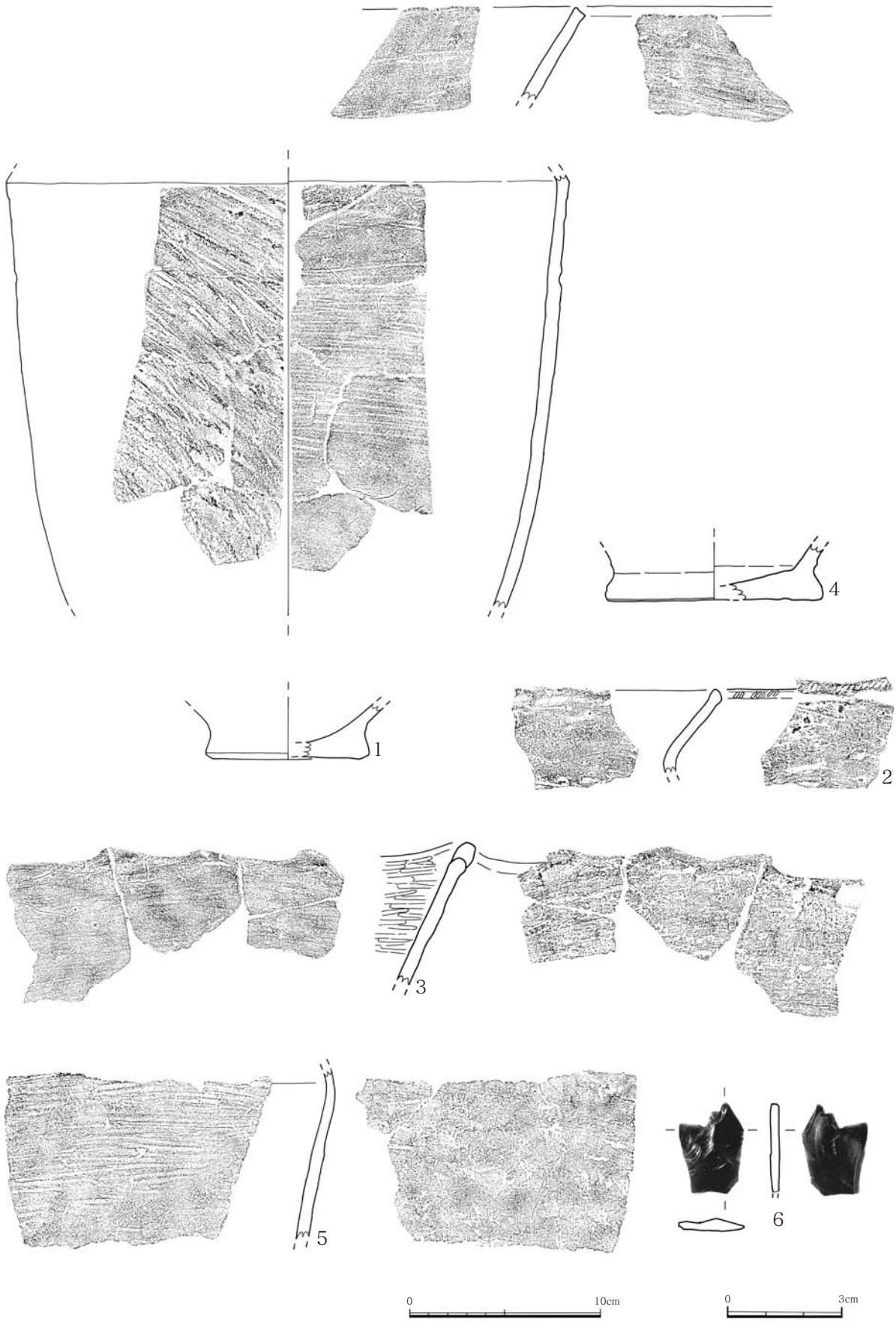
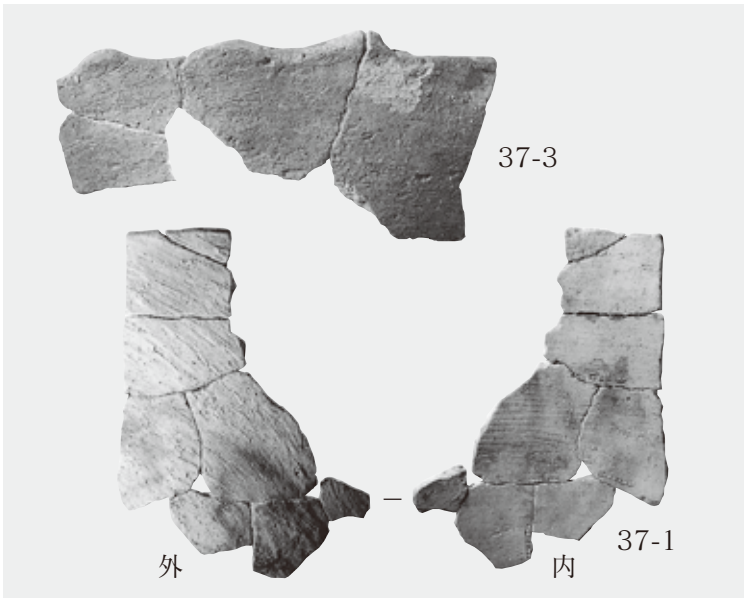


Fig.37　4区SK07出土遺物実測図(1/3･6＝2/3)

出土遺物(Fig.38 ～ 40 Ph.68)**7 ～ 15**は精製浅鉢。**7 ～ 9**は短頸で口縁より大きく張る扁球形の肩部を有する。**7**は口径29.4㎝。内外面丁寧なヨコケンマ。口縁帯外面に沈線1条施す。外鈍い赤褐～暗赤褐色内黒褐色。**8**は肩部湾曲が緩く口径38㎝。内外面やや粗いヨコケンマ。口縁帯外面に沈線1条施す。内外灰褐色。**9**は小型品で口径15㎝。内外面丁寧なヨコケンマ。内胴部下位タテケンマ。口縁帯をもたず口縁内面に沈線1条施す。外面肩部に凹点を施す。内外黒褐色。**10 ～ 12**は口頸部がやや長く肩部が強く屈曲する。**10**は口径49.4㎝。口径部内外面丁寧なヨコケンマ。肩部下内外はケズリ様の粗いナデ。口縁帯外面に沈線1条施す。内外橙色。**11**は口径40㎝。内外面粗いヨコケンマ。口唇に凹点を施す。外黒色内灰褐～黒褐色。**12**は肩部の張りが緩く口径33㎝。内外面に丁寧なヨコケンマ。口縁帯外面に沈線1条施す。外暗褐内灰黒色。**13**は肩部が口縁より大きく強く張る。口径22.4㎝。内外面丁寧なヨコケンマ。口縁帯を持たず口唇内外に沈線1条施す。内外黒色。**14 ～ 17**は無頸浅鉢。外面下半が被熱する。**14**は口径20㎝。内外面に粗いケンマ。外鈍い褐下半黒褐色内灰褐色。**15～17**は大型品。**15**は口縁を欠くが現況で径36㎝。内外面ヨコケンマ。外鈍い橙下半黒褐色内橙色。**16･17**は半精製品。**16**は口径48㎝。外面ヨコ条痕内面ヨコケンマ。外橙下半灰褐色内暗赤褐色。**17**は口径41㎝。外面粗いヨコ条痕内面粗いヨコケンマ。外橙～暗橙下半暗赤褐色内明赤褐色。**18 ～ 22**は粗製深鉢。**18･19**は頸･肩部の屈曲が無く、**18**は口径37㎝。外面ヨコ貝殻条痕内面ヨコナデ。外暗褐内褐灰色。**19**は口径14.6㎝。口唇外面が肥厚。外面ヨコ条痕内面ヨコナデ。外灰褐内鈍い橙色。**20**は屈曲する口縁で外面粗いヨコ条痕内面ヨコ条痕後ナデ。外橙内橙～灰褐色。**21**は底径10.4㎝の円盤貼付底部。外面ケズリ様のナナメ･タテヘラナデ内面ナデ。外底に条痕が残る。外鈍い赤褐内灰黒～鈍い黄橙色。**22**は底径10.8㎝の円盤貼付底部。内外面ナデ外底に条痕が残る。外橙内鈍い黄橙色。**23**は小型土器の取手。薄い耳状で3.1×2.3×0.5㎝。指頭圧後ナデ。中央をヘラ刺突で穿孔する。橙色。**24･25**は粗製深鉢胴部片の土器片円盤。周縁を打ち欠いて円形に整形。ともに半折する。**24**は径4.2厚6㎜。**25**は径5.1厚5㎜。**26**は粗粒砂岩石皿小片。上面は摩耗して窪み側面は敲打で平面に整形。**27 ～ 35**は黒曜石製石器。**28**は両面調整の晩期石

Ph.65　SK07(東から)



Ph.66　SK07出土遺物

鏃。**27·28**は駒形。ともに先端を欠く。現況で**27**は17×15×3.5㎜。**28**は14×14×2㎜。**29**は大型の三角鏃。現況で17×29×4㎜を測る。**30**は両面調整の摘形石器を再加工した石錐。切断部の両面からの調整剥離で刃部を形成。25×20×5.5㎜ 2g。**31**は使用痕剥片。角礫の表皮を残す厚めの打面再生剥片の主に右辺を使用。45×29×11㎜ 12g。**32**は表皮を残す縦長剥片の下辺を裏剥側から刃部調整した掻器。45×29×11㎜ 12g。**33 ～ 35**は石核。**33**は円礫を用いた細石刃核。左·裏面に自然面を残す。上面右からの1打の打面調整·下面裏からの調整剥離後上面から9枚剥離する。15×37×22㎜ 10g。風化が進む。**34**はパミスを多く含む。角礫で5面に自然面を残す。上面右からの1打の打面調整後3枚剥離する。29×39×24㎜ 28g。**35**は板状礫で4面に自然面を残す。上面からの2打の階段状剥離で放棄。裏面左方からの縦剥ぎで彫刻刀面を形成か。11×40×40㎜ 12g。主に黒川式期。

土壙**SK16**(Fig.36 Ph.69)中部西のSK07の北1.5mに位置、1.35×1.07m·深さ40㎝程の隅丸三角形の二重土壙で、底面近くと上面に遺物が集中する。

出土遺物(Fig.41·42 Ph.70)**36·37**は精製浅鉢。**36**は口径42㎝。内外面丁寧なケンマ。口縁内外に沈線1条。口唇に幅2.8㎝の小さな突起を貼付。黒褐色。**37**は口径23.4器高7.6㎝。内外面丁寧なケンマ。口唇に幅1㎝の小さな突起を貼付。灰褐～黒褐色。**38 ～ 42**は粗製深鉢。**38**は口縁帯の外面に貝殻条痕で沈線を、以下にヘラ描きの斜格子文。内面ナデ。外浅黄橙～灰黄褐内灰黒色。天城式期。**39·40**は短い屈曲肩部から長い口縁が外反。**39**は口径31㎝。外面ヨコ貝殻条痕内面ナデ。灰黄褐～黒褐色。**40**は口径35㎝。外面ヨコ貝殻条痕内面指頭圧後ナデ。外灰褐～鈍い黄橙内褐灰色。**41**は直口口縁。口径18底径6.5㎝。外面ヨコ貝殻条痕内面条痕後ナデ。外灰黄褐～橙内黒褐色。**42**は肩径39㎝。外面粗いヨコ条痕内面粗いナデ。鈍い黄橙色。**43**は半精製無頸鉢。口径42㎝。外面粗いヨコヘラナデ。口縁下に補修孔。外灰黄褐～黒褐色内黒褐色。主に黒川式期。

土壙**SK17**(Fig.36)中部西のSK16の北東0.6mに位置、1.34×0.92m·深さ22㎝の楕円形二重土壙で、少量の遺物が出土する。

出土遺物(Fig.43)**44**は粗製深鉢で底径6.2㎝。外底上部にタテ条痕。他はナデ。外鈍い橙内明灰褐色。**45**は安山岩円礫の磨石。上下面と側面の一部が平滑に摩耗し、主に周縁を叩きに用いる。61×51×36㎜ 132g。他に黒耀石剥片が出土。晩期前半。

土壙**SK22**(Fig.36)中部西のK36グリッドに位置しSK08に切られる。1.37×0.96m·深さ42㎝の楕円形土壙で、少量の遺物が出土する。

出土遺物(Fig.43)**46**は半精製無頸浅鉢口縁。外面はヨコ条痕内面ヨコケンマ。外面浅黄橙色内面は褐灰色を呈す。他に精製浅鉢片が出土する。黒川式期。

土壙**SK24**(Fig.36)土壙群から離れL38グリッドに位置する。1.17×0.63m·深さ26㎝の楕円形土壙で、少量の遺物が出土する。

出土遺物(Fig.43)**47**は精製浅鉢肩部小片。外面上位内面頸部はヨコケンマ以下にヨコナデ。外面淡橙～橙色内面橙色を呈す。他に粗製深鉢片が出土。黒川式期。

建物**SB10**(Fig.36)下面のJ36グリッド付近に位置する。包含層が良好に依存しながら竪穴住居は検出されず、代わりに多数の柱穴が北東方向に並ぶ傾向で検出された。このうち組み合いそうな柱穴をピックアップしたもので3×3間2.9×2.45m、柱間0.5 ～ 1.25m。棟をN―42°―Eにとる。堀方円形で径18 ～ 30深さ12 ～ 40㎝。このような堀方を持たない平地式住居が多数組み合わされると考えられる。

出土遺物(Fig.44)**48**は精製浅鉢口縁部小片。内外ケンマで口縁外面に2条の沈線を施す。外面灰黄褐色内面灰黒色。他に粗製深鉢片·黒耀石石核が出土する。晩期前半。

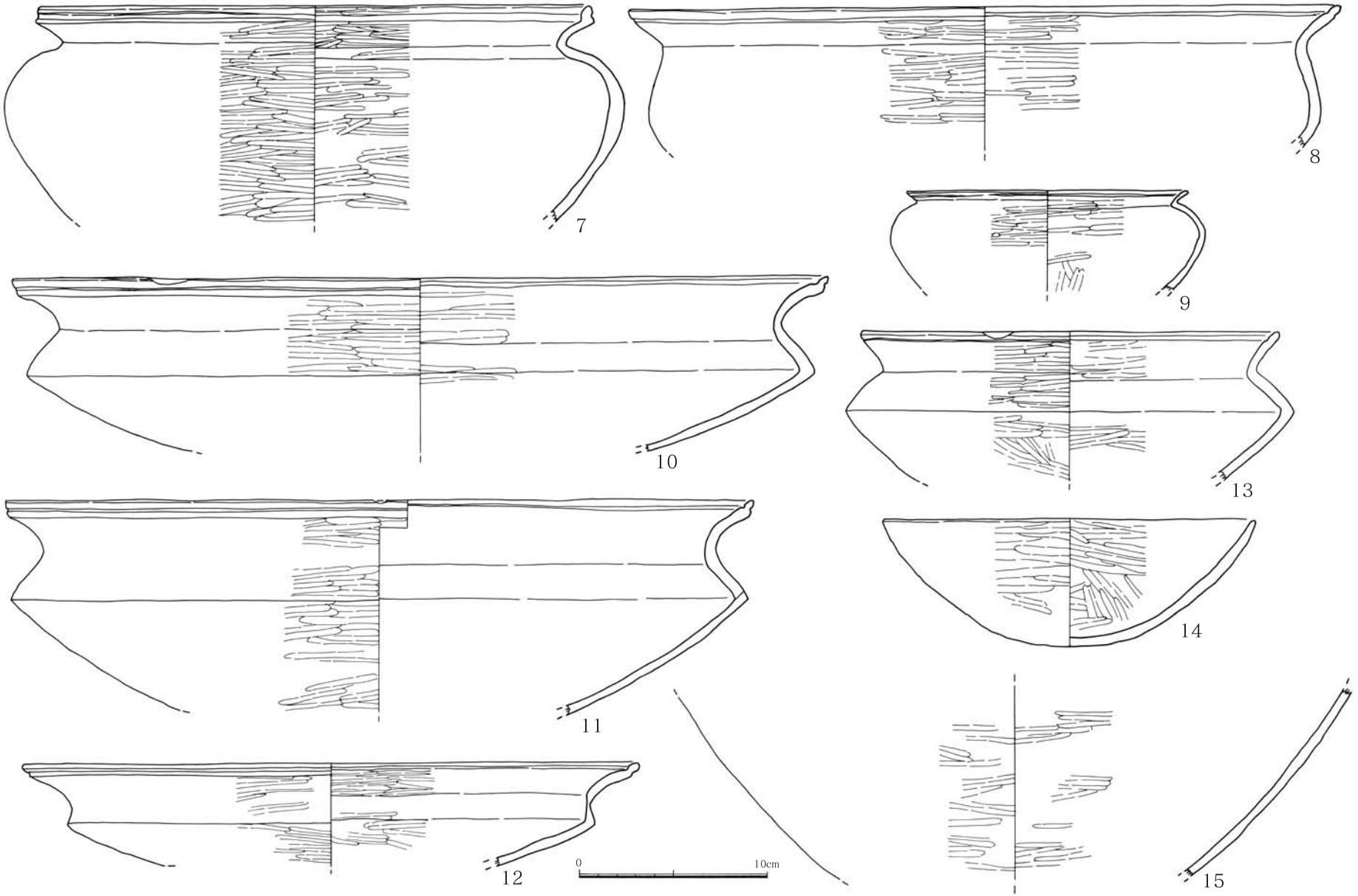


Fig.38　4区SK08出土遺物実測図・1(1/3)

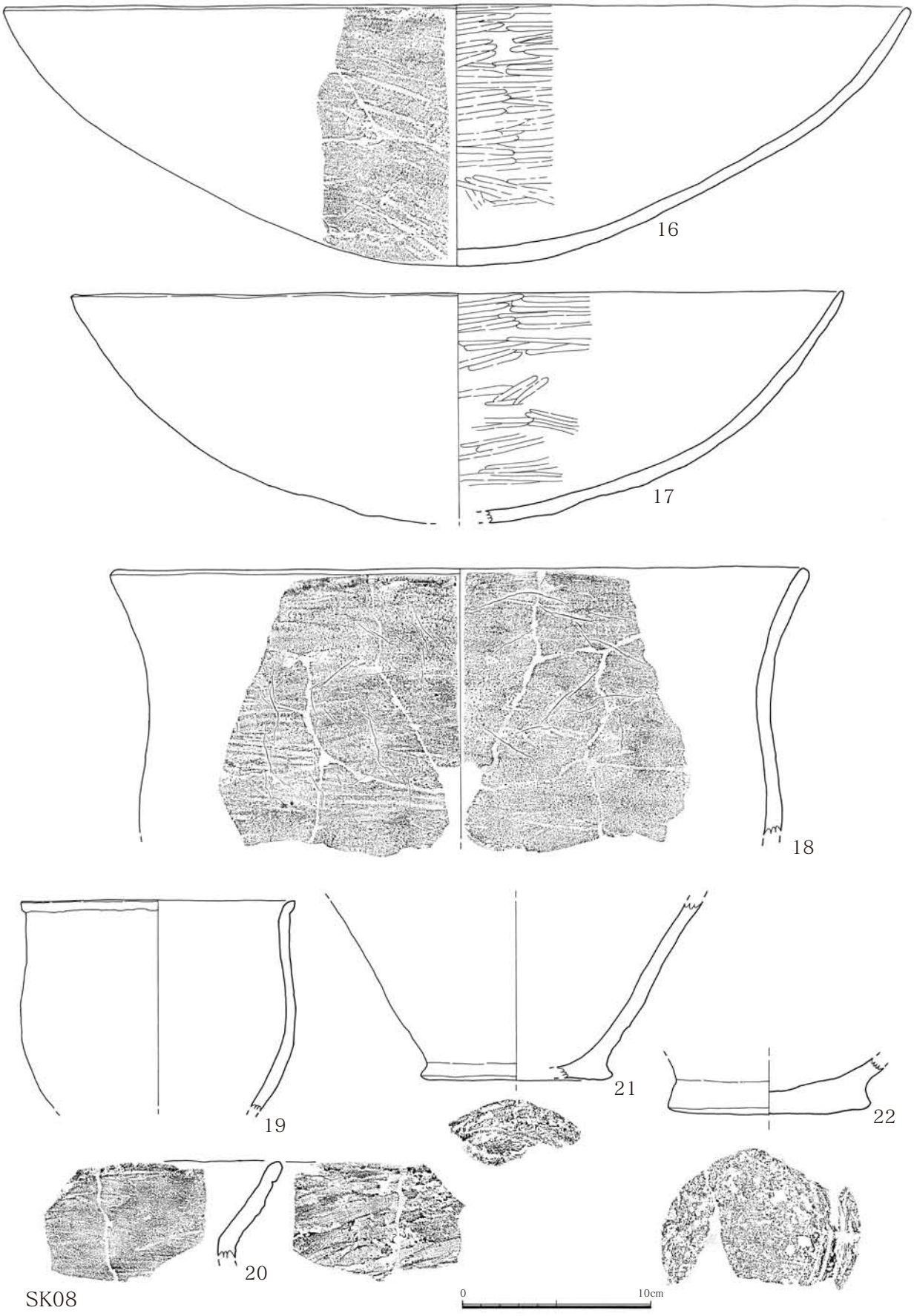


Fig.39　4区SK08出土遺物実測図･2(1/3)

柱穴出土遺物(Fig.44 Ph.71)**49 ～ 64**は包含層下検出の柱穴出土遺物。**49**･**50**は精製浅鉢。**49**は肩が湾曲する浅鉢で内外ヨコケンマ。口縁内外に沈線1条。黒褐色。**50**は短い口縁帯に低い山形突起を貼付。外面に沈線1条。内外ヨコケンマ。褐灰色。**51 ～ 57**は粗製深鉢。**51**は2同様口唇に貝殻復縁の押圧文。外面ヨコ条痕内面ヨコナデ。鈍い黄橙色。**52**は外面ヨコ条痕内面ヨコナデ。褐色。**53**は口唇を連続押圧。外面ヨコ条痕内面ヨコナデ。外黒褐内浅黄橙色。**54 ～ 56**は夜臼ⅡB式で同個体か。**54**は口縁。細い突帯に刻目。内外ヨコナデ。突帯下に補修孔。鈍い黄橙色。**55**は小さな肩部突帯に刻目。鈍い黄橙色。**56**は底径9.6㎝。内外ヨコナデ外底はヘラナデ･ケズリ。外鈍い黄橙内灰黄色。**57**は底径7.6㎝。

Ph.67　SK08(東から)

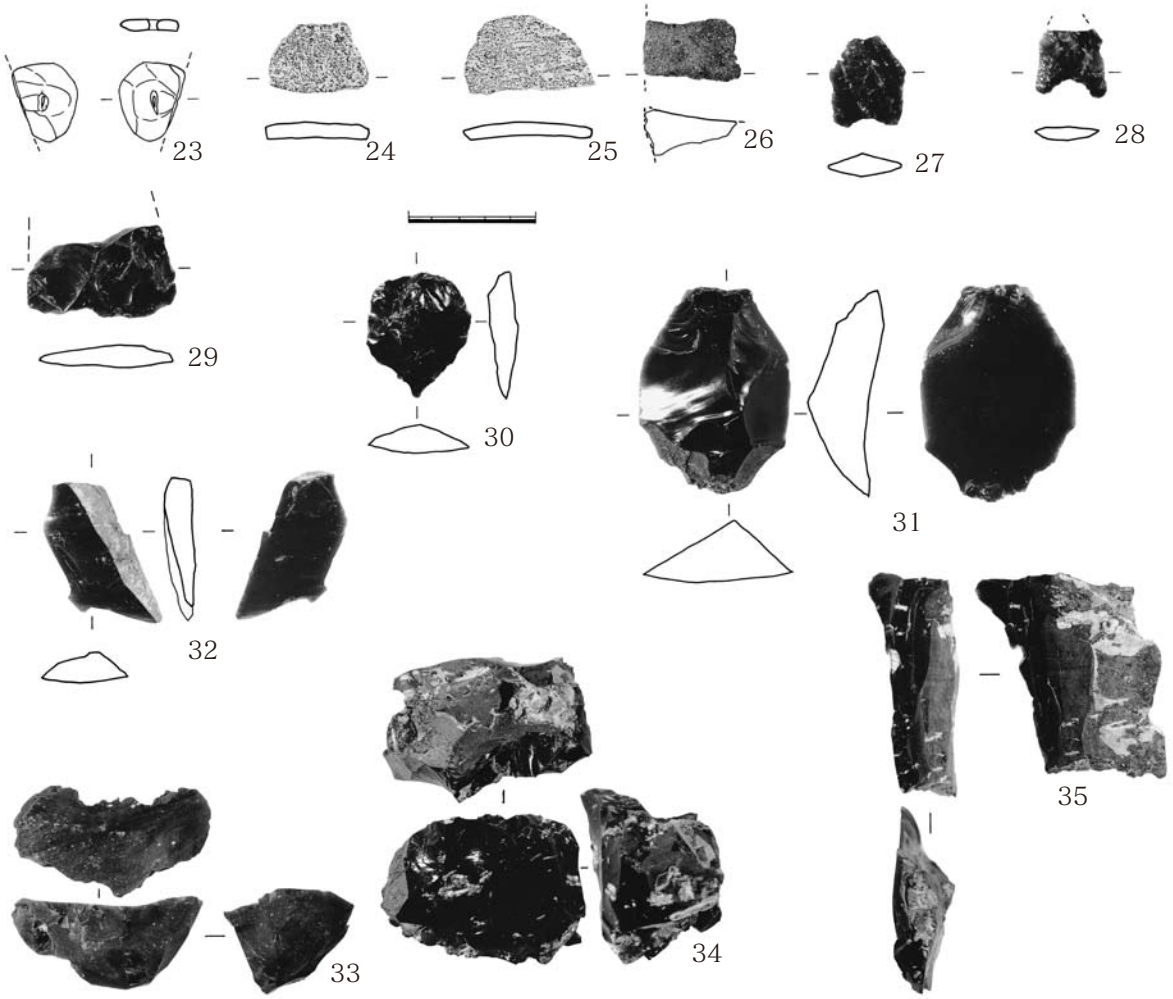
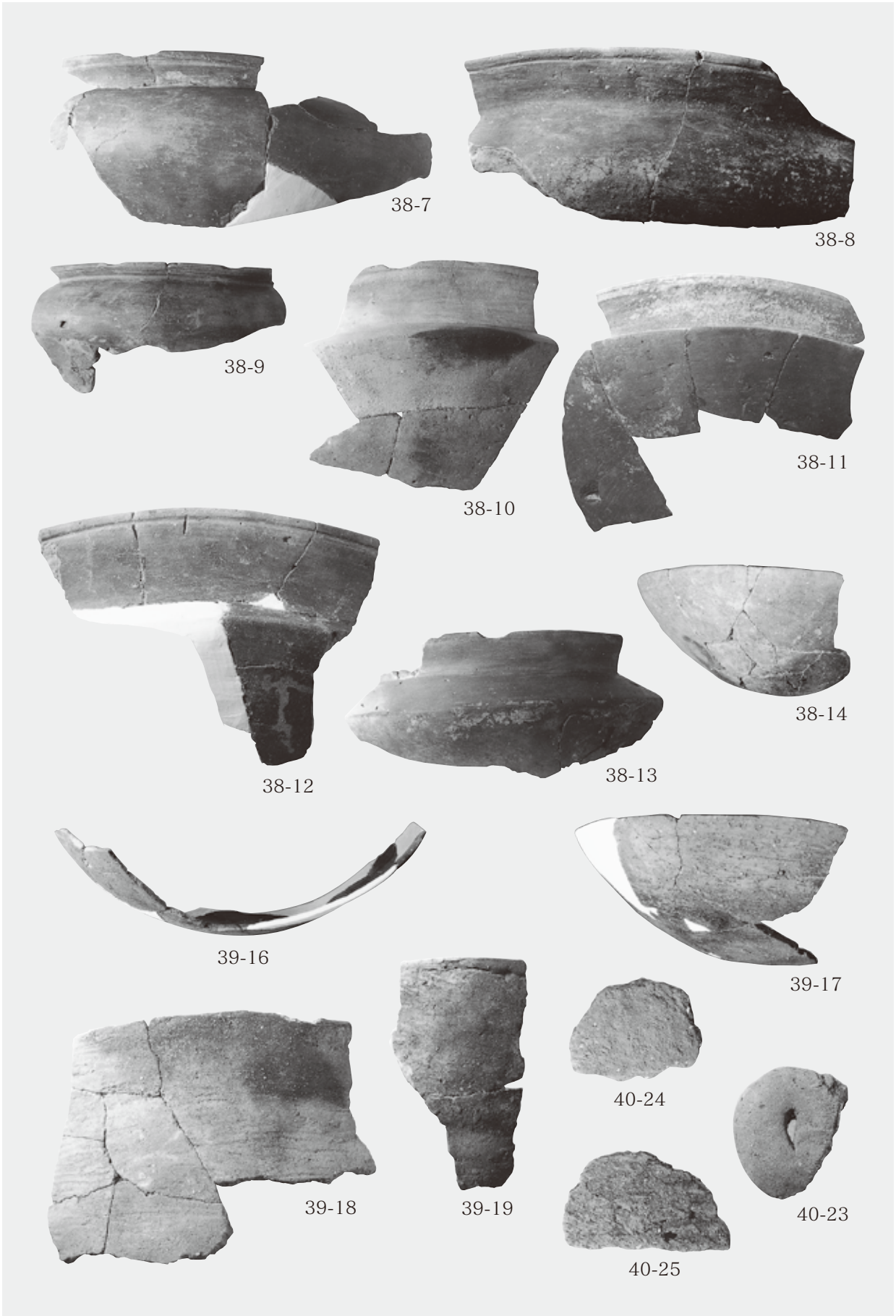


Fig.40　4区SK08出土遺物実測図･3(1/3･26 ～ 35＝2/3)



Ph.68　SK08出土遺物

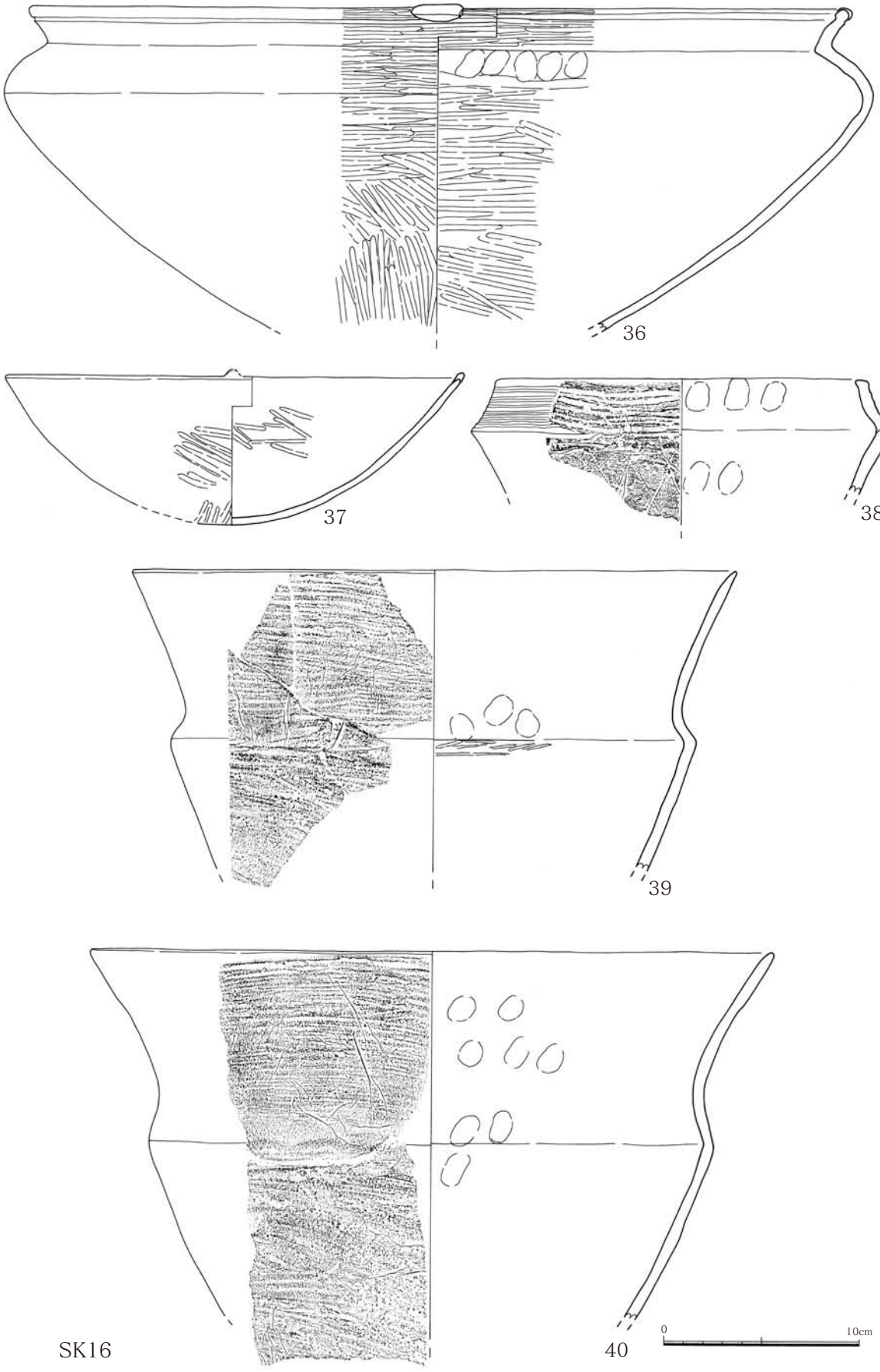


Fig.41　4区SK16出土遺物実測図･1(1/3)

内外ヨコナデ外底はヘラナデ。外鈍い黄橙内褐灰色。**58～63**は黒耀石製石器。**58**は細石刃核。舟底形に整形し両側を横から調整剥離。打面は刃潰し状の細かな調整剥離後擦る。上面から3面剥離。殆ど風化しない。30×16×22㎜ 12g。**59**は鍬形鏃の脚部欠損品を再生。19×12×3㎜ 1g。**60**は摘み形石器で両面調整。裏剥側から折断。18×16×5㎜ 2g。**61**は横長剥片を主剥側から半折し破断面に刃部形成した掻器。12×16×5㎜ 1g。**62·63**は石錐。**62**は縦長剥片の両側を刃潰しし先端に刃部形成。33×18×7㎜ 4g。**63**は横長剥片の上辺·下辺を錯向の直交剥離で厚い刃潰しを行い右先端に刃部を形成。32×20×8㎜ 5g。**64**はサヌカイト製削器。横長の打面再生剥片の主剥側から半折した、下辺と切断面の裏剥側から調整剥離。60×60×15㎜ 43g。以上黒川式期が主体を占める。

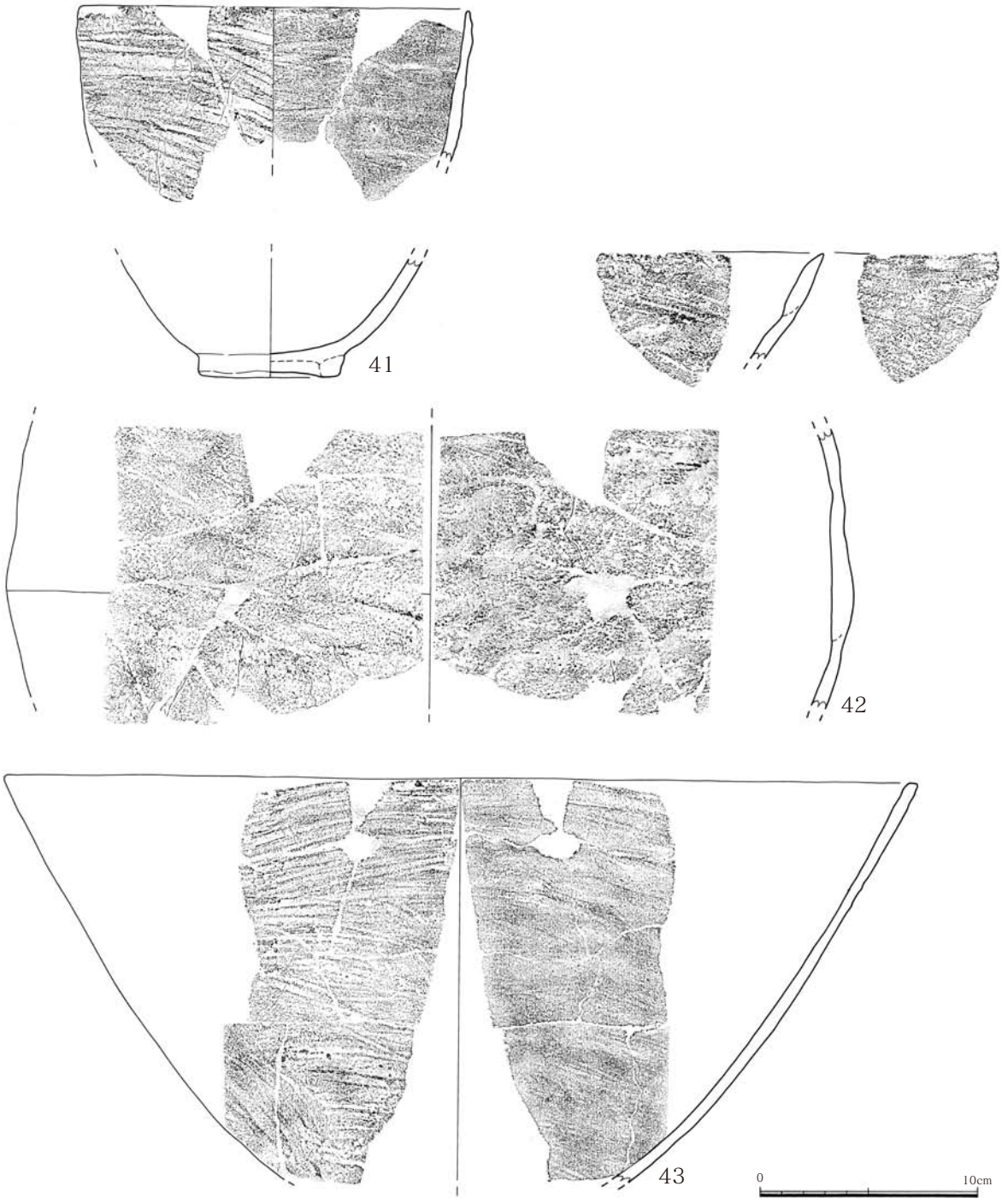
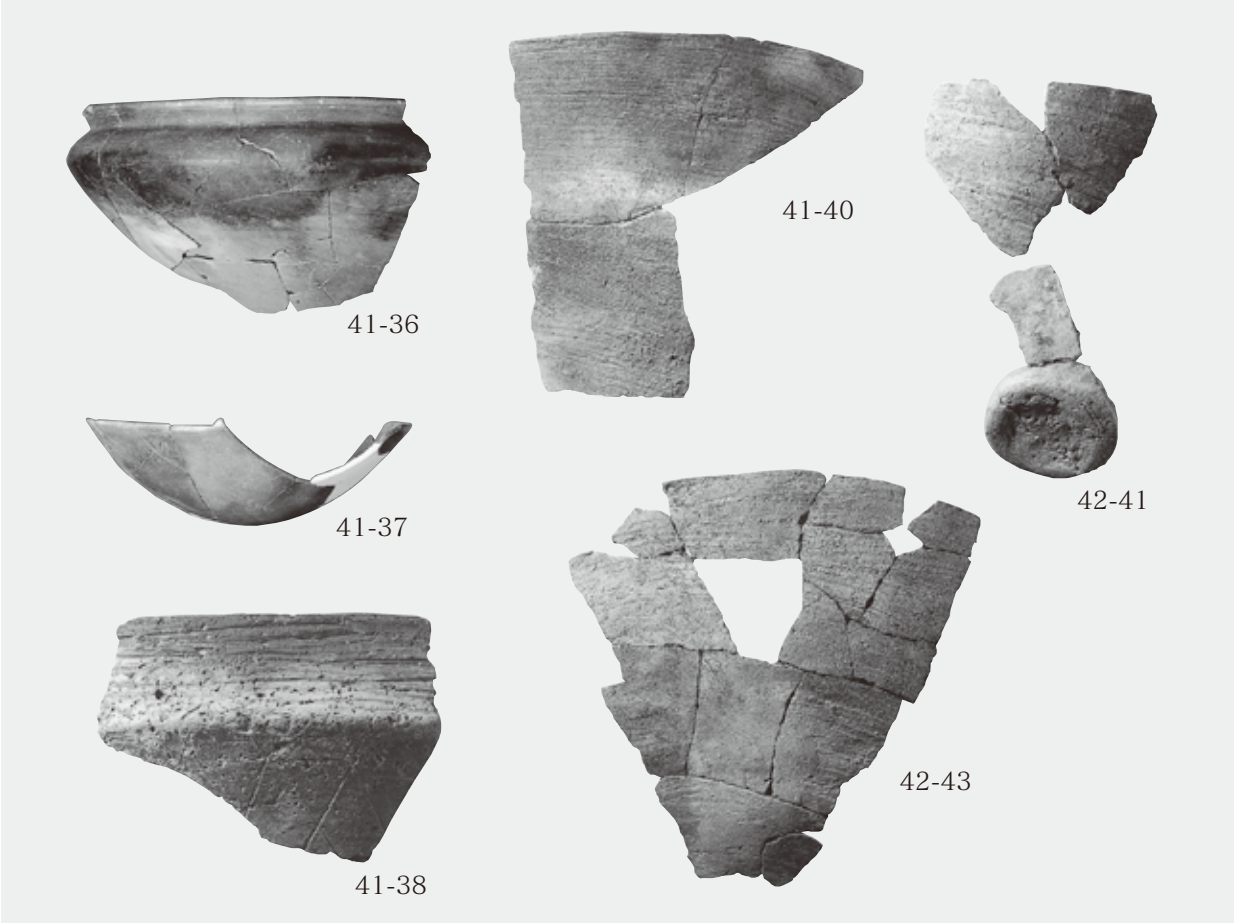


Fig.42　4区SK16出土遺物実測図·2(1/3)

包含層出土遺物(Fig.45 Ph.72)**65**は精製浅鉢。口径29㎝。肩は殆ど張らず口縁内外に沈線1条を施す。内外面ヨコケンマ。鈍い橙～褐灰色を呈す。**66**は半精製浅鉢。短い口縁帯外面に沈線1条施す。外面ヨコ条痕内面ヨコケンマ口縁内外にヨコナデを施す。浅黄橙色を呈す。**67**は丹塗り研磨壷胴部。内面鈍い黄橙色を呈す。**68～74**は粗製深鉢。**68**は口唇に凹点を施し、内外面に粗いヨコナデ後外面に直線のヘラ描き文を施す。橙色を呈す。**69·70**は夜臼ⅡB式。**69**は口縁。細い突帯に刻目を施す。内外ヨコナデ。鈍い橙色を呈し端部が黒変する。**70**は袒形甕直口口縁。内外面にヨコナデ、外唇に細い刻目を施す。黒褐色を呈す。**71**は半粗製。外反口縁で径45㎝。外面ヨコ·ナナメ条痕内面ヨコケンマを施し灰褐～黒褐色を呈す。**72**は阿高式系。口唇に連続押圧。内外面はナデ。外面にタテ凹線を施す。滑石·赤色粒を含み鈍い赤褐色を呈す。**74**は底径8㎝。内外面ナデ。外浅黄橙内鈍い黄橙色を呈す。**75**は浅鉢か壷底部。径8.8㎝。内外面ナデ外底にヘラナデを施す。**76**は楕円押型文深鉢。外面縦位

Ph.69　SK16(東から)



Ph.70　SK16出土遺物

の大粒の楕円押型文内面にナデを施す。外鈍い褐内黄橙色。**73**は土器片円盤。径3.7～4.2厚0.6㎝11g。周縁を打ち欠き。**77～80**は石鏃。**77･78**は黒耀石製。**77**は鍬形鏃で脚部を欠損。30×15×4.5㎜。**78**は駒形鏃で脚欠損部を再生。20×14×3.5㎜ 1g。**79･80**はサヌカイト製。**79**は33×18×4㎜ 2g。**80**は23×18×3㎜ 1g。**81～84**は黒耀石製。**81**は使用痕縦長剥片。パミスを含み左･下辺を主に使用。39×22×6㎜。**82**は石錐。横長剥片の下辺を直交剥離で厚く刃潰しし、両側から調整剥離で打点部に刃部形成。20×20×7㎜ 2g。**83･84**は掻器。**83**は打面再生剥片の下辺主剥側から調整剥離。20×26×8㎜ 4g。旧石器～早期。**84**は角礫隅剥片の自然面に主剥側から直交剥離で調整。右側も使用する。

Fig.43　SK17･22･24出土遺物実測図(1/3)

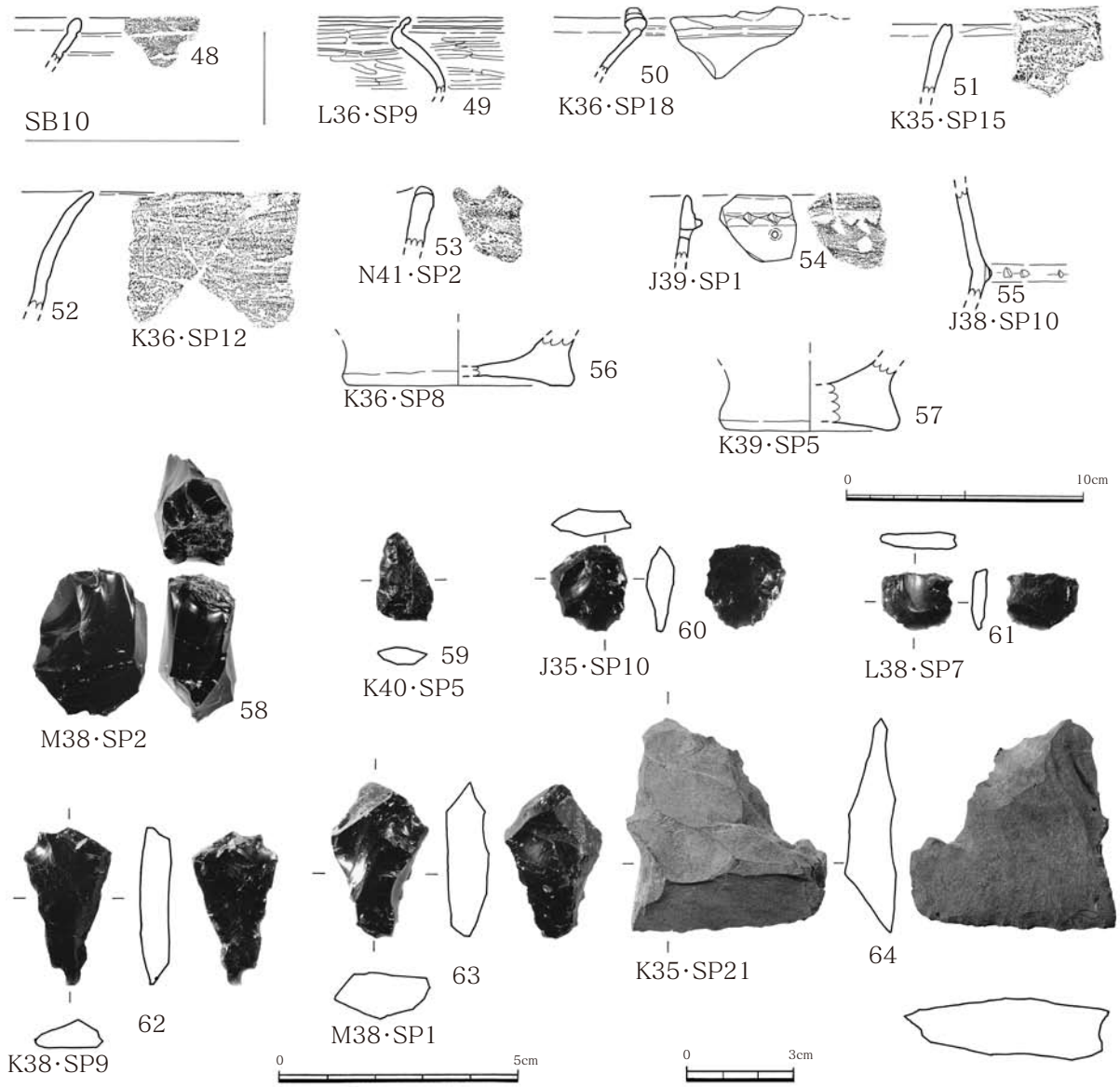


Fig.44　SB10他SP出土遺物実測図(1/3･58～63＝2/3･64＝1/2)

混入その他の遺物(Fig.46 Ph.73)**85 ～ 91**は中世遺構混入遺物で、**85･86**は横位楕円押型文。**85**は内面ナデ。鈍い黄橙色。**86**は内面口縁部に横位に施す。他はナデ。鈍い黄橙色。**87 ～ 91**は晩期資料。**87**は粗製深鉢口縁で低い波状の口唇に貝殻復縁を押圧する。内外面ヨコ条痕。鈍い黄橙色。**88**は夜臼式壷口縁。径14.6㎝。内外面ケンマ。橙色**89**は浅鉢底部径9㎝。外面ヘラナデ内面ナデ。外鈍い黄橙色内黒色。**90･91**は磨製石斧。ともに刃部欠損。結晶片岩製。断面方形に整形し全面研磨。

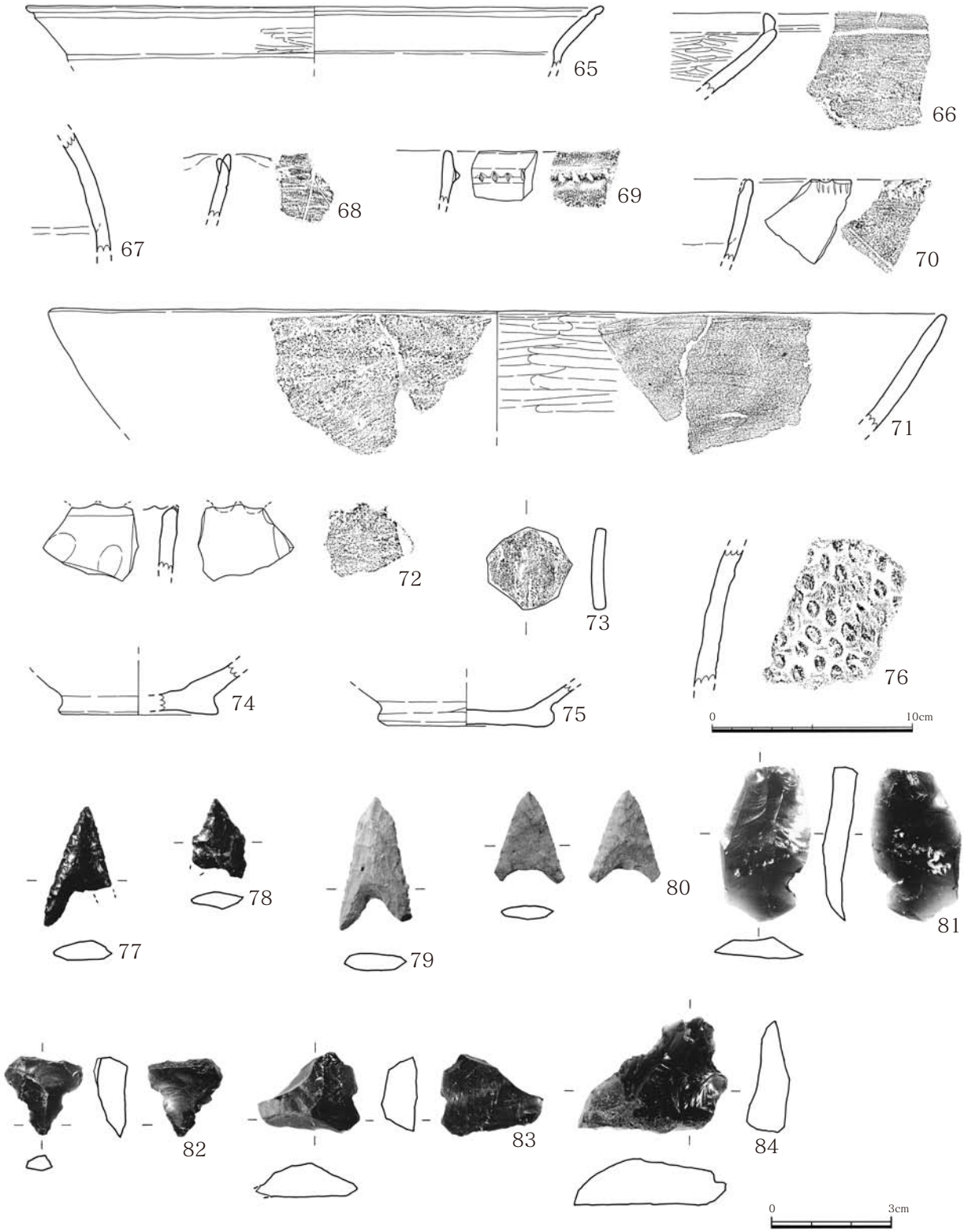
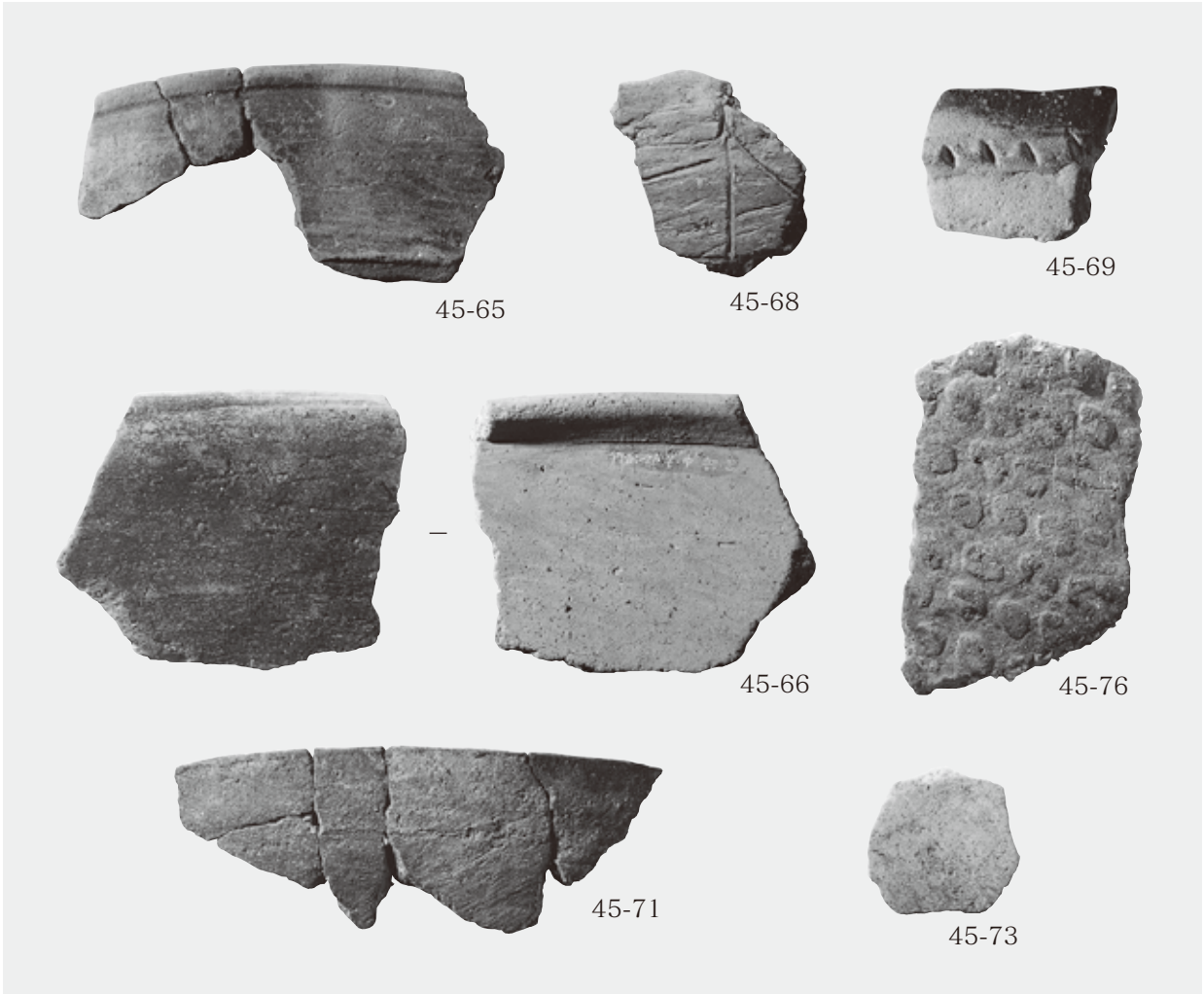


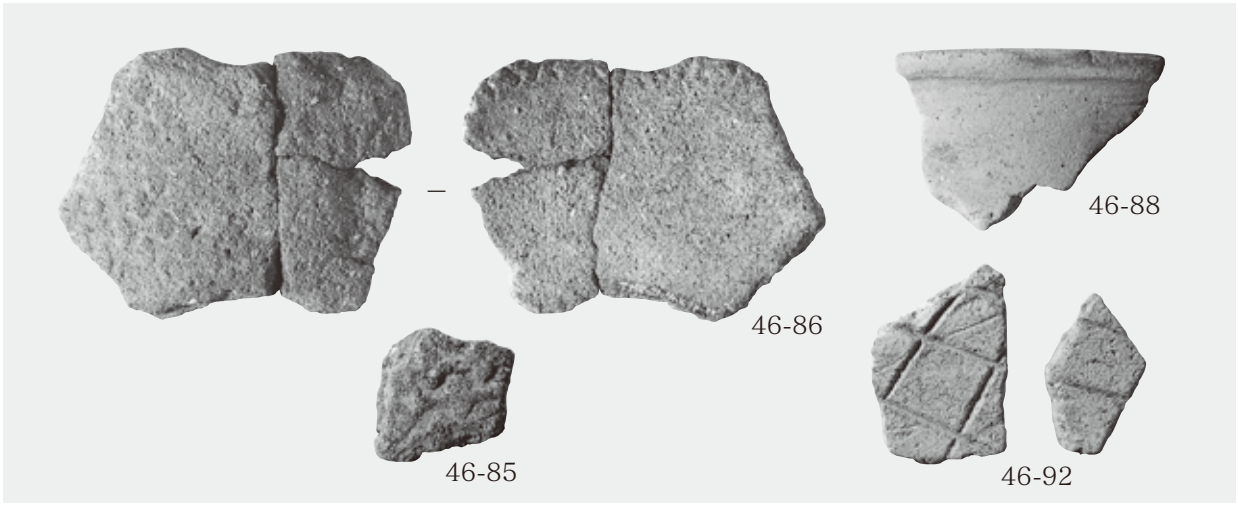
Fig.45　包含層出土遺物実測図(1/3･77 ～ 84＝2/3)

現況で90×54×21㎜。明灰色。**91**は敲打成形中の未製品で202×94×38㎜。淡褐色。**92 ～ 95**は検出面出土。**92･93**は晩期粗製深鉢。**92**は頸部で内外面ヨコナデ後外面にヘラ描き斜格子文を施す。鈍い黄橙色。**93**は口縁で内外面に指頭圧後ナデ。内面下位はタテ条痕。外面鈍い黄橙色内面橙色。**94**は黒曜石製大型剥片鏃。両端部を欠く。現況で30×22×4㎜。**95**は花崗岩円礫の磨石。表裏2面が平滑となる。周縁は浅い敲打。128×110×54㎜。灰白色。

Ph.71　4区SP出土遺物



Ph.72　4区包含層出土遺物



Ph.73　4区混入その他の縄文遺物

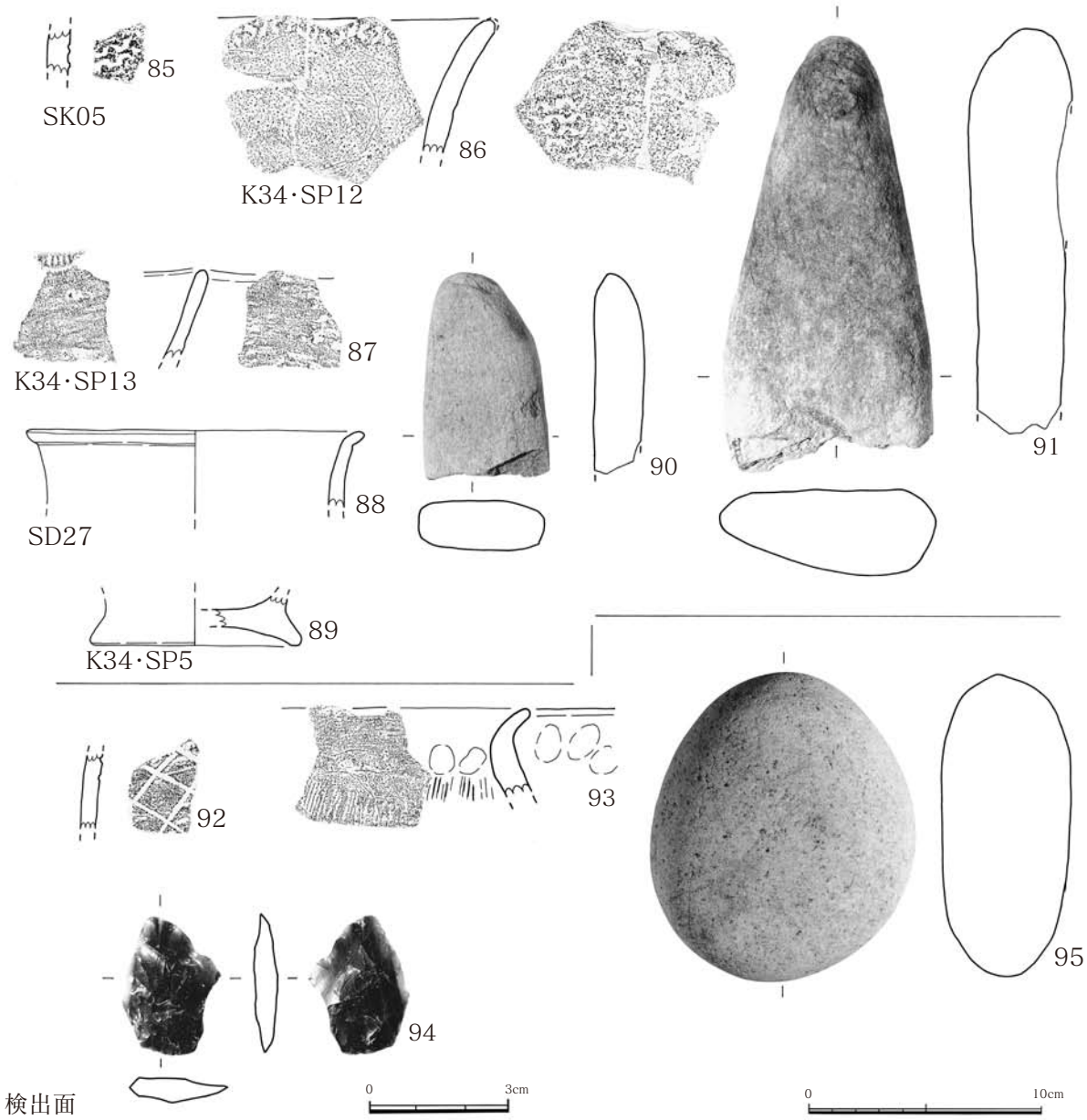


Fig.46　混入・検出面出土遺物実測図(1/3・94＝2/3)

2).中世の調査　遺構は縄文包含層上面を中心に調査区全面で検出した。検出した遺構は土壙12基･井戸2基･溝5条･掘立柱建物9棟他柱穴多数で、東･北･南に隣接する第4次調査区からの広がりであり、建物･溝の幾つかは第4次調査区に連なる。殊に柱穴の多さ･建物の規模は4次調査区を凌駕し、遺跡内で該期の中枢であることを示している。

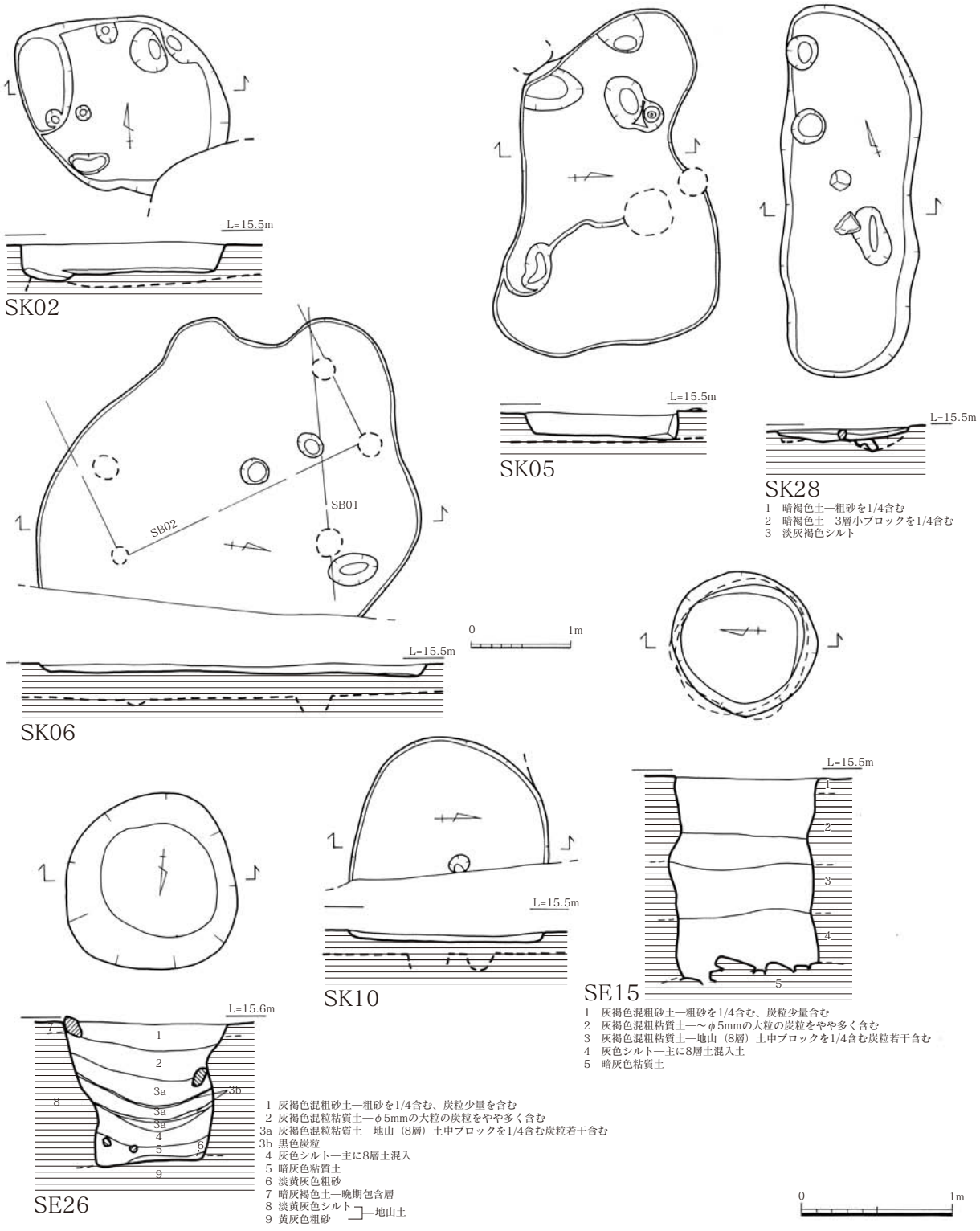


Fig.47　SK02･05･10(1/60)･02･28･SE15･26(1/40)実測図

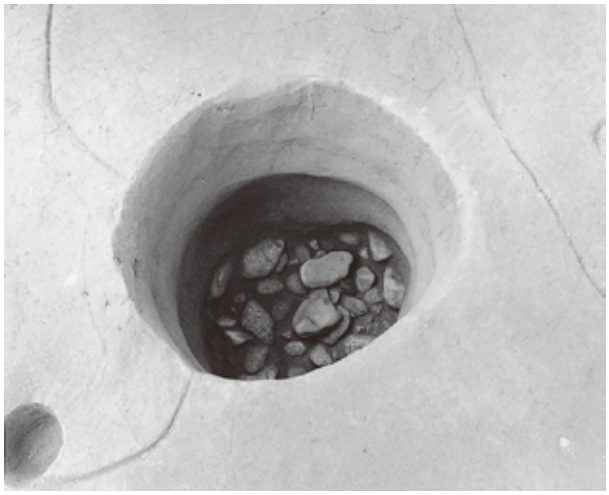
①土壙　土壙は12基検出し、うち8基が北半部に位置する。

SK02(Fig.47)北端のJ32グリッドに位置し、土壙4基が密集する。1.35×1.18m・深さ42cmの楕円形土壙で遺物が少量出土する。

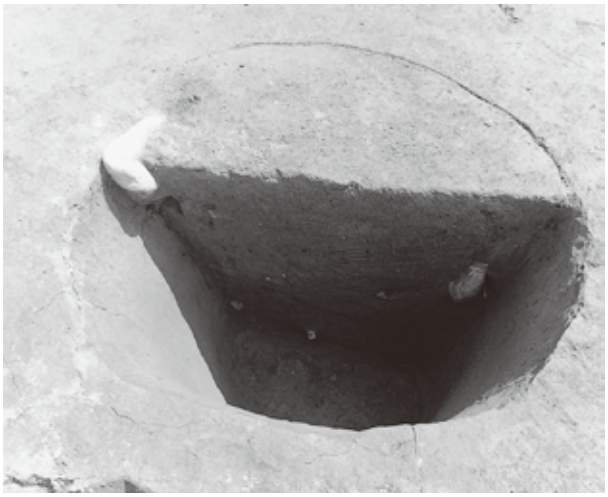
出土遺物(Fig.48)**96**は土師器埦。底径6.9cm。内外面回転ナデ。鈍い黄橙色。他に坏・甕・黒色土器B・石鍋が出土する。11世紀後半。

Ph.74　SK05(北から)

Ph.75　SK06(西から)



Ph.76　SE15(東から)



Ph.77　SE26土層断面(北から)

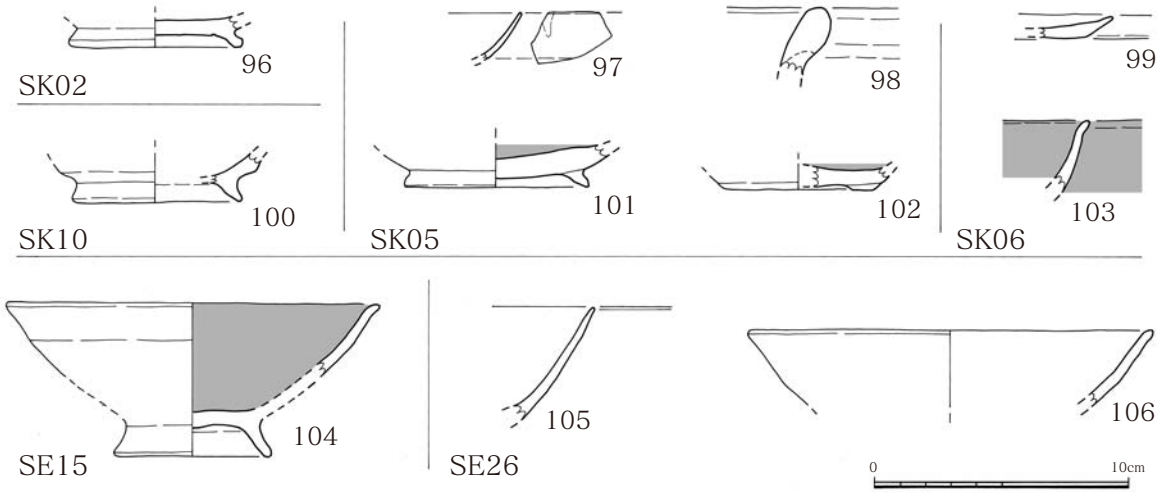
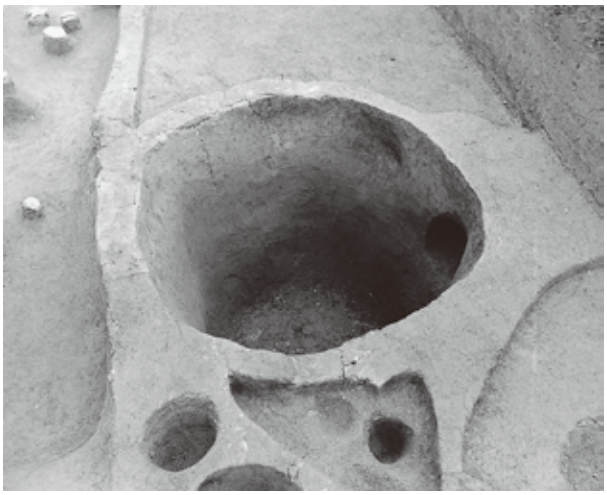


Fig.48　SK02・05・06・10・SE15・26出土遺物実測図(1/3)



Ph.78　SE26(西から)

Ph.79　SD09(北西から)

Ph.80　SD27(西から)

Ph.81　SD27遺物出土状況(南から)

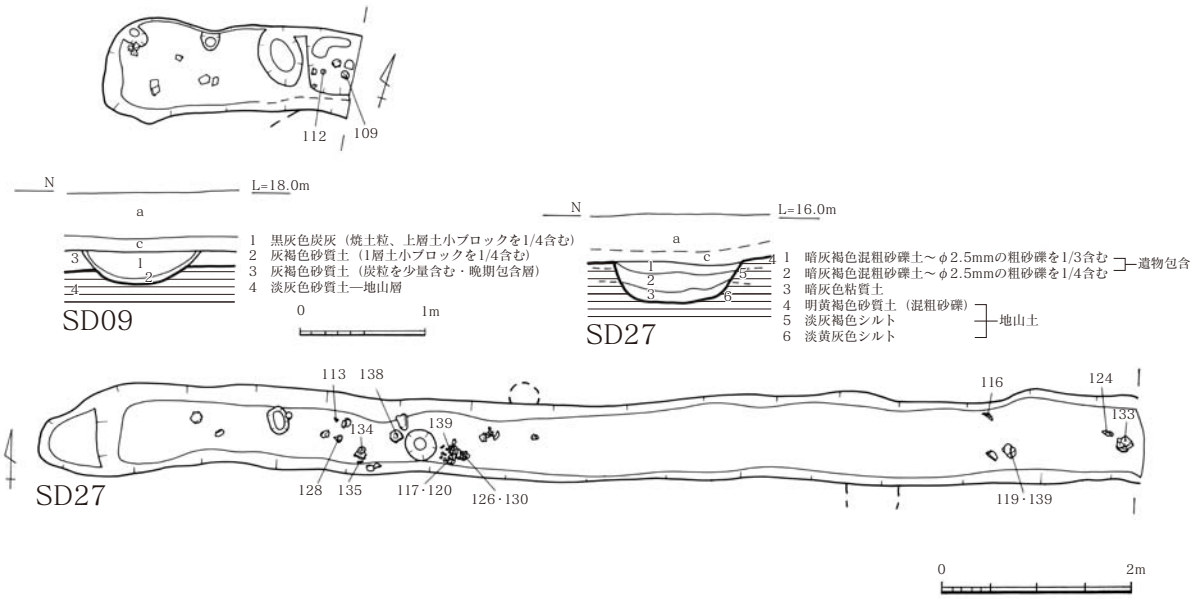


Fig.49　SD09･27実測図(1/80･1/60)

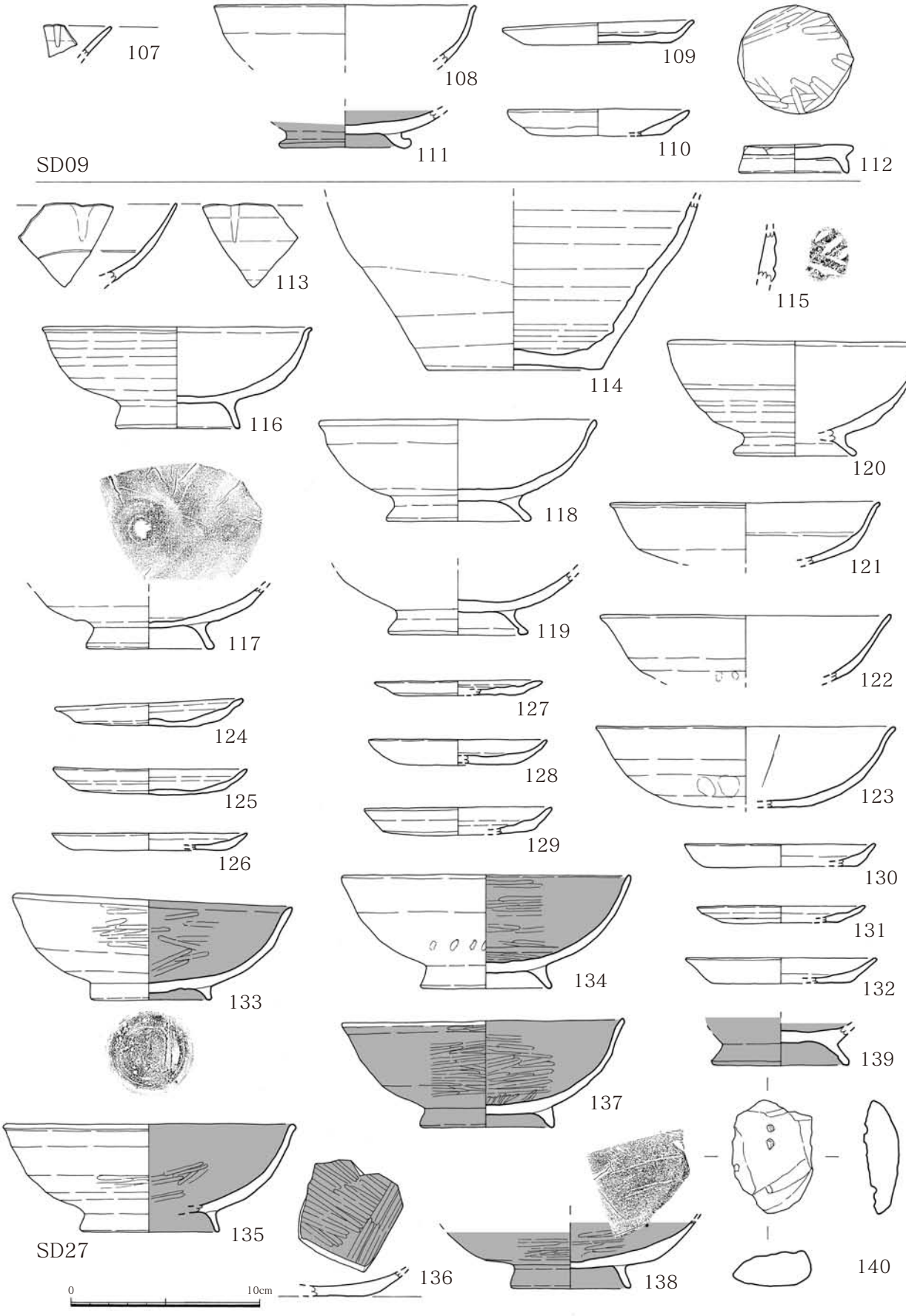
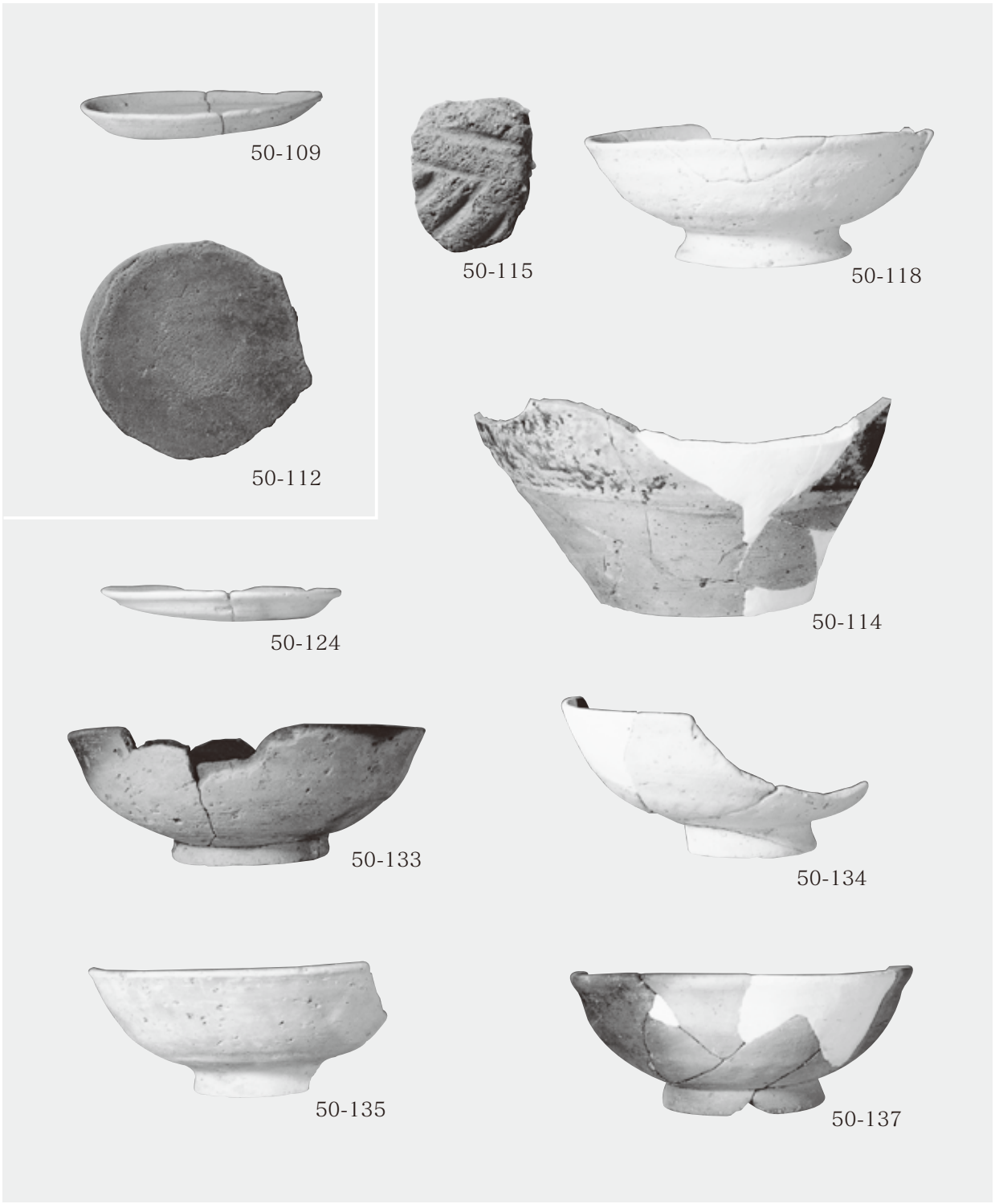


Fig.50　SD09･27出土遺物実測図(1/3)

SK05(Fig.47 Ph.74)K34グリッドに位置する大型の土壙で、2.3×1.28m・深さ20cmの沓形、遺物が少量出土する。

出土遺物(Fig.48)**97**は輪花白磁皿口縁。水色がかった透明釉で胎土灰白色。**98**は土師甕口縁。鈍い橙色。**99・100**は黒色土器A類埦。**99**は底径7.2cm。外橙内灰黒色。**100**は底径6cm。外鈍い黄橙内黒色。他にⅤ類碗・土師器坏・埦等が出土する。11世紀後半～12世紀初。

SK06(Fig.47 Ph.75)SK05の東に隣接する大型の土壙で、3.3＋α×3.7m・深さ12cmの浅い円形で遺物が少量出土する。



Ph.82　SD出土中世遺物

出土遺物(Fig.48)**101**はヘラ切りの土師器皿。浅黄橙色。**102**は黒色土器B類碗。灰黒色。他に土師器坏･甕･石鍋が出土する。11世紀後半～ 12世紀初。

SK10(Fig.47)中央東ののJ36グリッドに位置、1.3×0.9＋αm･深さ5㎝の浅い円形土壙でSD09を切る。遺物が少量出土する。

出土遺物(Fig.48)**103**は土師器埦。底径6.6㎝。内外面回転ナデ。鈍い黄橙色。他に坏･甕･黒色土器A･B埦が出土する。12世紀初。

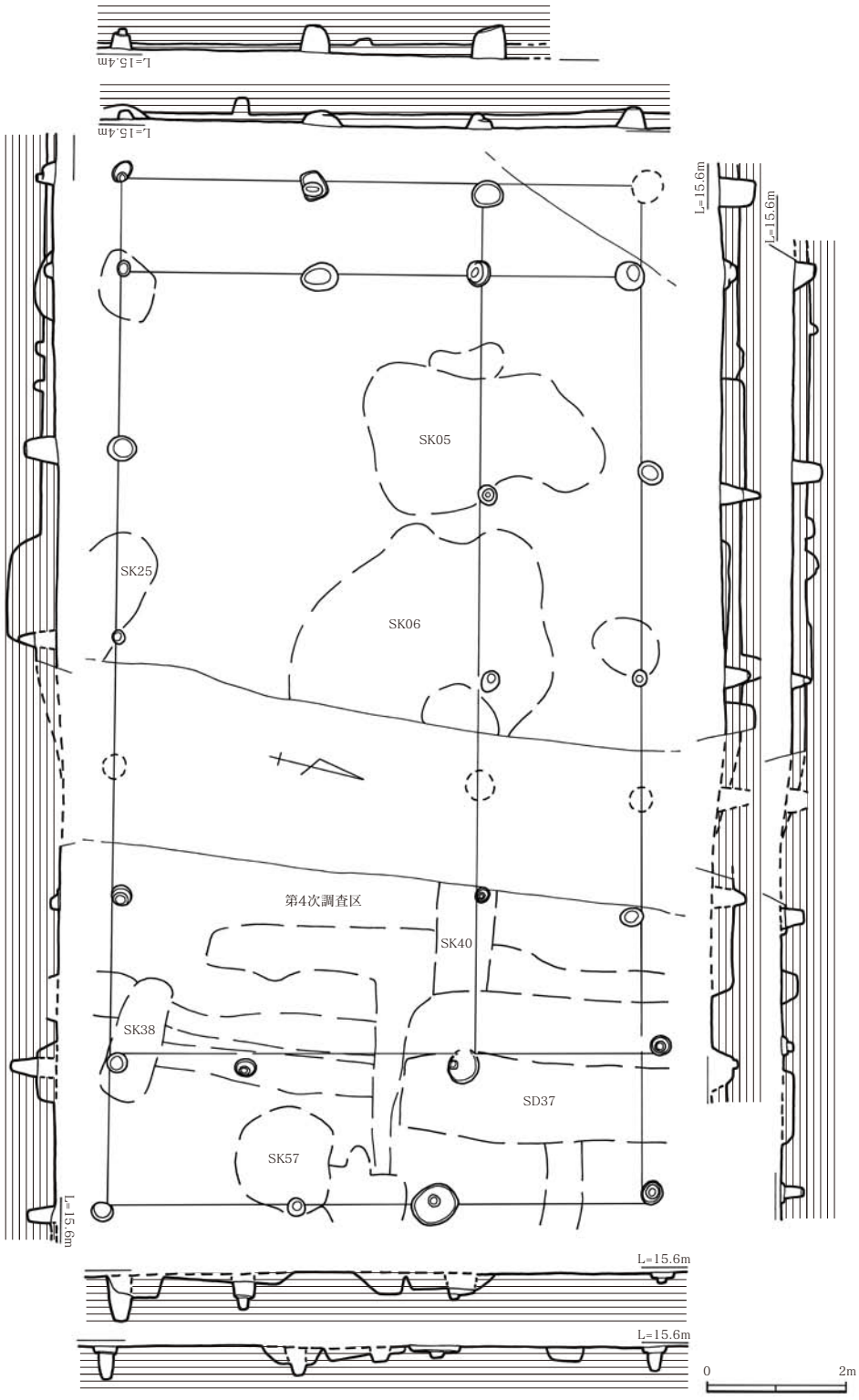


Fig.51　SB01実測図(1/100)

SK28(Fig.47)調査区南部L39グリッドに位置する。2.47×0.92m･深さ8㎝の浅い長方形土壙で暗褐色土が堆積する。遺物は土師器埦･坏黒色土器A類埦が出土する。11世紀後半。

②井戸　調査区南部で2基検出した。

SE15(Fig.47 Ph.75)M39グリッドに位置する。0.98×1.0m･深さ1.55mの円形素堀の井戸で砂礫層まで掘削する。井筒の痕跡は無い。

出土遺物(Fig.48)**104**は黒色A類埦。口径14.8㎝。外鈍い黄橙色無い灰褐色。他に土師器坏･皿･黒色土器B類埦が出土する。11世紀後半。

SE26(Fig.47 Ph.77･78)調査区南端K40グリッドに位置する。1.17×1.15m･深さ0.9mの円形素堀の井戸で、下面に細砂が堆積する。

出土遺物(Fig.48)**105**は越州窯系青磁碗。オリ-ブ灰色透明釉に胎土は灰色。**106**は土師器埦。口径16㎝。内外面回転ナデ浅黄橙色。他にSD27と同個体の陶器等が出土。11世紀末～ 12世紀初。

③溝　調査区南東部で5条検出した。大部分は地形に直交する。

SD09(Fig.49 Ph.79)中央東部J36グリッドに位置する。幅1.1ｍ深さ25㎝の溝で、4次調査区SD30と同一。底面から5㎝以上に炭灰が厚く堆積。

出土遺物(Fig.50)**107**は輪花青白磁碗。淡青色透明釉で胎土は灰白色。**108 ～ 110**は土師器。**108**は口径14㎝。浅黄橙色。**109**は完形･口径10.2器高1.3㎝。ヘラ切りで板圧痕。浅黄橙色。**110**は口径9.8器高1.4㎝。浅黄橙色。**111**は黒色土器B類埦。底径7㎝。灰黒色。**112**は黒色土器B類埦の瓦玉。径6厚1.4㎝。打ち欠き。11世紀末～ 12世紀初。

SD27(Fig.49 Ph.80･81)調査区南端東部に位置し西流する。幅0.9ｍ深さ30㎝の溝で、4次調査区SD16と同一。底面に粘質土、以上に暗灰褐色砂質土が堆積し多くの遺物を包含する。

出土遺物(Fig.50 Ph.82)**113**は輪花白磁碗。透明釉で胎土は灰白色。**114**は陶器甕底部。灰白～灰

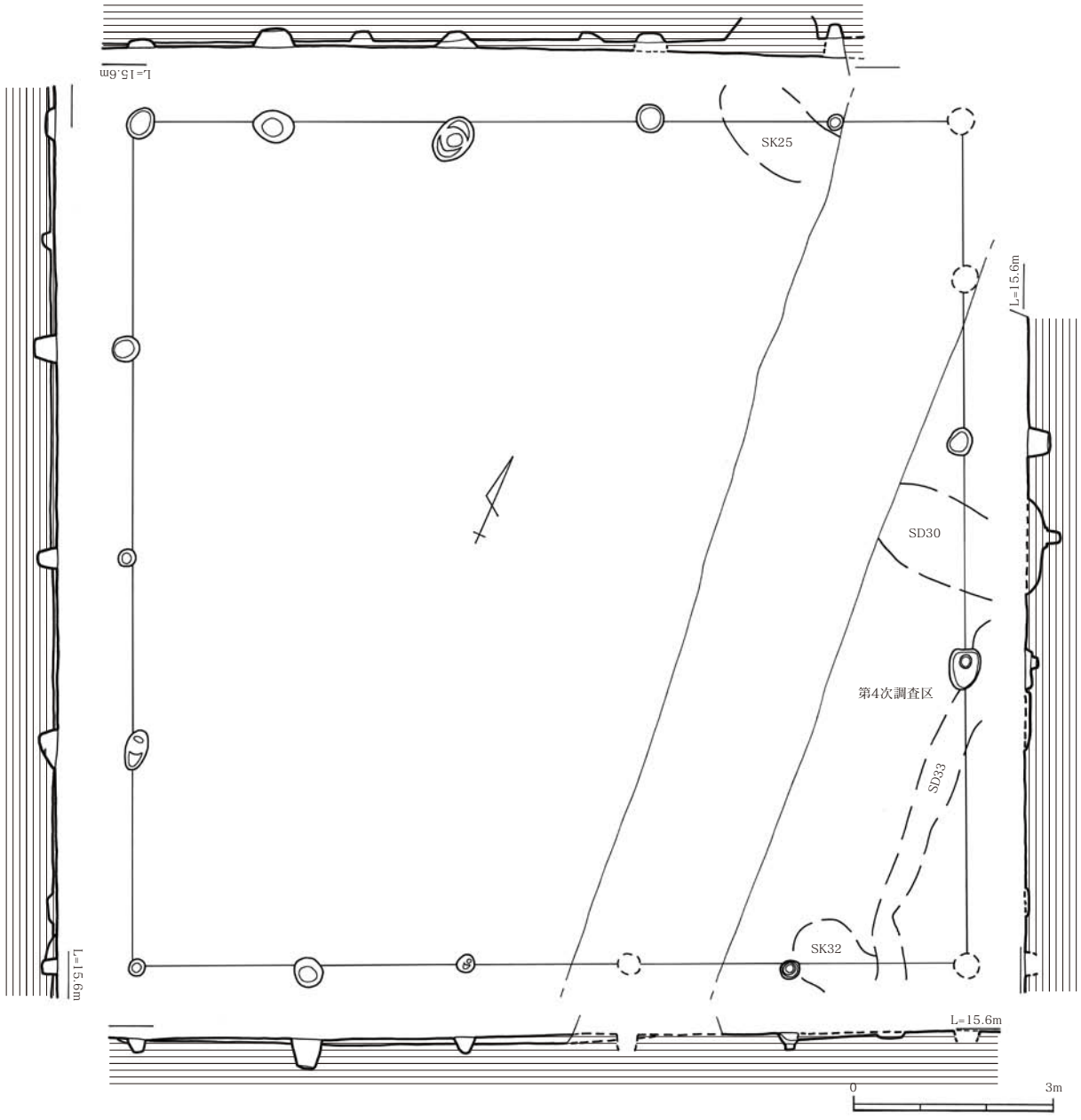


Fig.52　SB03実測図(1/100)

オリーブの不透明釉を内面から外面下位まで施釉。露胎部褐色。**115**は玄界灘式製塩土器片。外面平行叩き。橙色。**116 ～ 132**は土師器。**116 ～ 120**は埦。浅黄橙色。**116**は口径14.2器高5.4㎝。**117**は底径6.8㎝。内底に「×」のヘラ記号。**118**は口径14.8器高5.4㎝。**119**は底径7.4㎝。120は口径13.6器高6.6㎝。**121 ～ 123**は丸底坏。浅黄橙～鈍い黄橙色。121は口径14.4㎝。**122**は口径15.4㎝。**123**は口径16器高4.3㎝。内面ヘラ当て痕。**124 ～ 129**は皿。ヘラ切りで浅黄橙～鈍い黄

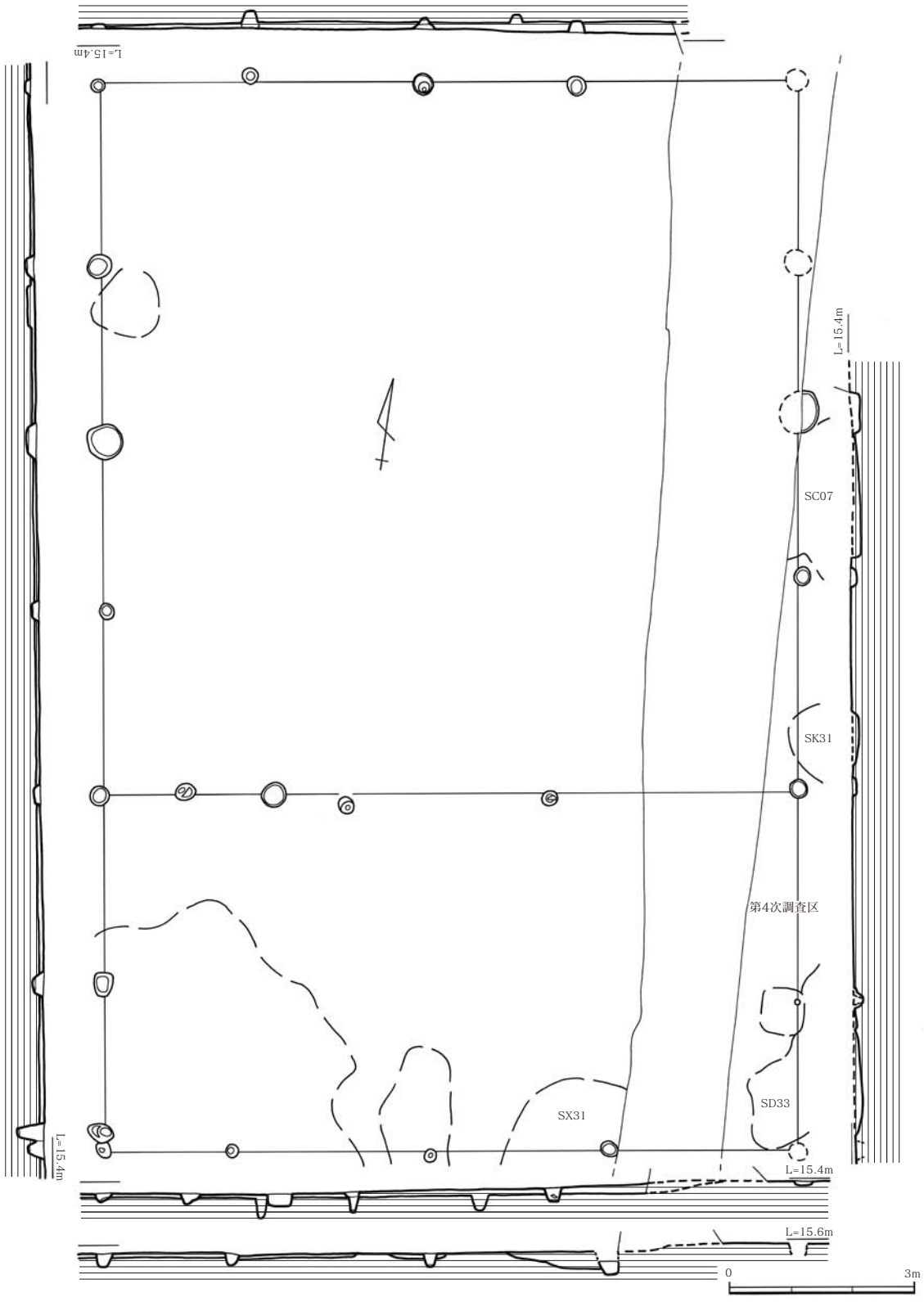


Fig.53　SB04実測図(1/100)

橙色。**124**は口径10器高1.5㎝。**125**は口径10.2器高1.4㎝。**126**は口径10.4器高0.9㎝。**127**は口径9器高0.8㎝。**128**は口径9.4器高1.4㎝。**129**は口径10器高1.4㎝。**130**は口径10.2器高1.2㎝。**131**は口径9器高0.9㎝。**132**は口径10.2器高1.4㎝。**133 ～ 136**は黒色土器A類。**133**は口径14.9器高5.7㎝。外面下半ヘラ削り。外鈍い黄橙内黒色。**134**は口径15.4器高6㎝。外面回転ナデ腰部にヘラ当て痕。外淺黄橙内灰黒色。**135**は口径15.6器高5.8㎝。外面回転ナデ一部ケンマ。外橙内灰黒色**136**は坏。外面回転ナデ内面ケンマ。外淺黄橙内黒色。**137 ～ 139**は黒色土器B類。137は口径15器高5.8㎝。鈍い黄橙～灰黒色。**138**は底径6.4㎝。鈍い橙～黒色。**139**は底径7.4㎝。灰黄褐色。**140**は椀形滓。6×4.2×1.9㎝。上面に気泡･木炭痕。11世紀末～ 12世紀初。

④.掘立柱建物　掘立柱建物は東寄りに、第4次調査区にわたって9棟確認した。場内反転調査と期間の問題から現地では確認できておらず、いずれも調査後の図上操作による。全て側柱建物である。

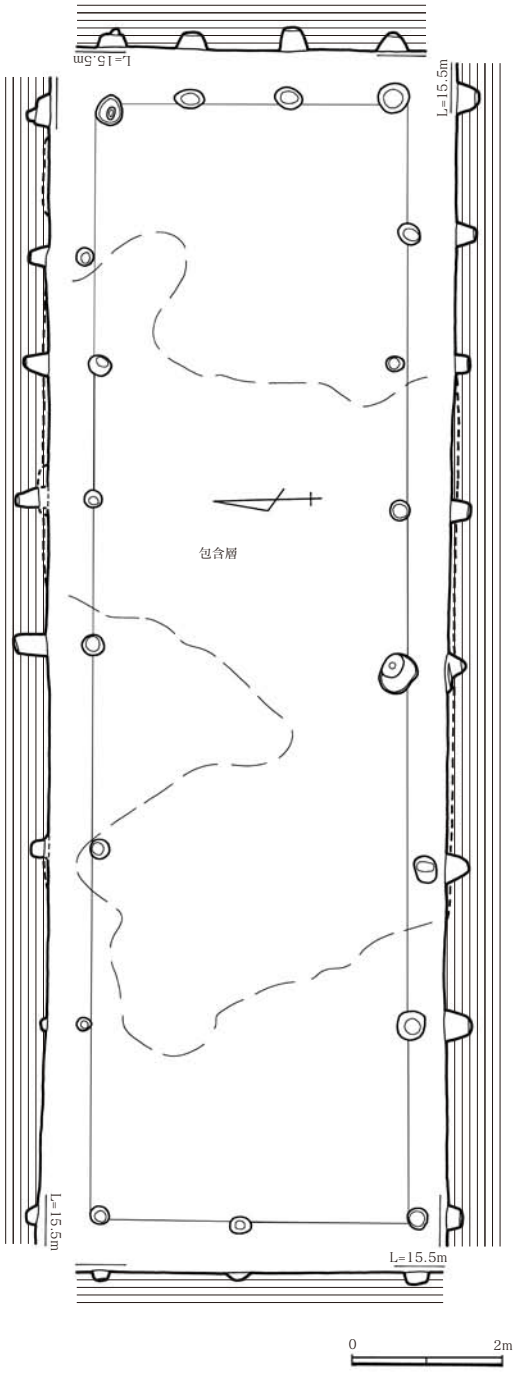


Fig.54　SB06実測図(1/100)

SB01(Fig.51)調査区北部に位置しSB02と切り合う。3×7間の3面庇建物で7.5×14.8m、身舎で2×5間5.2×11.3m。棟はN―78˚―E。東側の庇は身舎の北桁行と柱筋が合わず後の増築か。

出土遺物(Fig.56)**141**は外面腰にヘラ当て痕を残す土師器埦。底径7.2㎝。浅黄橙色。**142**は口径10器高1.1㎝の土師皿。浅黄橙色。他に土師器坏･黒色土器A･B類出土。11世紀末～ 12世紀初。

SB02(Fig.55)SB01と切り合いSK05･06を切る1×3間の長屋建物で2.7×6.8m。棟はN―59˚―E。

出土遺物(Fig.56)**143**は白磁碗。やや青味がかった透明釉で胎は灰白色。**144**は黒色土器B類埦。口径15.4㎝。黒色。**145**は土師器坏皿底部の瓦玉。径3.3厚0.3㎝。周縁打ち欠き。11世紀後半。

SB03(Fig.52)調査区中央東に位置しSB04と切り合い4次SD30に切られる4×5間の建物で12.5×12.3m。棟はN―67˚―E。遺物は土師器埦･黒色土器B類出土。11世紀後半か。

SB04(Fig.52)調査区中央東に位置しSB03･05･06と切り合う4×6間の建物で11.2×17.3m。南から2間目に間仕切りをとり、棟はN―9˚―W。

出土遺物(Fig.56)**146**は土師器碗。口径14.6器高4.6㎝。内外面回転ナデ･ヘラナデ。外鈍い褐内鈍い黄橙色。他に土師器皿･黒色土器B類出土。11世紀末～ 12世紀初か。

SB05(Fig.55)調査区南部中央に位置しSB04･06･07と切り合う3×5間の1面庇建物で5.8×12.1m、身舎で2×5間4.0×12.1mを測り、棟はN―52˚―E。遺物は黒色土器B類を出土。11世紀後半か。

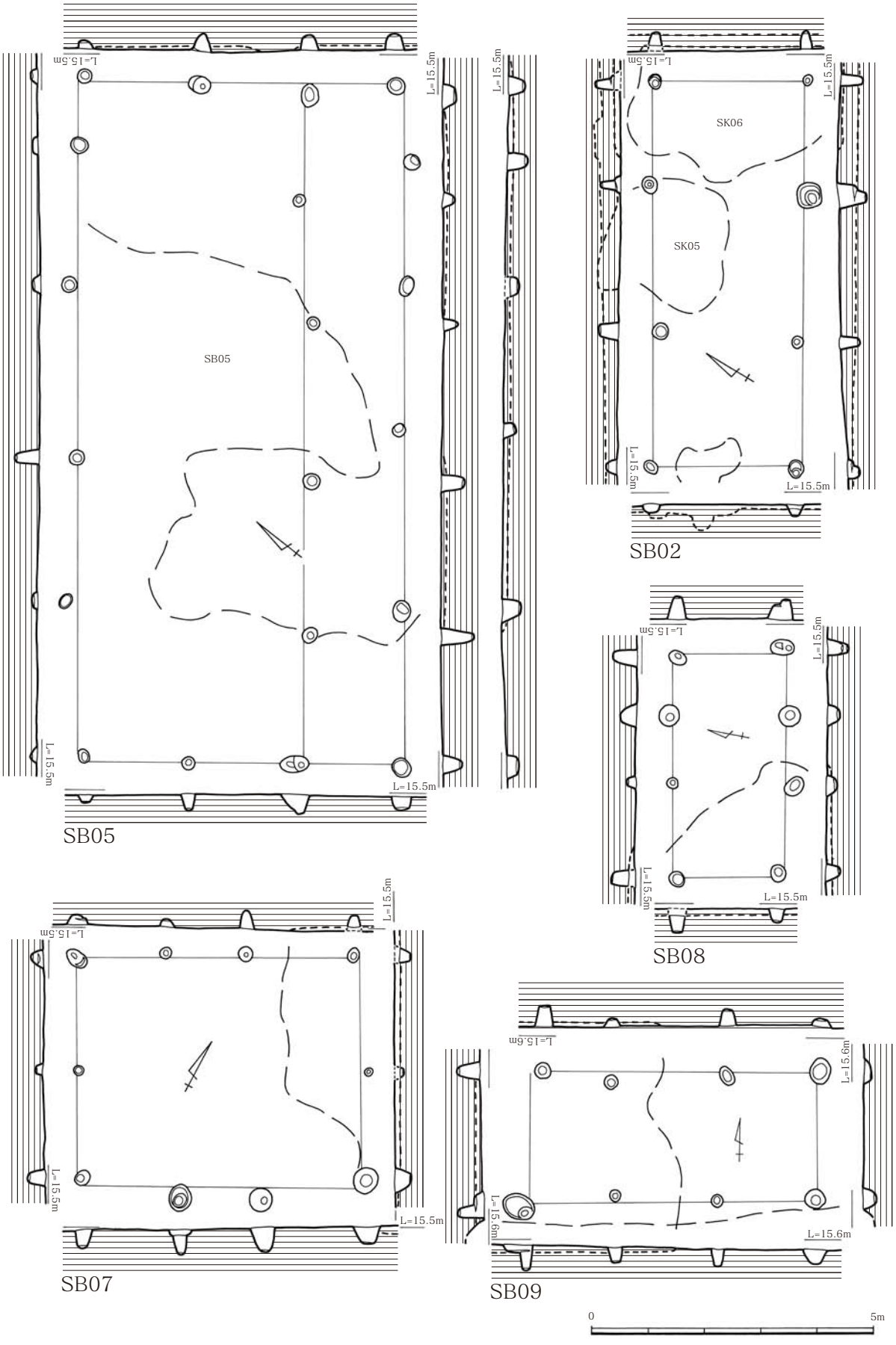


Fig.55　SB02･05･07･08･09実測図(1/100)

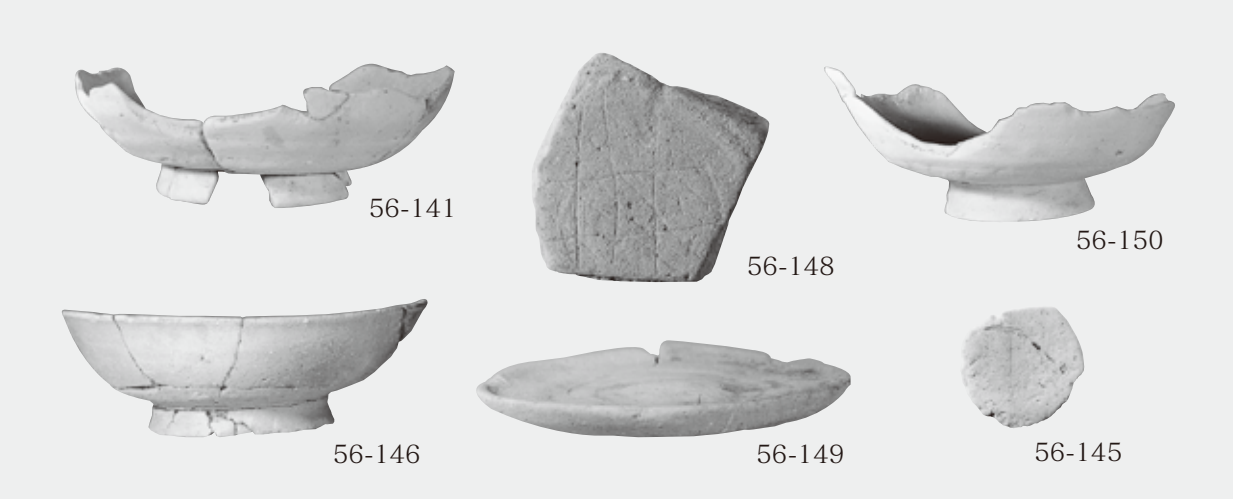
SB06(Fig.54)調査区南部中央に位置しSB04･05･07･09と切り合う2×7間の長屋建物で4.2×14.8m。棟はN―87°―E。遺物は土師器坏･黒色土器A類出土。11世紀末～12世紀初か。

SB07(Fig.55)調査区南西に位置しSB05･06･08と切り合う2×3間の建物で4.1×5.0m。棟はN―63°―E。柱間は桁行1.5～1.8梁間2.0～2.1mと梁間が広い。堀方は円形で径20～45深さ15～40㎝を測る。遺物は土師器･黒色土器A･B類を出土。11世紀代。

SB08(Fig.55)調査区南端西部に位置しSB07と切り合う1×3間の長屋建物で2.0×4.0m。棟はN―78°―E。柱間は桁行1.0～1.6梁間2.0mと梁間が広い。遺物は土師を出土。11世紀代。

SB09(Fig.55)調査区南端東部に位置しSB06と切り合う1×3間の長屋建物で2.3×5.1m。棟はN―89°―E。柱間は桁行1.5～2.0梁間2.3m。遺物は縄文土器が混入。11世紀代。

柱穴他出土遺物(Fig.56)**147･148**は土師器埦。底にヘラ記号。**149**は土師器皿。**150**は土師器埦。**151**は土師質鍋。**152**は白磁Ⅳ類碗。**153**は砂岩製石球。敲打後丁寧に磨って成形。径38～39㎜ 73g。



Ph.83　SP他出土中世遺物

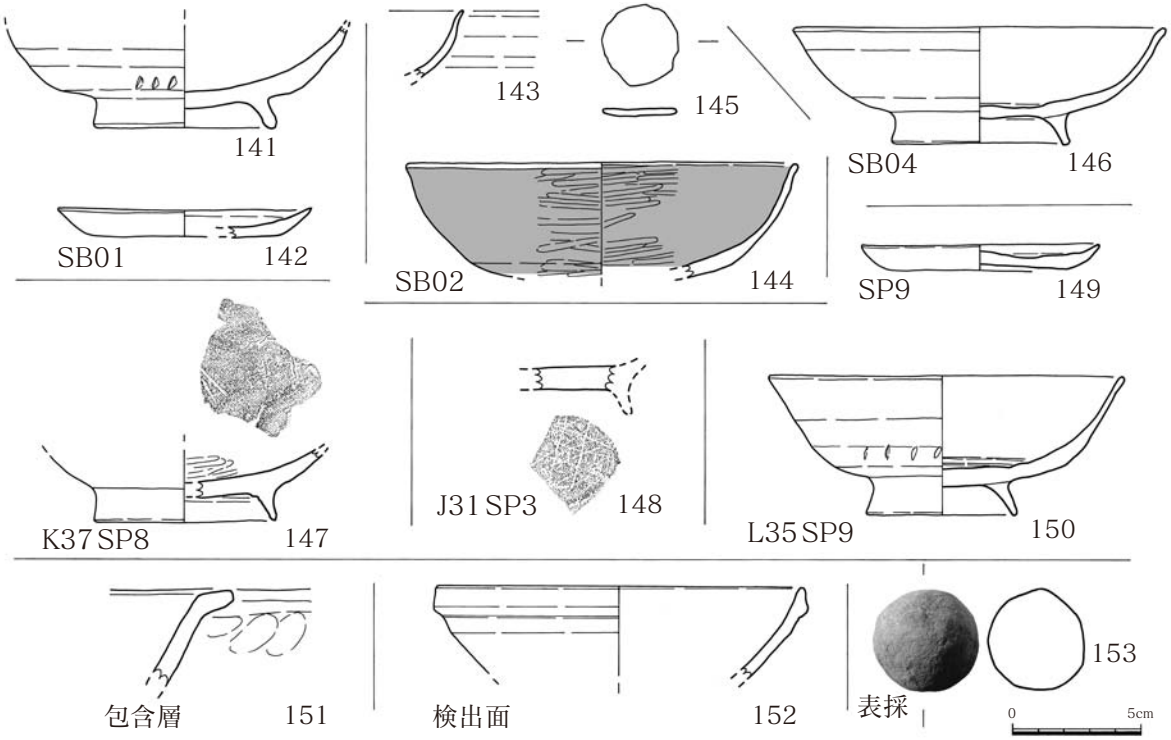


Fig.56　SB01･02･04･柱穴他出土遺物実測図(1/3)

Ⅳ.小結

調査の結果、旧石器･縄文時代は遺構から遊離した状態では細石器文化期･縄文早期･中期･晩期夜臼式まで採集されるが量は少ない。遺構は晩期黒川式期が中心で、1区で土壙3基･不整形土壙4基･溝2条を検出、2区で土壙1基･不整形土壙1基、3区で土壙2基、内SK01は早期中頃で遺跡内最古期の遺構となる。中心となるのは4区の晩期包含層下の黒川式期の土壙11基･倒木痕1基･掘立柱建物1棟他柱穴多数で、4次調査区から広がる灰褐色包含層が厚く堆積し遺構を保護したもので、土壙内からは良好な状態で遺物が多数検出された。竪穴住居は検出されず、多数の柱穴が北東方向に並ぶ傾向にあり、平地式住居の多数の重複の可能性も考えられ、遺跡内黒川式期集落の中心地となる。

弥生時代はさらに少なく、1区北東部と南西部で、前期末～中期前半を中心とした土壙SK55･60の2基･溝6条を検出した。溝は南西のSD06･63と北東のSD53･58が西に弧を描いて環溝状に配置されており、これは古墳～中世まで踏襲される。1区と2区の間に幅広い自然流路が東西に流れて遺跡を分断していることが21次調査で確認されており、北方の4･17･20次調査区･2 ～ 4区が立地する微高地の環溝とは別の集落が形成されている。

古墳時代は1区で弥生時代に重複し北東部と南西部に分布し、前期初頭～後期のSD01と54の溝2条のみで遺構は最も少ない。2区では同期の可能性が高い小型建物SB01、3区では4次調査区から延びる自然流路SD02が検出される。4次調査弥生時代の溝SD01は4区では検出されず、内湾して02に連なる可能性がある。

中世初期は本調査の中心となる時期で、1区で調査区中～南部の西に弧を描く溝を中心に分布し、11世紀代の土壙14基･溝24条･掘立柱建物7棟･井戸2基と集落の体を成している。殊に黒色土器･瓦器焼成関連遺物を廃棄した11世紀末～初頭の土壙SK15･16･23･SD11･12と長屋建物SB02･03と倉庫SB01は同方向で計画的に配置された土器工房と考えられ、4区のSD27とSB06も同様と考えられる。また4次調査区B区の、溝に囲まれ土壙を内部に取り込む側柱建物SB22･23も工房と考えられている。また、土器焼成関連遺物では多量の窯壁と土器焼成台･破裂剥片･焼損土器が検出されている。窯壁はSK16を中心に多量に出土した。厚さ8㎝以上の多量のスサ･砂礫混合の灰白粘土の内側に2㎝程真土を塗り上げて仕上げており、スサ粘土の外側は生の状態である。焼成部上の開口部と解る破片があり、内径70 ～ 75㎝で焼成部から緩く外方に開く。これは地下式の「煙管雁首」型の土器焼成窯の形態と一致する。土器焼成台は本調査区の他、5次調査区SK20･SX28･SE02から検出され、殊にSK20からはほぼ完形品も含めまとまって出土しており瓦質に焼成されたものが多数を占める。断面円形と本例同様の方形の2種が出土している。少なくとも遺跡内では2箇所の土器工房が存在する。他遺跡に比べ黒色土器･瓦器の比率が高く、11世紀後半～ 12世紀初めにかけての土器生産拠点としての様相も明らかとなってきた。4次調査C区の建物SB07の南に並んだSK05･06からは灰･焼土･炭化物が多量に廃棄されておりこれも関連する可能性がある。

2区では同期の土壙4基･焼土壙1基･溝3条･掘立柱建物1棟、3区で掘立柱建物2棟と集落が広がり、4区では第4次調査区から広がる縄文包含層上面を中心に、周辺で最大規模の5 ～ 7間の側柱建物5棟を含む建物9棟と土壙12基･井戸2基･溝5条･他柱穴多数を検出し、殊に柱穴の多さ･建物の規模は4次調査区を凌駕し、遺跡の中枢域とされる5次調査区の大型建物規模をも大きく凌いでおり、集落内でも別格の建物群としてとらえる必要がある。

1区遺構一覧表

建物番号	グリッド	時期	規模 縦×横(間)・縦×横(m)	種別	方位	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SB01	AA80	11世紀末～12世紀初頭	2×2(3.8×4.0)	総柱	N－78°－E		SD01・14を切る	42	21
SB02	AA78	11世紀末～12世紀初頭	5×2(7.35×2.4)	側柱	N－80°－E	土師器・黒色土器B・土器焼成台	長屋　SD02を切る	42	21
SB03	AA77	11世紀末～12世紀初頭	4×2(7.3×2.35)	側柱	N－77°－E	土師器皿・黒色土器B埦	長屋　SD02・14を切る	42	21
SB04	X72	11世紀末～12世紀初頭	3×2(4×2.65)	側柱	N－73°－E	土師器皿・黒色土器A・B埦		44	22
SB05	X71	11世紀末～12世紀初頭	1×2(2.6×4.3)	側柱	N－75°－E	土師器・黒色土器B	1面庇　SD02を切る	44	22
SB06	V71	11世紀末～12世紀初頭	3×3＋α(4.2×4.15＋α)	側柱	N－85°－E	土師器(埦・皿)・黒色土器A埦	SD34を切る	44	22
SB07	V70	11世紀末～12世紀初頭	2×1(2.1×3.6)	側柱	N－73°－E	土師器坏・黒色土器	SD40を切る	44	22

土壙番号	グリッド	時期	規模 縦×横×深さ(m)	平面形	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SK15	AA79	11世紀末～12世紀初頭	1.6×1.3×0.1	円形	土師器(埦・坏・皿)・黒色土器A埦・黒色土器B(埦・皿)・瓦器埦・窯壁	土器焼成関連	13～15	11
SK16	AA78	11世紀末～12世紀初頭	2.06×0.86×0.3	隅丸長方形	土師器(埦・坏・皿)・黒色土器A埦・黒色土器B(埦・皿)・瓦器埦・焼成台・窯壁	土器焼成関連	16～21	11
SK23	AB77	11世紀末～12世紀初頭	1.43×0.6×0.06	隅丸長方形	土師器坏・黒色土器A・B埦・瓦器(埦・・皿甕)・窯壁	土器焼成関連　SD14を切る	22～24	11
SK24	X73	11世紀末～12世紀初頭	1.83×1.33×0.06	円形	土師器(杯)・黒色土器B(椀)・瓦器埦・+G28弥生土器		29	17
SK25	V72	縄文晩期	1.05×0.92×0.05	円形	粗製(深鉢)・ob(fl)・土師器・黒色土器A・B		5	5
SK26	AA74	11世紀			土師器(杯)・弥生土器			
SK27	Z74	古代	2.0×0.8×0.25	溝状	土師器(椀)			
SK28	Z74	11世紀	1.48＋α×1.2×0.12	溝状	土師器・黒色土器B・瓦器			
SK29	Z74	11世紀後半	3.74×1.85×0.95	不整形	土師器(椀)・黒色土器B(椀)・粗製(深鉢)・叩石			17
SK30	W73	11世紀末～12世紀初頭	2.87×1.04×0.05	不整形	土師器(坏・椀)・黒色土器(椀)・瓦器(椀)・高麗無釉陶器			17
SK35	U70	11世紀	1.08×0.6×0.07	楕円	土師器・黒色土器A			
SK37	W72	平安	1.8×0.7×0.3	楕円	土師器(杯)			
SK38	X72	縄文晩期(黒川)	5.08×2.88×0.2	長台形	粗製・ob(錐)	SB04に切られる		5
SK49	V72	11世紀中頃～末	1.4×1.12×0.05	不整形	越州窯系青(碗)・土師器(坏)・黒色土器B(椀)			17
SK55	V55	古墳？	1.5×1.25×0.45	円形				
SK56	T65	縄文晩期？	1.25×0.98×0.14	杏形	粗製			
SK60	T65	？	1.1×0.98×0.56	隅丸方形				

井戸番号	グリッド	時期	規模 縦×横×深さ(m)	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SE52	X69	11世紀中頃～12世紀前半	2.43×2.35×1.3	白磁(碗・壷)・陶器(甕)・土師器(坏・皿)・石鍋・砥石他		33～37	19
SE62	U66	11世紀末～12世紀初頭	1.26×1.18×0.98	土師器(杯)・黒色土器A(椀)・瓦器？(壷)		38	19

溝番号	グリッド	時期	規模 幅×深さ(m)	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SD01	AC78～AA84	古墳初頭～7世紀前半	3.05×0.4	土師器(甘・甕)・須恵器(坏)・弥生土器他	SD06・14を切る	11・12	9
SD02	Y79～AB83	11世紀中頃	2.7×0.3	土師器(坏・甕)・弥生土器・縄文晩期土器	SD01を切る	32	17
SD03	AA81～AA83	11世紀中頃？	2.3×0.15	土師器～縄文晩期土器		30	17
SD04	AA84	11世紀？	2.2×0.16	土師器(杯)・弥生土器			
SD05	Y82～Y84	11世紀？	0.6×0.15	土師器(坏)			
SD06	Y82～Y84	弥生中期前半	1.8×0.5	弥生土器(壷・甕)・縄文晩期土器他		8・9	7
SD07	W75～AB81	11世紀後半	0.4×0.15	土師器(杯)・黒色土器B(椀)・弥生土器・縄文晩期土器他	SD02を切る	31	17
SD08	AA78～Z81	近世	1.3×0.1	肥前系陶器(鉢)・肥前系白磁(碗)他	SD02・07・10を切る		
SD09	AA78～Z81	近世	0.5×0.15	肥前系陶器(碗)・土師器・弥生土器・縄文晩期土器			
SD11	Y81	11世紀末～12世紀初頭	0.66×0.1	瓦器(椀)・窯壁	土器焼成関連	26	11
SD12	Y79～Y80	11世紀末～12世紀初頭	0.7×0.14	土師器(坏・皿・椀)・黒色土器A・B(椀・坏)・瓦器・窯壁	土器焼成関連　糸切り・SD13を切る	27	11
SD13	Y79	縄文晩期	0.4×0.25	粗製			
SD14	AA74～AB79	11世紀中頃	2.6×0.4	土師器(坏・甕)・黒色土器B(椀)・縄文晩期土器	SD06と同一か	33	17
SD17	Y78	弥生？	0.98×0.11	弥生土器？(甕)			
SD18	Y78	縄文晩期？	1.15×0.15	粗製(深鉢)			
SD19	AA73～AA74	近代	0.2×0.25	肥前染付(碗)・土師器・土製品(おはじき)			
SD31	V71	11世紀？	0.3×0.2	土師器(坏・甕)	SD34を切る		
SD32	V71	11世紀？	0.3×0.12	土師器(坏・甕)	SD31を切る		
SD33	U70～U71	11世紀？	0.2×0.08	土師器(坏・椀)	SD34を切る		
SD34	V71～W71	11世紀後半	0.5×0.15	土師器(坏・甕)・黒色土器A・B(椀)	SD36を切る	34	17
SD36	W71	11世紀？	2.0×+D680.2	土師器(坏・甕)・黒色土器A・B(椀)・須恵器			
SD39	V70～W71	11世紀後半	2.6×0.15	土師器(坏・椀・甕)・黒色土器A・B・石鍋	SD36・45を切る	34	17
SD40	U70～V70	11世紀後半	0.39×0.15	土師器(坏・椀・甕)・黒色土器A・B(坏・椀)	SD43・45・46を切る	34	17
SD41	T69	12世紀前半	0.8×0.17	土師器(坏・皿)・黒色土器A・弥生土器	畑畝溝かSD33と同一か？		
SD42	U69	11世紀中頃～後半	1×1.3	土師器坏	畑畝溝か		
SD43	U69	11世紀中頃～後半	0.3×0.12	土師器	畑畝溝かSD40に切られる		
SD44	U69	11世紀中頃～後半	0.3×0.05	土師器	畑畝溝か		
SD45	U69～U70	11世紀中頃～後半	0.7×0.15	土師器(坏)・黒色土器B(椀)	畑畝溝かSD39・40に切られる		
SD46	V 7 0	11世紀中頃～後半	1.1×0.07	土師器(坏)・黒色土器B	畑畝溝かSD40・SB07に切られる		
SD47	V 7 0	11世紀中頃～後半	0.8×0.2	土師器・黒色土器A	畑畝溝かSB07に切られる		
SD48	V 7 0	11世紀中頃～後半	0.3×0.28	土師器(高坏)			
SD53	T64～T65	弥生中期後半	2.1×0.35	弥生土器(器台)・土師器・叩石			7
SD54	S64～U65	古墳？	0.6×0.25	弥生土器(器台・甕)	SD53・57を切る		
SD57	S65	弥生前期末～中期	0.33×0.2	磨製石斧	SD58を切る		7
SD58	S65	弥生	0.79×0.2	弥生土器			7
SD59	S65	縄文晩期～弥生前期	0.7×0.34	サヌカイト(ufl)			5
SD61	X68	近世	0.3×+D840.15	縄文晩期？			
SD63	AA75～AA77	11世紀中頃	0.9×0.25	土師器	SD14に切られる		17

その他番号	グリッド	時期	規模 縦×横×深さ(m)	平面形	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SX10	Z81	12世紀初？	3.85×1.5＋α×0.24	不整形	土師器(坏)・瓦器？			19
SX20	Y75	縄文晩期	6.5×2.04×0.3	不整形	粗製(深鉢)	SD02に切られる		5
SX21	AB75	縄文晩期黒川式期	1.72×0.8×0.26	不整形	粗製(深鉢)			5
SX22	AB75	縄文晩期	5.10×0.76＋α×0.37	不整形	粗製(深鉢)・サヌカイト(fl)		6	5
SX50	Y66	縄文晩期	6.1×2.7×0.15	不整形	粗製(深鉢)	SE52に切られる		
SX51	W65	11世紀	3.75＋α×2.7×0.55	不整形	土師器	包含層か？		

2区遺構一覧表

建物番号	グリッド	時期	規模 縦×横(間)・縦×横(m)	種別	方位	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SB01	S53	古墳時代？	1×2(1.43×1.74)	側柱	N−62°−W				28
SB02	Q50	11世紀	3×2＋α(5.9×2.6＋α)	側柱	N−87°−W				30

土壙番号	グリッド	時期	規模 縦×横×深さ(m)	平面形	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SK01	Q49	11世紀末～ 12世紀初頭	1.38＋α1.99×0.88	円形	土師器(坏・椀)・黒色土器A・B(椀)		50	29
SK05	R56	11世紀	1.61×0.98×0.14	円形	須恵器(坏・甕)・土師器(坏)・黒色土器A・B(椀)		52	29
SK06	R56	11世紀？	1.2×0.9×0.12	隅丸台形	土師器(坏・甕)		53	29
SK07	R56	11世紀？	0.8＋α×0.9×0.12	長台形	土師器(坏・甕)		51	29
SK08	R56	11世紀	1.57×1.1×0.15	杏形	土師器(坏)			29
SK09	Q49	縄文晩期？	1.54×0.96＋α×0.60	隅丸方形	ｏｂ(ｆ１)			28

溝番号	グリッド	時期	規模 幅×深さ(m)	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SD02	R51 ～ S57	11世紀	2.4×0.35	須恵器(甕)・土師器(坏・甕)・黒色土器A・B(椀)・鉄滓	SK07を切る		29
SD03	S56 ～ S57	古墳後期	0.6	須恵器(甕)・土師器	SD02を切る		29
SD04	S52 ～ S55	11世紀？	0.3	土師器			29

その他番号	グリッド	時期	規模 縦×横×深さ(m)	平面形	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SX10	R51	縄文晩期？	1.8×1.0＋α×0.3	不整形	粗製(条痕文)	包含層？		28

3区遺構一覧表

建物番号	グリッド	時期	規模 縦×横(間)・縦×横(m)	種別	方位	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SB01	P58	11 世紀	2×1 ＋α (2.5×0.35 ＋α)	側柱	N − 64°− W				33
SB02	P55	11 世紀	3×1 ＋α (4.3×1.65 ＋α)	側柱	N − 81°− E				33

土壙番号	グリッド	時期	規模 縦×横×深さ(m)	平面形	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SK01	O53	縄文早期中頃	1.7×1.2 ＋α ×0.33	隅丸方形	縄文土器(楕円押型)		60	33
SK03	P56	縄文晩期	1.22×0.82×0.68	円形	ob(fl)			33

溝番号	グリッド	時期	規模 幅×深さ(m)	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SD02	N52 ～ N53	弥生終末？	5.3×0.15	弥生土器(甕)		61	33

4区遺構一覧表

建物番号	グリッド	時期	規模 縦×横(間)・縦×横(m)	種別	方位	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SB01	J34	11世紀末～12世紀初	7×3(14.8×7.5)	側柱	N－78°－E	土師器坏・黒色土器A埦・B	3面庇		51
SB02	K34	11世紀後半	3×1(6.8×2.7)	側柱	N－59°－E		長屋　SK05・02を切る		55
SB03	J36	11世紀後半？	4×5(12.5×12.3)	側柱	N－67°－E	土師器埦・黒色土器B	4次SD30に切られる		52
SB04	J35	11世紀末～12世紀初	4×6(11.2×17.3)	側柱	N－9°－W	土師器(埦・皿)・黒色土器B	2間間仕切り		53
SB05	L39	11世紀後半？	3×5(5.8×12.1)	側柱	N－52°－E		1面庇		55
SB06	K39	11世紀末～12世紀初？	2×7(4.2×14.8)	側柱+E17	N－87°－E	土師器坏・黒色土器A	長屋		54
SB07	L40	11世紀	2×3(4.1×5.0)	側柱	N－63°－E	土師器・黒色土器A・瓦器			55
SB08	M40	11世紀	1×3(2.0×4.0)	側柱	N－78°－E	土師器			55
SB09	K40	11世紀	1×3(2.3×5.1)	側柱	N－89°－E				55
SB10	K36	縄文晩期前半	3×3(2.×2.45)	側柱	N－42°－E	粗製(深鉢)・精製(浅鉢)・ｏｂ石核)			36

土壙番号	グリッド	時期	規模 縦×横×深さ(m)	平面形	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SK01	J32	11世紀？	1.68×1.68×0.67	円形	土師器(坏・甕)・黒色土器Ａ・Ｂ(坏)	SK19を切る		
SK02	J32	11世紀後半	1.35×1.18×0.42	楕円形	土師器(椀・坏・甕)・黒色土器Ｂ(坏)・石鍋			47
SK03	J32	11世紀？	1.65＋α×1.4×0.52	円形		SK02を切る		
SK04	J35	11世紀？	0.91＋α×0.36＋α×0.65	円形	土師器(坏・甕)・須恵器	SK25を切る		
SK05	K34	11世紀後半～12世紀初	2.3×1.28×0.2	杏形	白磁(Ⅴ類碗・皿)・土師器(坏・椀・甕)・黒色土器Ａ(椀)		74	47
SK06	J34	11世紀後半～12世紀初	3.3＋α×3.7×0.12	円形	白磁・土師器(坏・皿・椀・甕)・黒色土器Ａ(坏)・Ｂ(椀)		75	47
SK07	L36	縄文晩期(黒川)	1.23×1.08×0.40	円形	粗製(条痕文)・ｏｂ(ｕｆｌ・fl)		65	36
SK08	K36	縄文晩期(黒川)	1.35×1.1×0.42	円形	粗製(条痕文)・精製(浅鉢・深鉢)・ｏｂ	SK22を切る	67	36
SK10	J36	12世紀初	1.30×0.9＋α×0.05	円形	土師器(坏・椀・甕)・黒色土器Ａ・Ｂ(椀)	SD09を切る		47
SK11	J36	縄文晩期(黒川)	2.15×0.85＋α×0.55	楕円形	粗製(深鉢)・精製(浅鉢)			
SK13	K38	11世紀？	2.05×2.05×0.21	隅丸台形	土師器(坏)・黒色土器Ｂ(椀)			
SK14	J38	11世紀？	2.5＋α×1.6＋α×0.36	不整形	土師器(坏・椀)・黒色土器Ａ・Ｂ(椀)			
SK16	L35	縄文晩期(黒川)	1.35×1.07×0.40	円形	粗製(深鉢)・精製(浅鉢)・ob(fl)・軽石		69	36
SK17	L35	縄文晩期(黒川)	1.34×0.92×0.22	円形	精製(深鉢)・磨石・ob(fl)			
SK18	K32	中世	2.0＋α×1.1＋α×0.26	円形	土師器(甕？)			
SK19	J32	縄文晩期	0.86×0.4＋α×0.22	円形	ob(石核・fl)			
SK20	L35	縄文晩期	1.3×0.85×0.37	円形	粗製(深鉢)			
SK21	L35	縄文晩期	1.47×0.95＋α×0.28	杏形	粗製(深鉢)	SK20を切る		
SK22	K36	縄文晩期(黒川)	1.37×0.96×0.42	不整形	粗製(深鉢)・精製(浅鉢)			36
SK23	J37	縄文晩期	1.37×0.96×0.42	楕円形	粗製(深鉢)・ob(fl)			
SK24	L38	縄文晩期(黒川)	1.17×0.63×0.26	楕円形	粗製(深鉢)・精製(浅鉢)			36
SK25	J35	縄文晩期	1.7＋α×1.1×0.48	円形	粗製(深鉢)			
SK28	L39	11世紀後半	2.47×0.92×0．０８	長方形	土師器(坏・椀)・黒色土器Ａ(椀)			47

井戸番号	グリッド	時期	規模 縦×横×深さ(m)	平面形	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SE15	M39	11世紀後半	0.98×1.0×1.55	円形	土師器(坏・皿)・黒色土器Ａ・Ｂ(椀)		76	47
SE26	K40	11世紀末～12世紀初	1.17×1.15×0.9	円形	青磁(越碗)・陶器(埋鉢・壷(SD27と同一)・土師器(坏・皿)・黒色土器Ａ・Ｂ(坏・椀)		77・78	47

溝番号	グリッド	時期	規模 幅×深さ(m)	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SD09	J36	11世紀末～12世紀初	1.1×0.25	青白磁(小鉢)・土師器(坏・椀・皿)・黒色土器Ａ・Ｂ(椀)		79	49
SD12	J37	11世紀？	0.4	陶器・土師器(坏・皿)			
SD27	K40～I40	11世紀末～12世紀初	0.9×0.3	白磁(碗)・陶器(壷)・土師器(坏・皿・椀)・黒色土器Ａ・Ｂ(椀)・椀形滓		80・81	49
SD29	K40～j40	11世紀？	0.37	土師器(坏)			
SD30	K39	11世紀？	1.16	土師器(鍋？)			

その他番号	グリッド	時期	規模 縦×横×深さ(m)	平面形	主な出土遺物	備考	写真番号	挿図番号
SX31	I39	縄文晩期	4.2×2.37＋α×0.10	隅丸方形	粗製(深鉢)・ob(ufl)	倒木痕？		

報　告　書　抄　録

ふりがな	たむら							
書名	田村１５							
副書名	田村遺跡第21次調査報告							
巻次	15							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	1031							
編著者名	加藤良彦							
発行機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1-8-1 TEL092-711-4667							
発行年月日	20090331							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
田村遺跡 第21次	福岡市早良区 田村4･5丁目地内	40135	0317	33° 32' 10"	130° 19' 52"	20061108～ 20070427	3,977	市道改築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
田村遺跡	集落	縄文 弥生 古墳 中世	溝･土壙･ 大型建 物･井戸	縄文土器･弥生土器･土師器･須恵器･窯道具･窯壁･貿易陶磁		晩期黒川式期のまとまった遺構遺物･弥生～中世の環溝･中世初期の土器焼成関連遺物の出土		

田村 15

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1031 集

2009 年（平成 21 年 3 月 31 日）

発行　福岡市教育委員会

〒 810-0001 **福岡市中央区天神 1 丁目 8 番 1 号**

印刷　株式会社ゼネラルアサヒ

〒 812-0064 **福岡市東区松田 3 丁目 777 番**